

第2章 調査結果

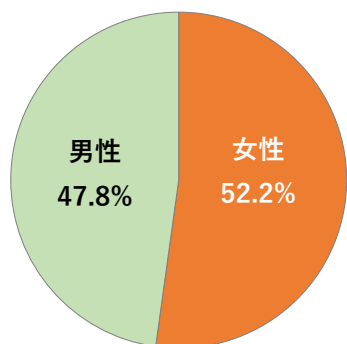
1. 基本属性

第2章 調査結果

1. 基本属性

- 本調査における回答者の基本属性を以下にまとめる。全て回答者本人票(n=6,679)に絞り集計。

(1) 性別

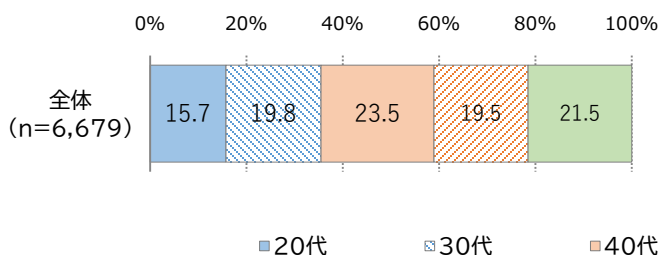


	配偶者と同居	配偶者と同居せず
女性(n=3,193)	1,872人 (58.6%)	1,321人 (41.4%)
男性(n=3,486)	2,222人 (63.7%)	1,264人 (36.3%)

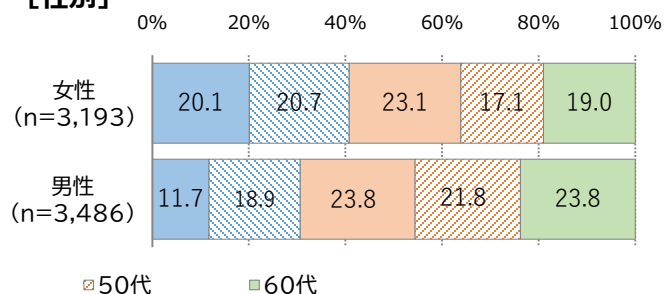
	配偶者の最終回答数
配偶者が女性	2,144人
配偶者が男性	1,748人

(2) 年代

[全体]



[性別]



(3) 居住地

- 都道府県ごとの回収数は以下の通り。

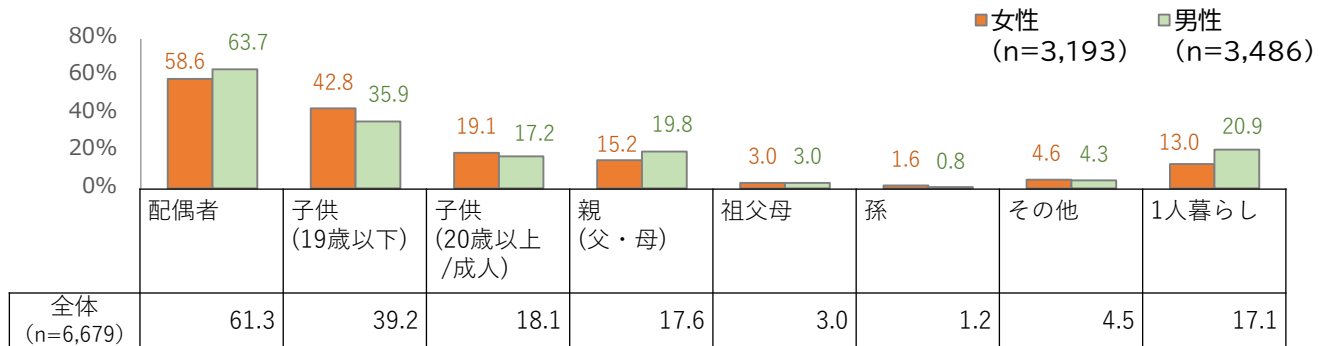
(人)

	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山
全体	345	76	44	116	52	37	68	107	98	75	441	332	887	523	95	50
女性	169	48	17	58	20	16	37	58	43	33	198	154	394	231	56	19
男性	176	28	27	58	32	21	31	49	55	42	243	178	493	292	39	31

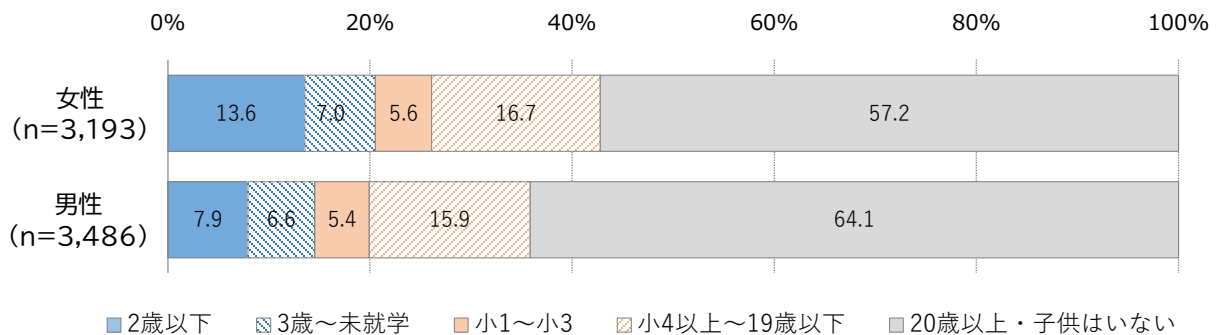
	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根
全体	40	37	26	82	115	175	456	85	66	145	564	334	80	63	27	28
女性	22	16	10	40	53	84	242	37	33	71	288	166	29	32	19	16
男性	18	21	16	42	62	91	214	48	33	74	276	168	51	31	8	12

	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄
全体	93	154	55	22	45	71	15	264	24	44	61	36	41	43	42
女性	45	73	29	8	17	27	10	145	9	25	24	13	18	20	21
男性	48	81	26	14	28	44	5	119	15	19	37	23	23	23	21

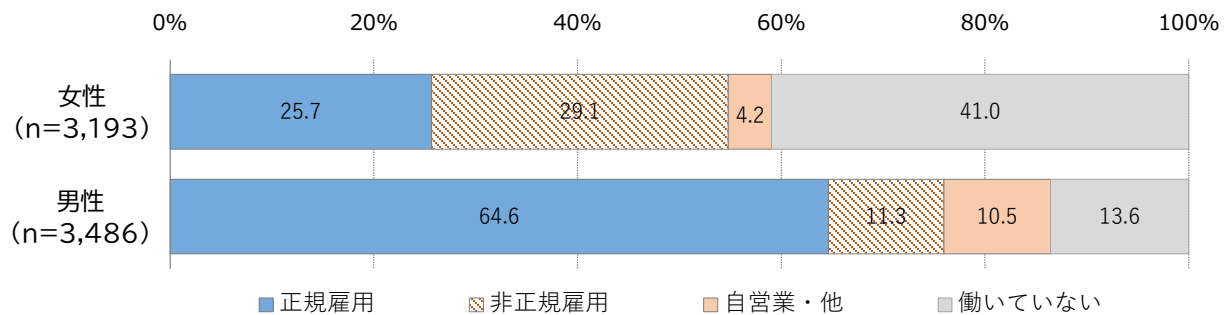
(4) 同居家族



(5) 末子の年齢



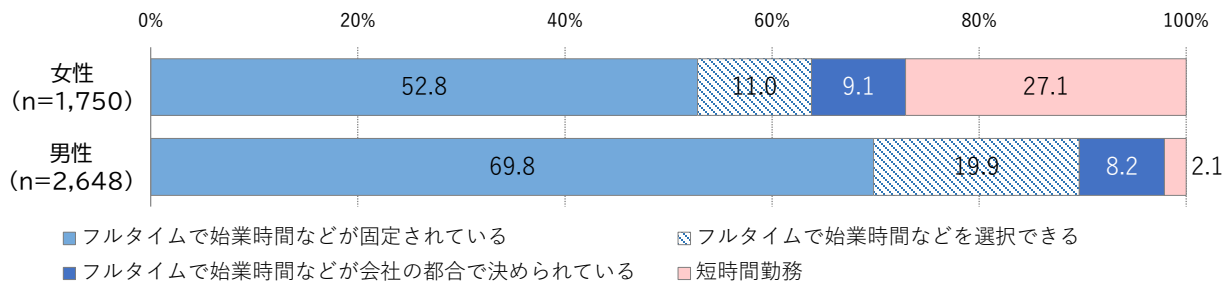
(6) 職業・雇用形態



	正規雇用		非正規雇用					自営業・自由業・その他					働いていない		
	正規の会社員・職員・従業員	会社などの役員	パート・アルバイト	労働派遣事業所の派遣社員	契約社員	嘱託	その他の形で雇用されている	自営業・自由業 (従業員がいる)	自営業・自由業 (従業員がいない)	自家営業の手伝い (家族従業員)	家庭内の賃仕事 (内職)	その他	主婦・主夫	学生	その他 (働いていない)
全体 (n=6,679)	44.5	1.5	13.6	2.0	3.2	0.7	0.4	1.4	5.0	0.6	0.2	0.3	16.2	1.7	8.7
女性 (n=3,193)	25.4	0.3	22.8	2.8	2.6	0.4	0.5	0.3	2.6	0.7	0.4	0.3	32.8	1.9	6.3
男性 (n=3,486)	62.0	2.7	5.1	1.3	3.8	0.9	0.3	2.4	7.3	0.5	0.0	0.3	1.1	1.6	10.9

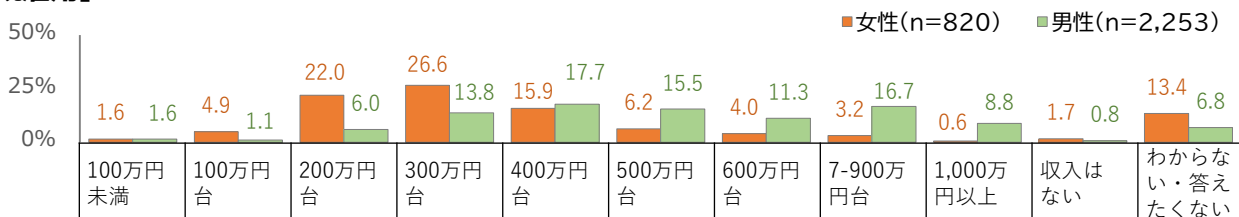
- 「正規雇用」は女性で25.7%、男性で64.7%。反対に「非正規雇用」は女性29.1%、男性で11.4%。
- 「働いていない」は女性で41.0%、男性13.6%。

(7) 勤務形態

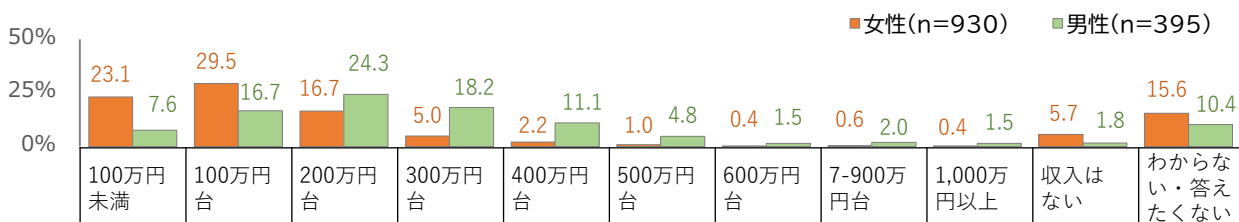


(8) 個人年収

[正規雇用]



[非正規雇用]



(%)

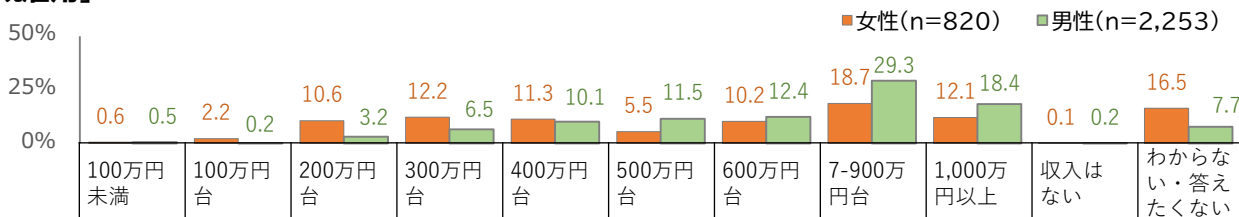
- 「女性／正規雇用」では、「300～400万円台」が42.4%。対して「男性／正規雇用」では、「300～400万円台」31.5%、「500～600万円台」26.8%、「700万円以上」25.6%。
- 「女性／非正規雇用」では、「200万円台以下」が69.3%。

個人年収	200万円台以下	300～400万円台	500～600万円台	700万円以上
女性／正規雇用	28.4%	42.4%	10.2%	3.8%
男性／正規雇用	8.6%	31.5%	26.8%	25.6%
女性／非正規雇用	69.3%	7.1%	1.4%	1.0%
男性／非正規雇用	48.6%	29.4%	6.3%	3.6%

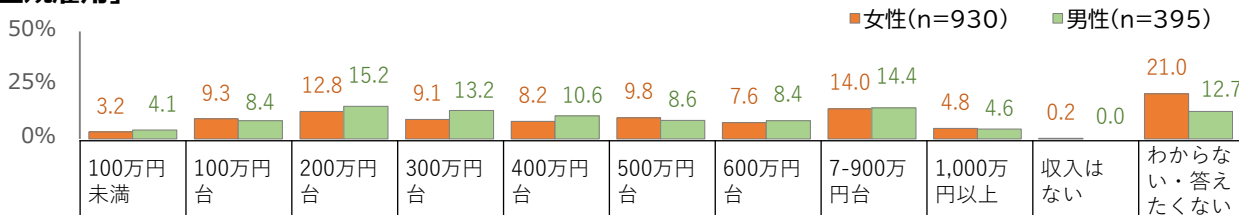
※「収入はない」「わからない・答えたくない」以外の数字を掲載

(9) 世帯年収

[正規雇用]

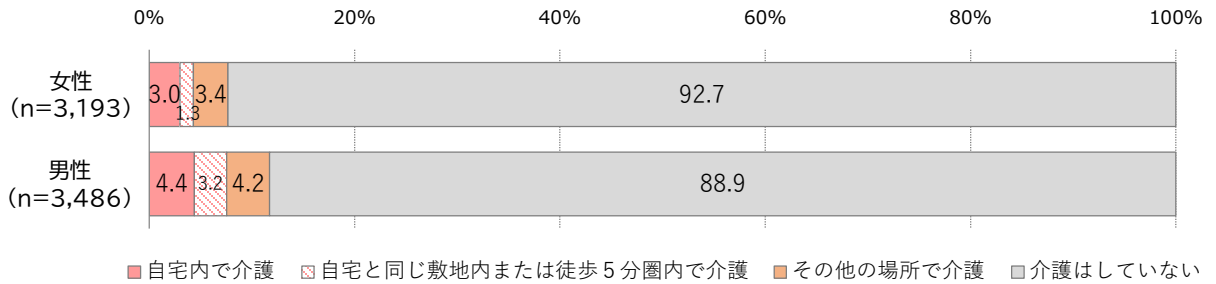


[非正規雇用]

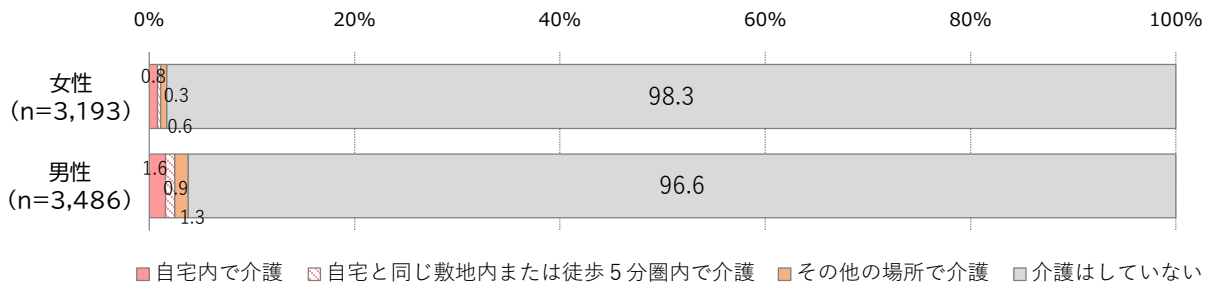


(10) 介護の有無

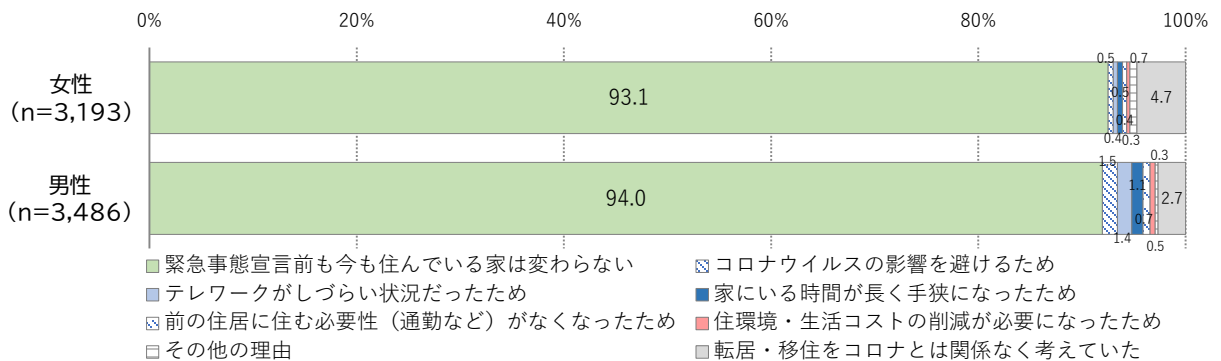
介護対象者が65歳以上



介護対象者が65歳未満



(11) 居住地の変化



第2章 調査結果

2. 生活全般の状況とコロナによる影響

2. 生活全般の状況とコロナによる影響

- ・ コロナ下における生活面への影響についてまとめる。

(1) 現在(2020年12月)の1日の時間の使い方

※集計カテゴリによっては、時間の記入のない人もいるが、集計対象としてN数に記載

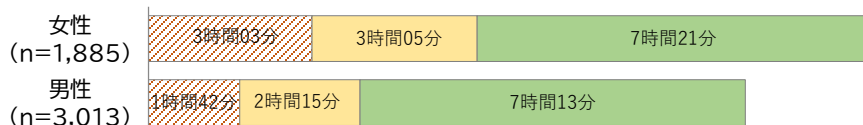
【仕事の有無別】

■ 仕事等の時間(学業、通勤時間含む) ■ 家事時間 ■ 育児時間 ■ 睡眠時間 (本人票)

<有業者:仕事のある日>



<有業者:仕事のない日>



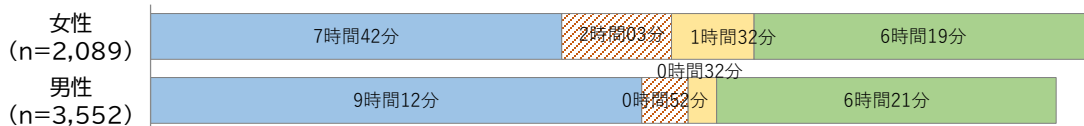
<無業者:普段の1日>



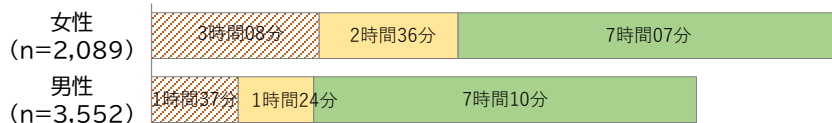
- ・ 有業者で仕事のある日では、「家事時間」「育児時間」ともに「女性」が「男性」の概ね2倍。
- ・ 仕事のない日では、「女性」と「男性」の差はやや縮まるものの、「家事時間」では1時間20分、「育児時間」では50分の差がある。「睡眠時間」に大きな差はない。
- ・ 無業者では、「家事時間」「育児時間」において、「女性」の方が時間が長く、「家事時間」で約2倍、「育児時間」では4倍。
- ・ 令和元年度調査と比較し、仕事がある日の有業者の「男性」では、「仕事時間」が25分短くなり、「育児時間」が21分増加。ただし、「家事時間」はほぼ横ばい。
- ・ 仕事のない日の「家事時間」については、男女ともにほぼ横ばいも、「育児時間」は「女性」で29分、「男性」で51分の増加。

【比較】令和元年度調査

<有業者:仕事のある日>



<有業者:仕事のない日>



<無業者:普段の1日>



(1) 現在(2020年12月)の1日の時間の使い方

※集計カテゴリによっては、時間の記入のない人もいますが、集計対象としてN数に記載

【世帯類型別】

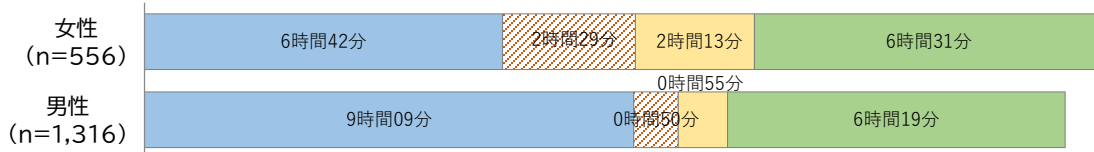
■ 仕事等の時間(学業、通勤時間含む) ■ 家事時間 ■ 育児時間 ■ 睡眠時間 (本人票)

<有業者:仕事のある日>

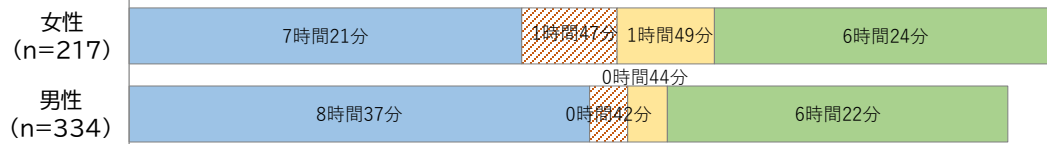
【夫婦のみ世帯】



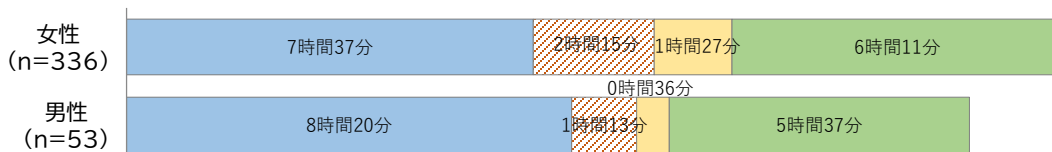
【夫婦と子供から成る世帯】



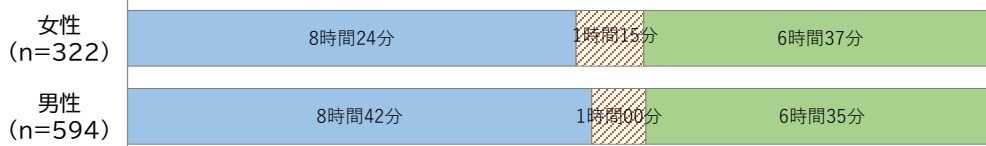
【三世帯世帯】



【母子・父子世帯】



【単独世帯】



- 世帯類型別では、仕事のある日では「家事時間」は「女性」では2時間弱から2時間半の間。特に男女で差が大きいのは、「夫婦と子供から成る世帯」で約1時間半の差。
- 「育児時間」については、「夫婦と子供から成る世帯」で「女性」の方が1時間18分長く、「三世帯世帯」では1時間5分差。
- 「男性」は「女性」と比べ「仕事時間」が長いのは全類型で共通も、「夫婦のみ世帯」「夫婦と子供から成る世帯」「三世帯世帯」では1時間以上の差がみられる。特に「夫婦と子供から成る世帯」では2時間27分の差がある。
- 次頁、令和元年度調査と比べると、「夫婦と子供から成る世帯」において、「女性」では「育児時間」が30分の増加、「男性」では24分の増加。
- 「三世帯世帯」では、「女性」で「育児時間」は30分の増加、「男性」では17分の増加にとどまる。
- 「夫婦のみ世帯」では「仕事時間」は男女ともに減少も、「家事時間」は大きく変わらない。

(1) 現在(2020年12月)の1日の時間の使い方

※集計カテゴリによっては、時間の記入のない人もいますが、集計対象としてN数に記載

【世帯類型別】

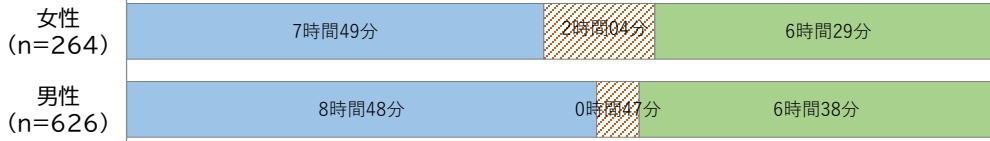
■ 仕事等の時間(学業、通勤時間含む) ■ 家事時間 ■ 育児時間 ■ 睡眠時間

(本人票)

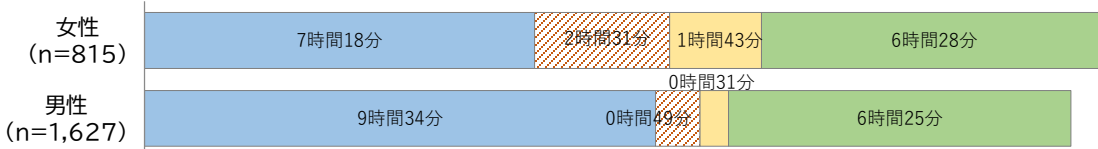
【比較】令和元年度調査

<有業者:仕事のある日>

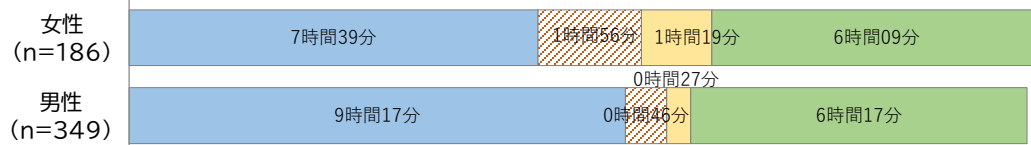
【夫婦のみ世帯】



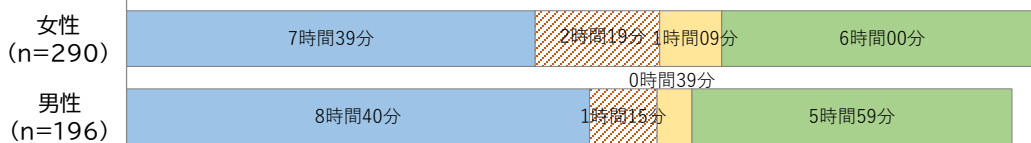
【夫婦と子供から成る世帯】



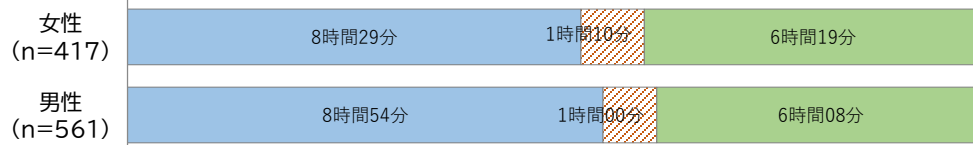
【三世帯世帯】



【ひとり親と子 ※本年度調査とは定義が異なる】



【単独世帯】



(1) 現在(2020年12月)の1日の時間の使い方

※集計カテゴリによっては、時間の記入のない人もいますが、集計対象としてN数に記載

【世帯類型別】

■ 仕事等の時間(学業、通勤時間含む) ■ 家事時間 ■ 育児時間 ■ 睡眠時間

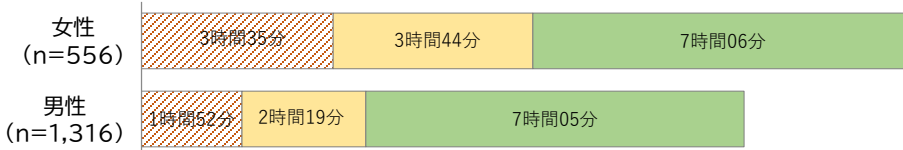
<有業者:仕事の無い日>

(本人票)

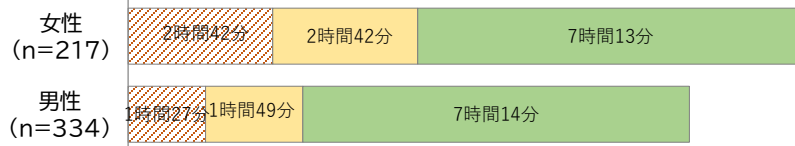
【夫婦のみ世帯】



【夫婦と子供から成る世帯】



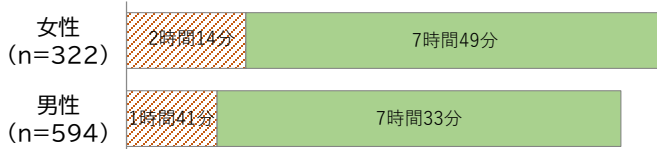
【三世代世帯】



【母子・父子世帯】



【単独世帯】



- 仕事のない日について、「家事時間」「育児時間」ともに「男性」と比べ「女性」の方が長い傾向は、仕事のある日と同様。
- 「家事時間」では、「夫婦と子供から成る世帯」で「女性」と「男性」の差が最も大きく、「女性」の方が1時間43分長く、同様に「育児時間」についても「女性」の方が1時間25分長い。
- 「三世代世帯」では、「家事時間」は「女性」の方が1時間15分長く、「育児時間」は53分差。
- 次頁、令和元年度調査と比較すると、「夫婦のみ世帯」では大きな差はないが、「夫婦と子供から成る世帯」「三世代世帯」「母子・父子世帯」において「家事時間」「育児時間」は増加。
- 特に、「夫婦と子供から成る世帯」では、令和元年度調査より「女性」の「育児時間」が50分増加、同様に男性も49分増加。一方で、「家事時間」においては、「女性」で微減、「男性」でやや増加。
- 「三世代世帯」でも、「男性」の「家事時間」に大きな変化はないが、「育児時間」は50分増加。
- 「母子・父子世帯」では、令和元年度調査と比べ、「育児時間」が「女性」で21分、「男性」で50分増加と増加幅が大きい。

(1) 現在(2020年12月)の1日の時間の使い方

※集計カテゴリによっては、時間の記入のない人もいるが、集計対象としてN数に記載

【世帯類型別】

■ 仕事等の時間(学業、通勤時間含む) ■ 家事時間 ■ 育児時間 ■ 睡眠時間

(本人票)

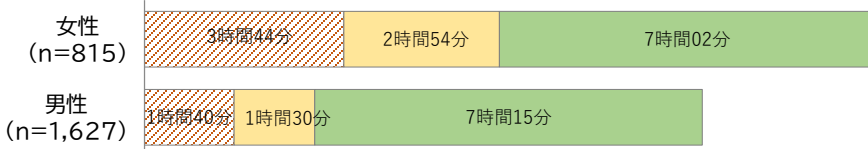
【比較】令和元年度調査

<有業者:仕事のない日>

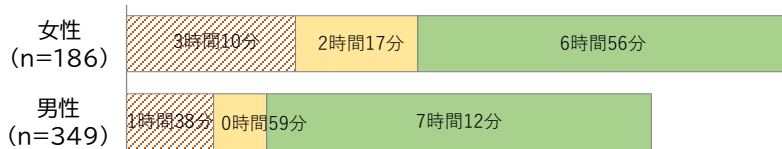
【夫婦のみ世帯】



【夫婦と子供から成る世帯】



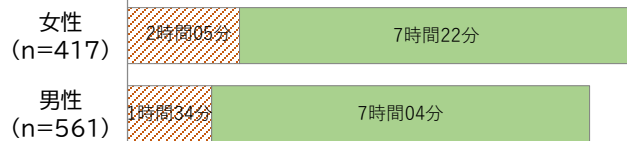
【三世代世帯】



【ひとり親と子 ※本年度調査とは定義が異なる】



【単独世帯】



(1) 現在(2020年12月)の1日の時間の使い方

※集計カテゴリによっては、時間の記入のない人もいますが、集計対象としてN数に記載

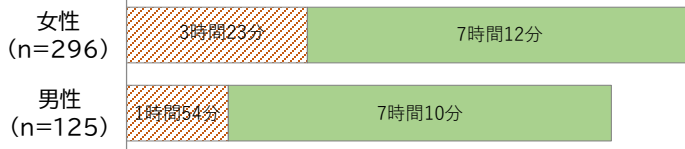
【世帯類型別】

■ 仕事等の時間(学業、通勤時間含む) ■ 家事時間 ■ 育児時間 ■ 睡眠時間

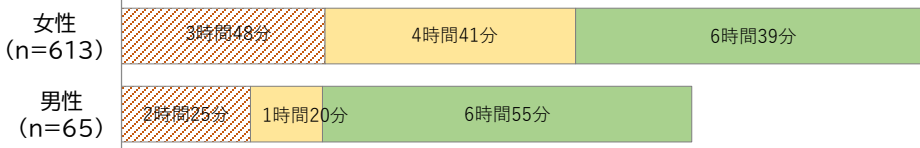
(本人票)

<無業者: 普段の1日>

【夫婦のみ世帯】



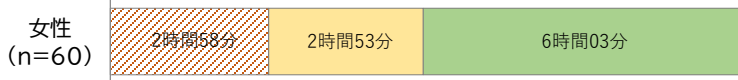
【夫婦と子供から成る世帯】



【三世帯世帯】



【母子世帯】 ※父子世帯はN=4のため割愛



【単独世帯】



- ・ 無業者の普段の1日について、「女性」の方が「男性」と比べ、「家事時間」「育児時間」が長い傾向は有業者と同様。
- ・ 特に「夫婦と子供から成る世帯」の育児時間で「女性」の方が3時間21分長い。「家事時間」では、「三世帯世帯」において、「女性」の方が1時間52分長く、最も差が大きい。
- ・ 次頁、令和元年度調査と比べ、世帯類型ごとの概ねの傾向は同様。
- ・ 「三世帯世帯」では、令和元年度調査と比べ、「女性」は「育児時間」が1時間10分、「男性」は「家事時間」が1時間減少した。
- ・ 一方で、「母子世帯」では、令和元年度調査と比べ「育児時間」が1時間増加し、「家事時間」が35分減少した。

(1) 現在(2020年12月)の1日の時間の使い方

※集計カテゴリによっては、時間の記入のない人もいますが、集計対象としてN数に記載

【世帯類型別】

■ 仕事等の時間(学業、通勤時間含む) ■ 家事時間 ■ 育児時間 ■ 睡眠時間

【比較】令和元年度調査

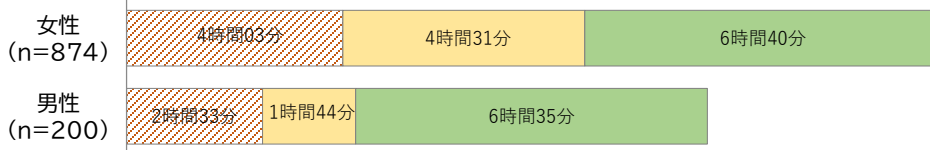
(本人票)

<無業者: 普段の日>

【夫婦のみ世帯】



【夫婦と子供から成る世帯】



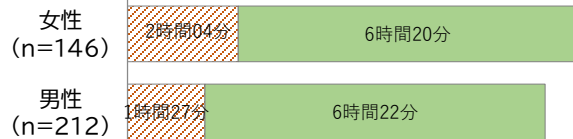
【三世帯世帯】



【ひとり親と子世帯 ※本年度調査と定義がことなる点に注意】



【単独世帯】



(1) 現在(2020年12月)の1日の時間の使い方

※集計カテゴリによっては、時間の記入のない人もいますが、集計対象としてN数に記載

【世帯類型別】

※介護対象者がいる世帯で、その割合の高かった「夫婦と子供から成る世帯」「三世代世帯」に絞って掲載

(本人票)

■仕事等の時間(学業、通勤時間含む) ■家事時間 ■育児時間 ■介護時間 ■睡眠時間

<有業者:仕事のある日>

【夫婦と子供から成る世帯】

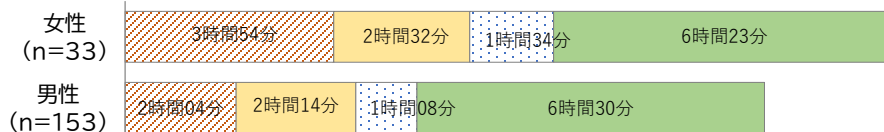


【三世代世帯】

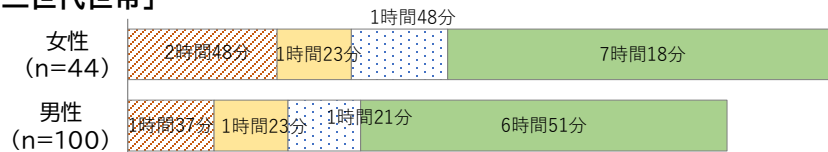


<有業者:仕事のない日>

【夫婦と子供から成る世帯】

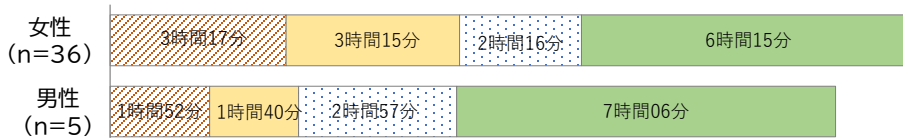


【三世代世帯】

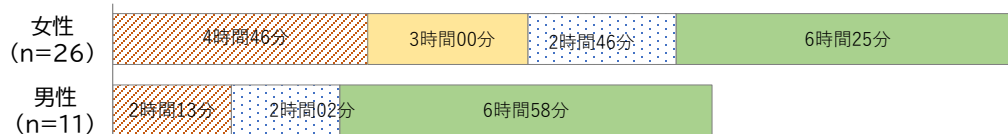


<無業者:普段の1日>

【夫婦と子供から成る世帯】



【三世代世帯】

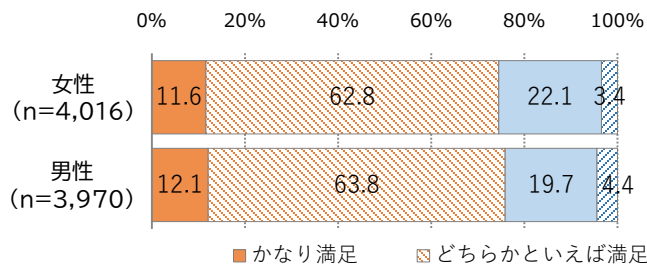


- 有業者の仕事のある日では、「夫婦と子供から成る世帯」で「女性」と「男性」で「介護時間」「育児時間」に大きな差はないが、「家事時間」で1時間13分「女性」の方が長く、反対に「仕事時間」では「男性」が1時間が長い。
- 「夫婦と子供から成る世帯」と「三世代世帯」とを比べると、男女ともに「夫婦と子供から成る世帯」の方が10～15分程度「介護時間」が長い。
- また、「睡眠時間」については、有業者、無業者ともに「夫婦と子供から成る世帯」の「女性」で短く、「介護」と「育児」両方行っている家庭では「女性」の「睡眠時間」が短くなっている。

(2) 1日の時間の使い方 満足度

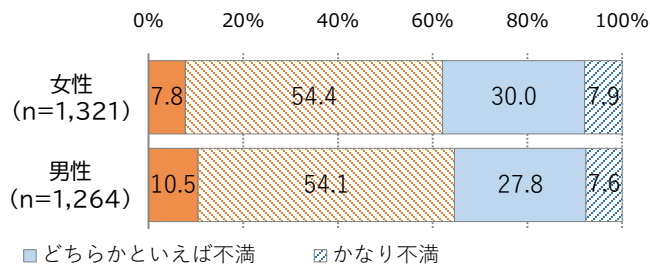
【配偶者有無別】

<有配偶者>



<無配偶者>

(本人票 + 配偶者票)

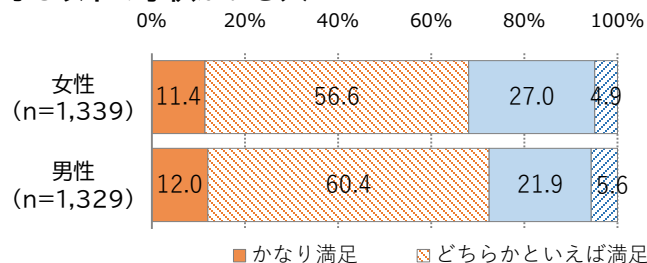


		かなり満足 + どちらかといえば満足	かなり不満 + どちらかといえば不満
有配偶	女性	74.4%	25.5%
	男性	75.9%	24.1%
無配偶	女性	62.2%	37.9%
	男性	64.6%	35.4%

- 「有配偶者」では、「かなり満足+どちらかといえば満足」と答えた人は、「女性」で74.4%、「男性」で75.9%。
- 「無配偶者」では、「かなり満足+どちらかといえば満足」と答えた人は、「女性」で62.2%、「男性」で64.6%。
- 「有配偶者」「無配偶者」共に、男女の差はあまりないが、「無配偶者」の方が「満足」とする人が少ない。

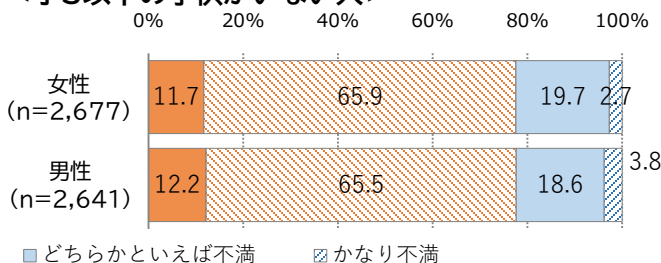
【有配偶者・小3以下の子供有無別】

<小3以下の子供がいる人>



<小3以下の子供がいない人>

(本人票 + 配偶者票)

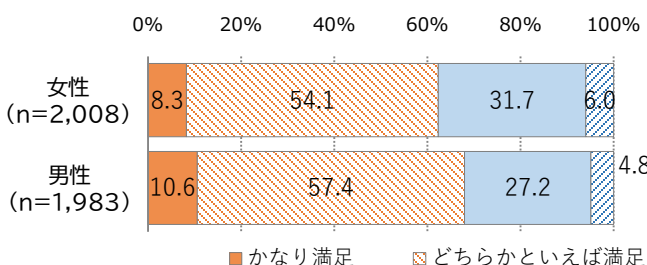


		かなり満足 + どちらかといえば満足	かなり不満 + どちらかといえば不満
小3以下子供有	女性	68.0%	31.9%
	男性	72.4%	27.5%
小3以下子供がいない人	女性	77.6%	22.4%
	男性	77.7%	22.4%

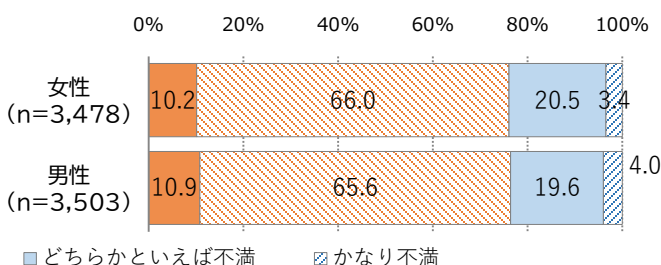
- 「有配偶者・小3以下の子供がいる人」では、「かなり満足+どちらかといえば満足」と答えた人は、「女性」で68.0%、「男性」で72.4%と、「女性」が下回る。
- 「有配偶者・小3以下の子供がいない人」では、「かなり満足+どちらかといえば満足」と答えた人は、「女性」で77.6%、「男性」で77.7%と、ほぼ同程度。
- 令和元年度調査との比較では、「小3以下の子供がいる女性」で、「かなり満足+どちらかといえば満足」が、62.4%→本調査では68.0%となった。

【比較】令和元年度調査

<小3以下の子供がいる人>



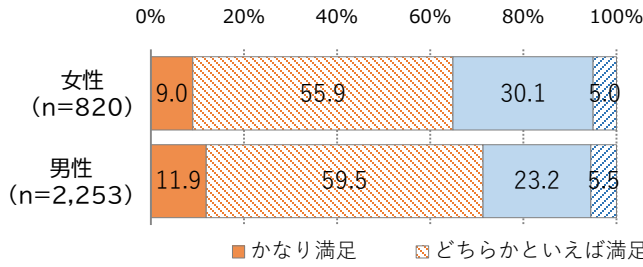
<小3以下の子供がいない人>



(2) 1日の時間の使い方 満足度

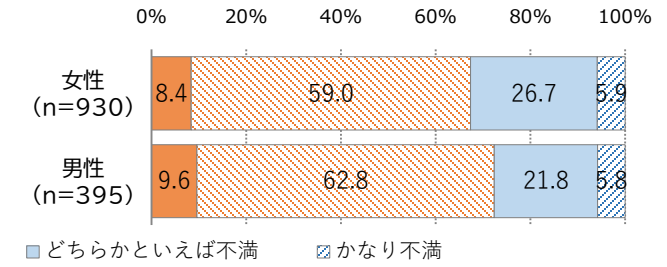
【雇用形態(正規・非正規)別】

<正規雇用>

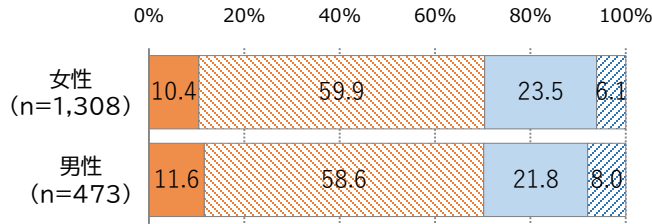


<非正規雇用>

(本人票)



<無業者>

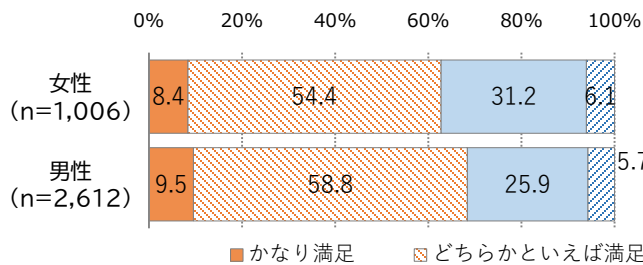


		かなり満足+ どちらかとい えば満足	かなり不満+ どちらかとい えば不満
正規雇用	女性	64.9	35.1
	男性	71.4	28.7
非正規雇用	女性	67.4	32.6
	男性	72.4	27.6
無業者	女性	70.3	29.6
	男性	70.2	29.8

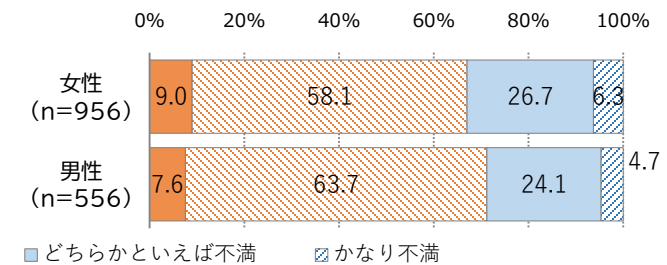
- 「正規雇用」では、「かなり満足+どちらかといえば満足」と答えた人は、「女性」で64.9%、「男性」で71.4%。
- 「非正規雇用」では、「かなり満足+どちらかといえば満足」と答えた人は、「女性」で67.4%、「男性」で72.4%。
- 「無業者」では、「かなり満足+どちらかといえば満足」と答えた人は、「女性」で70.3%、「男性」で70.2%と、ほぼ同じ。
- 令和元年度調査との比較では、「正規雇用の女性」で、生活時間配分の満足度で「かなり満足+どちらかといえば満足」が、62.7%→本調査64.9%となった。また、「無業の女性」で、68.5%→本調査70.3%となった。一方、「非正規雇用の女性」では、67.1%→本調査67.4%となった。

【比較】令和元年度調査

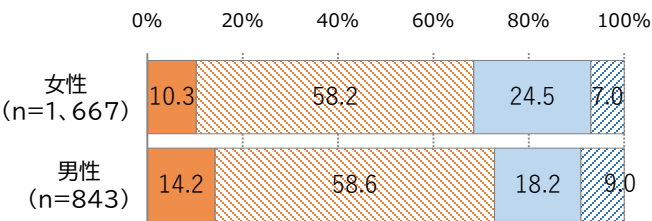
<正規雇用>



<非正規雇用>



<無業者>

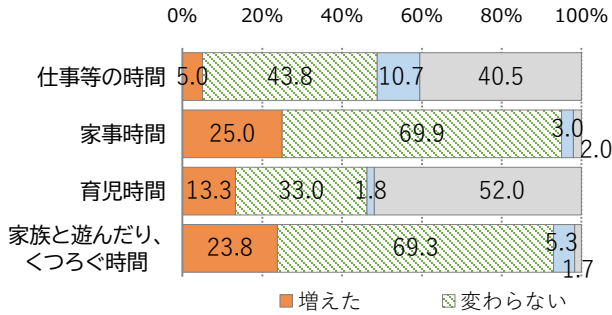


		かなり満足+ どちらかとい えば満足	かなり不満+ どちらかとい えば不満
正規雇用	女性	62.7	37.3
	男性	68.4	31.6
非正規雇用	女性	67.1	33.0
	男性	71.2	28.8
無業者	女性	68.5	31.5
	男性	72.8	27.2

(3) 1日の時間の使い方変化(第一回緊急事態宣言中(2020年4-5月頃)とそれ以前を比べて)

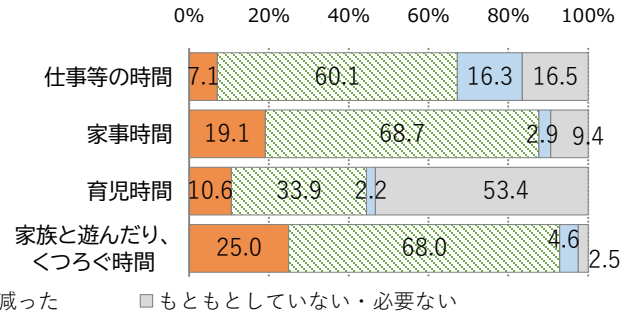
【有配偶者】

【女性(n=4,016)】



【男性(n=3,970)】

(本人票 + 配偶者票)



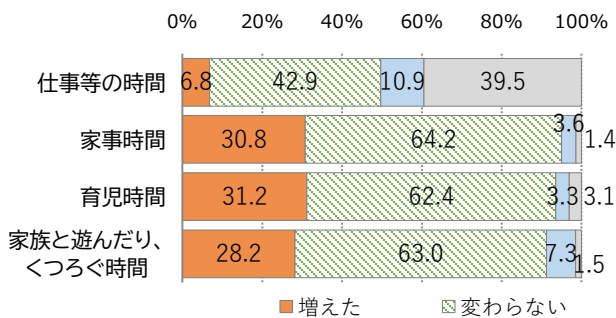
- 「女性」では、「家事時間」「育児時間」「家族と遊んだりくつろぐ時間」は、全て「減った」より「増えた」とする割合が高い。「家事時間」では25.0%が、「育児時間」では13.3%が、「家族と遊んだり、くつろぐ時間」は23.8%が「増えた」とした。
- 「男性」でも同様に、「家事時間」「育児時間」「家族と遊んだりくつろぐ時間」は、全て「減った」より「増えた」とする割合が高い。但し、「家事時間」では19.1%が、「育児時間」では10.6%が「増えた」としており、「女性」の割合を下回る。

【有配偶者・小3以下の子供有無別】

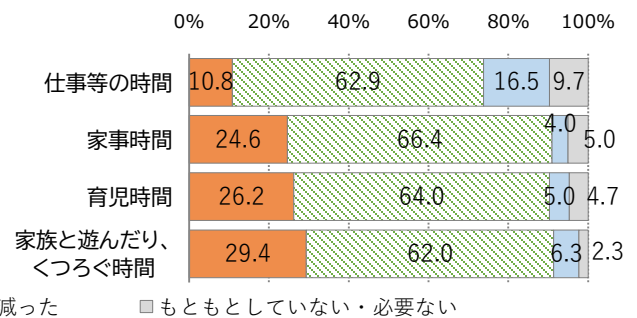
<小3以下の子供がいる人>

(本人票 + 配偶者票)

【女性(n=1,339)】

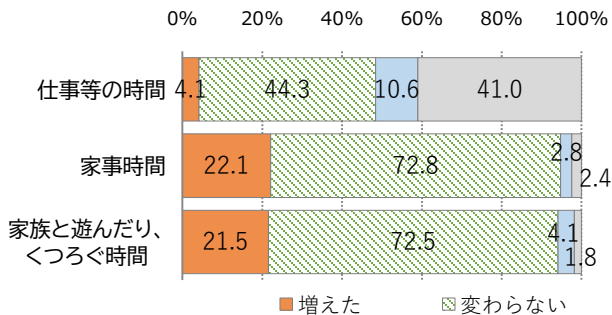


【男性(n=1,329)】

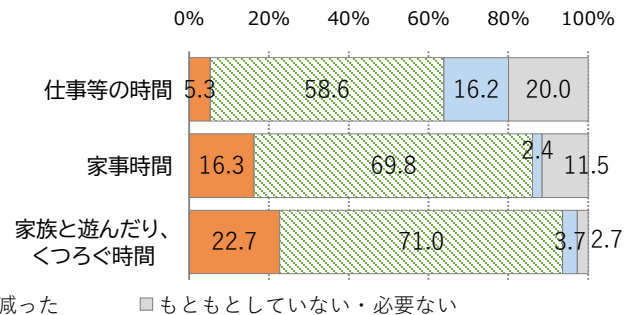


<小3以下の子供がいない人>

【女性(n=2,677)】



【男性(n=2,641)】



- 「小3以下の子供がいる女性」では、「増えた」とした割合が、「家事時間」は30.8%、「育児時間」は31.2%と、どちらも3割強が「増えた」としている。
- 「小3以下の子供がいる男性」では、「増えた」とした割合が、「家事時間」は24.6%、「育児時間」は26.2%と、増えたとはしているが、「小3以下の子供がいる女性」と比べると、どちらも5ポイント程度低い。
- 「小3以下の子供がいない女性」では、「家事時間」は22.1%が「増えた」とした。

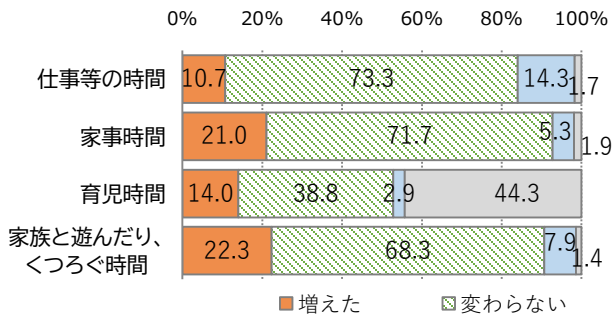
(3) 1日の時間の使い方変化(第一回緊急事態宣言中(2020年4-5月頃)とそれ以前を比べて)

【有配偶者・雇用形態(正規・非正規)別】

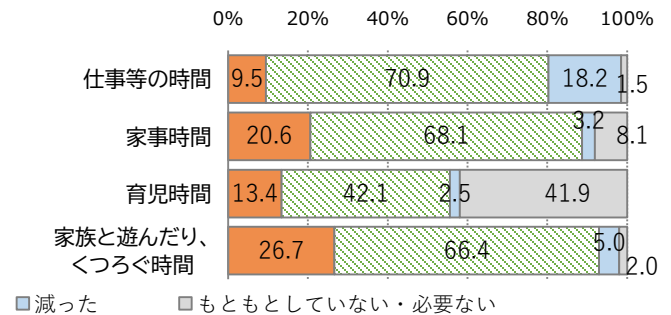
(本人票 + 配偶者票)

<正規雇用>

[女性(n=1,181)]

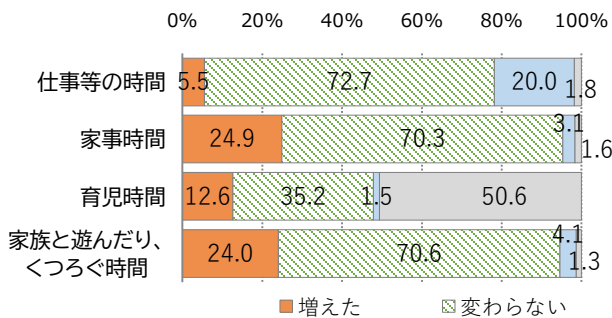


[男性(n=2,636)]

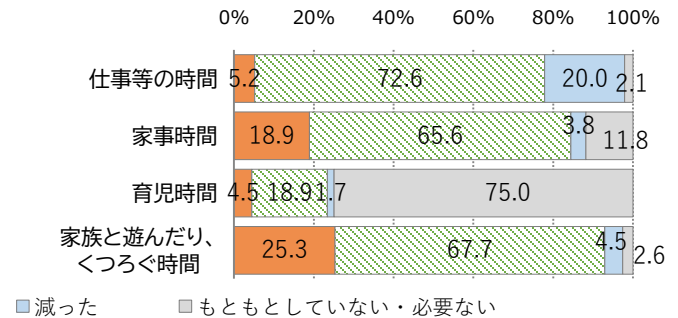


<非正規雇用>

[女性(n=1,086)]

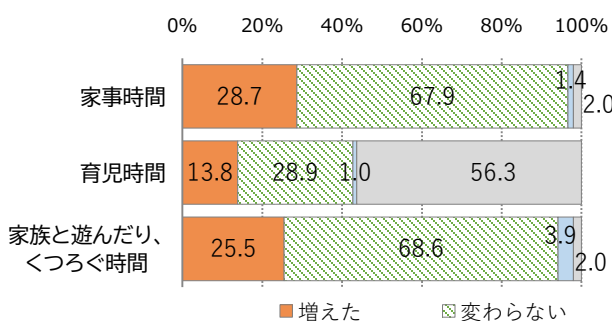


[男性(n=424)]

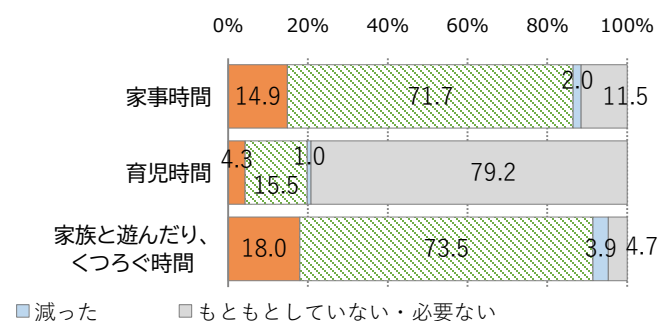


<無業者>

[女性(n=1,584)]



[男性(n=600)]

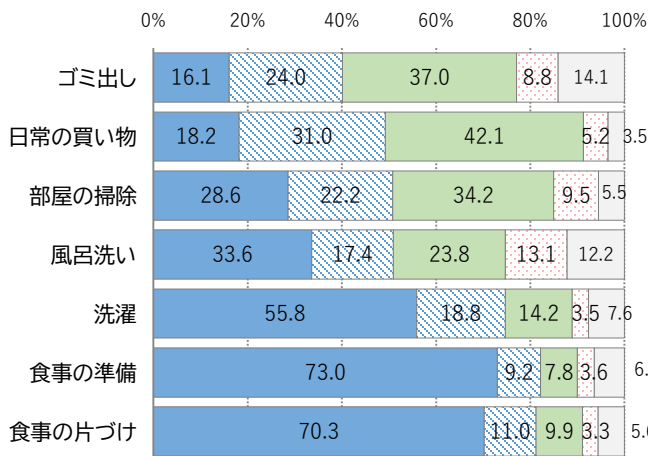


- 「正規雇用の女性」では、「増えた」とした割合が、「家事時間」は21.0%、「育児時間」は14.0%。一方、「仕事等の時間」は、「減った」とした人が14.3%。
- 「正規雇用の男性」では、「増えた」とした割合が、「家事時間」は20.6%、「育児時間」は13.4%と、「正規雇用の女性」の「増えた」割合と、そこまで大きく変わらない。「仕事等の時間」は、「減った」とした人が18.2%。
- 「非正規雇用の女性」では、「増えた」とした割合が、「家事時間」は24.9%、「育児時間」は12.6%。一方、「仕事等の時間」は、「減った」とした人が20.0%。
- 「非正規雇用の男性」では、「増えた」とした割合が、「家事時間」は18.9%、「育児時間」は4.5%と、「正規雇用の女性」の「増えた」割合を下回る。「仕事等の時間」は、「減った」とした人が20.0%。
- 「無業者の女性」は、「家事時間」は28.7%が「増えた」としており、「育児時間」は13.8%が「増えた」としている。

(4) 自身の現在(2020年12月)の家事頻度

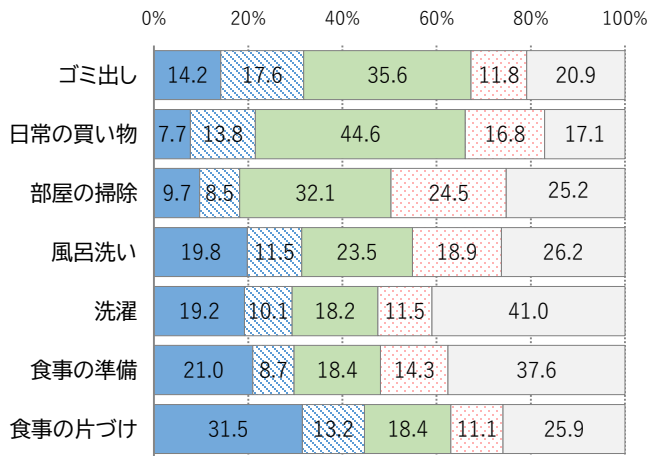
【有配偶者】

【女性 (n=4,016)】



【男性 (n=3,970)】

(本人票 + 配偶者票)



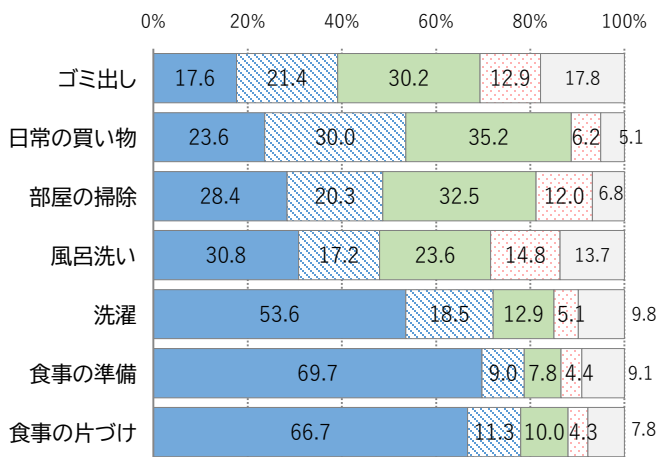
■ ほぼ毎日・毎回する ▨ 週3～4回程度する ■ 週1～2回程度する ▩ 月1～2回程度する □ まったくしない

- 「有配偶の女性」で、「ほぼ毎日・毎回する」が5割を超えているものは、高いものから「食事の準備」73.0%、「食事の片づけ」70.3%、「洗濯」55.8%。対して、「有配偶の男性」では、「食事の準備」21.0%、「食事の片づけ」31.5%、「洗濯」19.2%と、いずれの項目も、「有配偶の女性」と30～50ポイント程度の差がある。
- 「有配偶の男性」の方が、「ほぼ毎日・毎回する」割合で、「有配偶の女性」を上回るものはない。その上で、「ほぼ毎日・毎回する」と答えた割合の差が5ポイント以下のものは、「ゴミ出し(女性16.1%、男性14.2%)」のみとなった。
- 令和元年度調査との比較では、「男性」に注目して見てみると、「食事の片づけ」については、「まったくしない」が28.1%→本調査25.9%に、「食事の準備」については、「まったくしない」が40.4%→37.6%に、「洗濯」については、「まったくしない」が42.4%→41.0%と、全て僅かではあるが減少している。

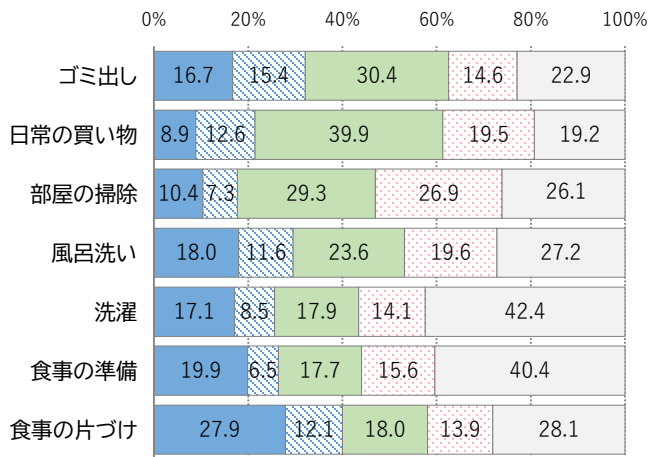
【比較】令和元年度調査

【有配偶者】

【女性 (n=5,486)】



【男性 (n=5,486)】



■ ほぼ毎日・毎回する ▨ 週3～4回程度する ■ 週1～2回程度する ▩ 月1～2回程度する □ まったくしない

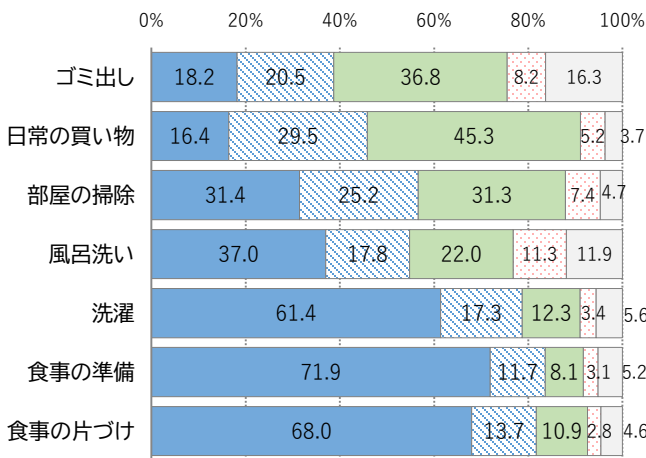
(4) 自身の現在(2020年12月)の家事頻度

【有配偶者・小3以下の子供有】

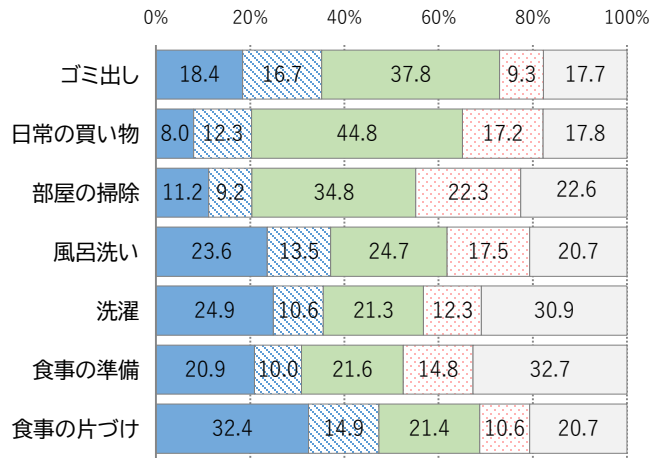
<小3以下の子供がいる人>

(本人票+配偶者票)

【女性 (n=1,339)】



【男性 (n=1,329)】



■ ほぼ毎日・毎回する ■ 週3~4回程度する ■ 週1~2回程度する ■ 月1~2回程度する ■ まったくしない

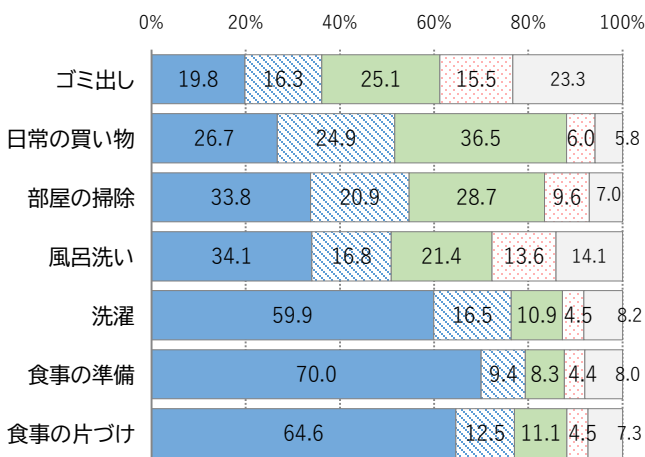
- 「有配偶者・小3以下の子供がいる女性」では、「ほぼ毎日・毎回する」が5割を超えているものは、高いものから「食事の準備」71.9%、「食事の片づけ」68.0%、「洗濯」61.4%。対して、「有配偶者・小3以下の子供がいる男性」では、「食事の準備」20.9%、「食事の片づけ」32.4%、「洗濯」24.9%と、いずれの項目も、「有配偶者・小3以下の子供がいる女性」と30~50ポイント程度の差がある。
- 「ほぼ毎日・毎回する」割合で、「有配偶者・小3以下の子供がいる女性」と「有配偶者・小3以下の子供がいる男性」で、ほぼ同じ割合となったのは、「ゴミ出し(女性18.2%、男性18.4%)」のみとなった。
- 令和元年度調査との比較では、「小3以下の子供がいる男性」に注目して見てみると、「食事の片づけ」については、「まったくしない」が27.1%→本調査20.7%に、「食事の準備」については、「まったくしない」が39.7%→32.7%に、「洗濯」については、「まったくしない」が36.5%→30.9%と、全て減少している。

【比較】令和元年度調査

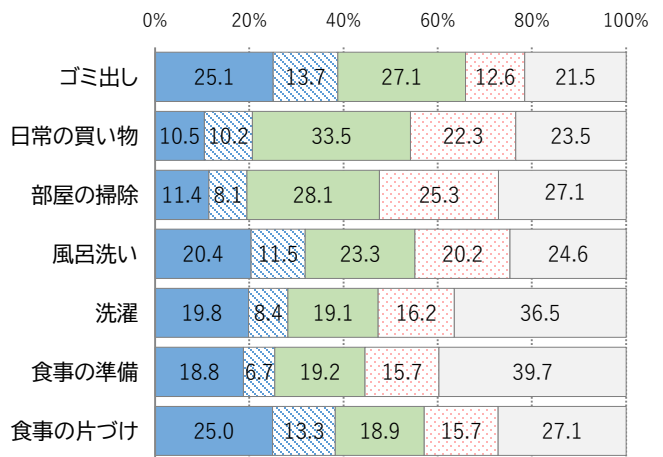
【有配偶者・小3以下の子供有】

<小3以下の子供がいる人>

【女性 (n=2,008)】



【男性 (n=1,983)】



■ ほぼ毎日・毎回する ■ 週3~4回程度する ■ 週1~2回程度する ■ 月1~2回程度する ■ まったくしない

(4) 自身の現在(2020年12月)の家事頻度

【有配偶者 カップル調査】…妻と夫の差をとった集計結果

夫婦間の家事頻度について

家事頻度について、夫婦どちらの回答もある人に絞って集計した。

【集計方法】

家事頻度について尋ねた質問について、アンケートの選択肢を下記の通り処理をしたうえで、妻と夫の差(妻-夫)を見た。

1. ほぼ毎日・毎回する → 7
2. 週3～4回程度する → 3.5
3. 週1～2回程度する → 1.5
4. 月1～2回程度する → 0.375
5. 全くしない → 0

(N=3,892)

妻と夫の差 (妻-夫)		-7.0~-0.4	0.0	0.4~3.5	4.6~7.0
家事 項目	ゴミ出し	1.8%	34.9%	27.9%	7.8%
	日常の 買い物	0.1%	41.2%	35.3%	10.4%
	部屋の掃除	0.3%	32.8%	33.2%	18.1%
	風呂洗い	2.5%	30.2%	23.7%	19.4%
	洗濯	1.0%	26.8%	26.2%	29.0%
	食事の準備	0.8%	24.8%	21.7%	40.5%
	食事の片づけ	1.4%	32.2%	17.7%	34.5%

- 夫婦間の家事頻度の差について、「風呂洗い」「ゴミ出し」については、夫の方が実践度が高い(値がマイナス側)人もやや見られる。
- 一方で、その他の項目は夫に比べ妻の実施割合が高く、特に「食事の準備」「食事の片づけ」は「4.6~7.0」と妻と夫の差が大きい。また「日常の買い物」「部屋の掃除」も妻側の値が高く、夫に比べ妻の方が高い頻度で家事をしていると考えられる。

(4) 自身の現在(2020年12月)の家事・育児時間

【有配偶者 カップル調査】…妻と夫の差をとった集計結果

夫婦間の家事・育児時間について

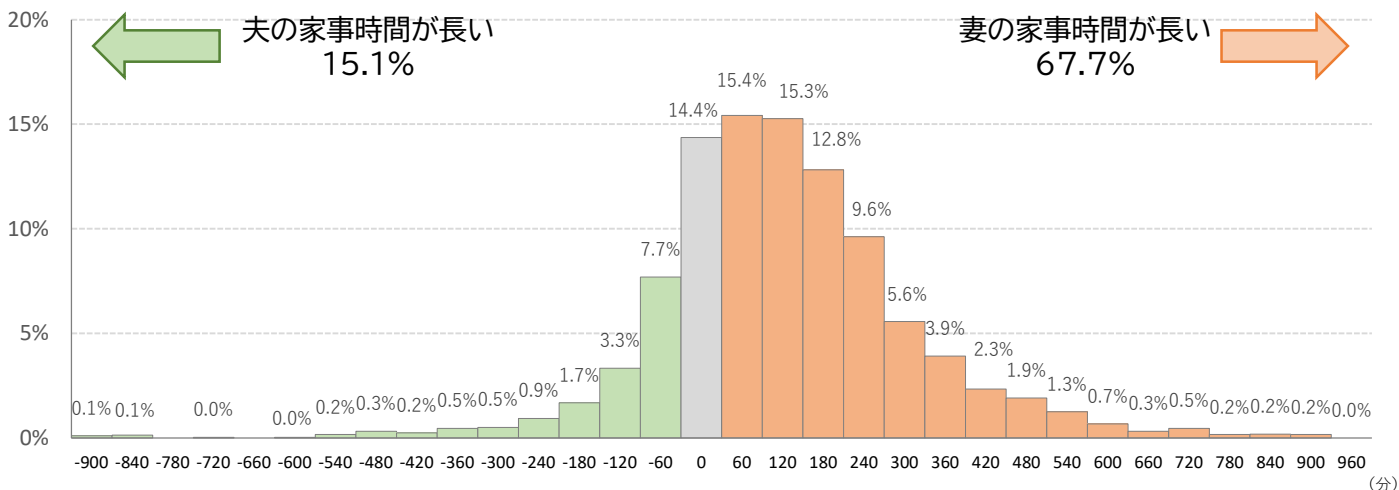
1日の時間配分について聞いた設問のうち、「家事時間」について妻と夫の差を見た。
 ※家事時間、育児時間が夫婦ともに0の場合は除いて集計した

【集計対象】

有業者: 仕事のない日
 無業者: 普段の1日 で集計

家事時間

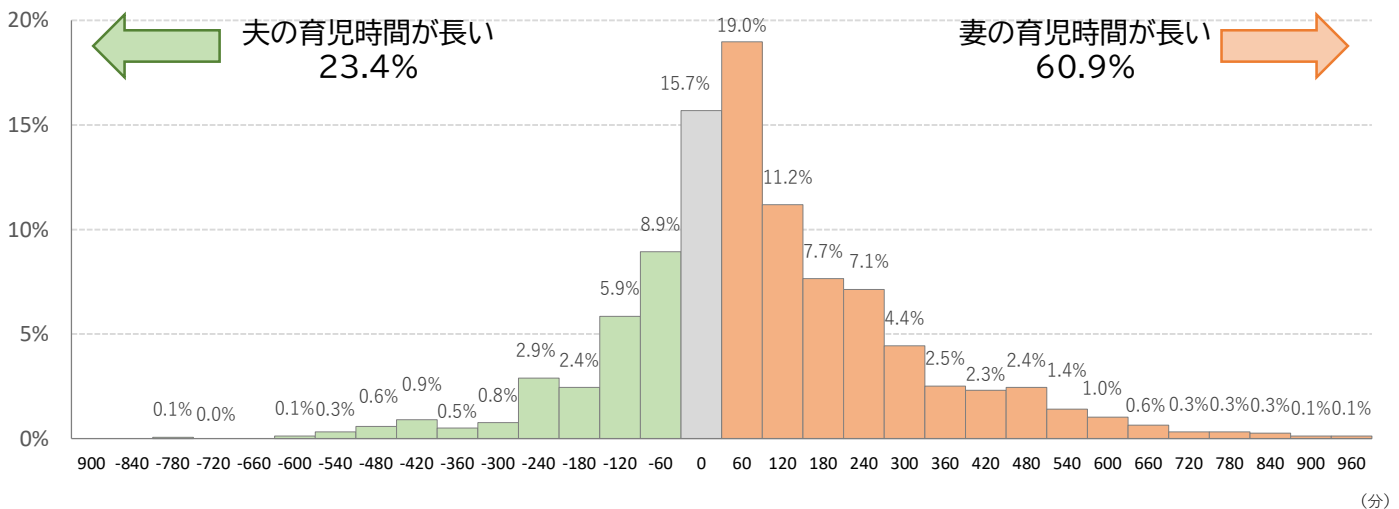
(N=3,760)



- 家事時間について、夫婦間の差を見ると、全体的にプラス寄り(妻の方が家事時間が長い)で割合が高く、特に「1~60分」「61~120分」「121~180分」で10%を超え高い。一方で、マイナス寄り(夫の方が家事時間が長い)では、「1~60分」で7.7%と10%を超えるところはない。0分(妻と夫の家事時間が同様)は全体で14.4%。

育児時間…19歳以下の子供がいる夫婦

(N=1,555)

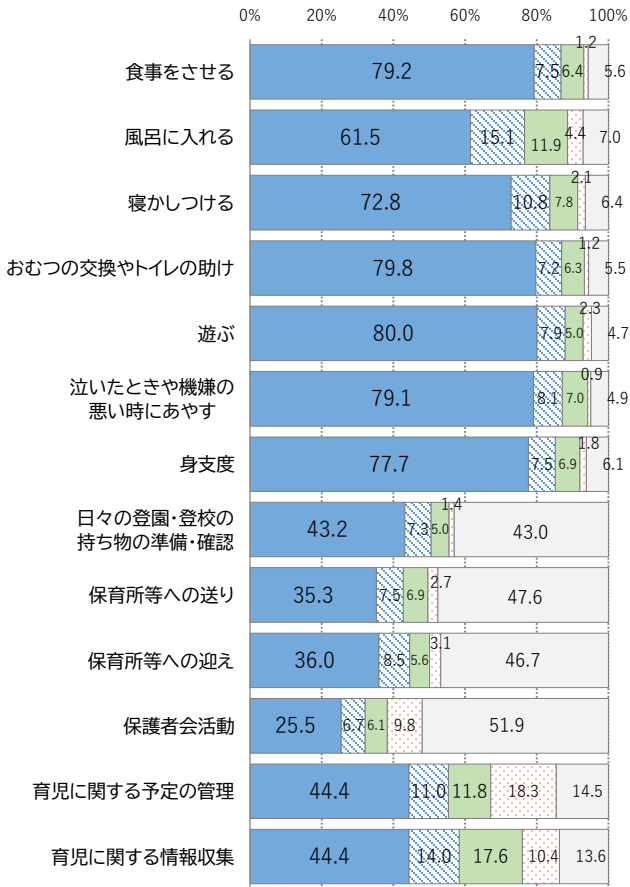


- 育児時間について、家事時間同様にプラス寄り(妻の方が育児時間が長い)の割合が高く、特に「1~60分」で19%が顕著に高い。家事時間と比べると、マイナス寄り(男性の方が育児時間が長い)割合も見られ、「1~60分」で8.9%、「61~120分」で5.9%。0分(妻と夫の育児時間が同様)は、全体で15.7%。

(5) 自身の現在(2020年12月)の育児頻度

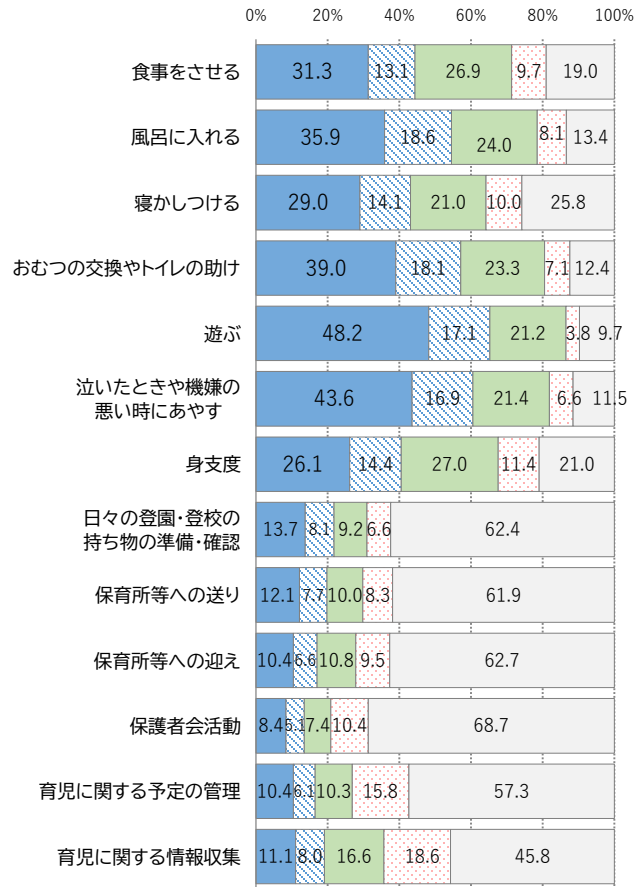
【有配偶者・0～2歳の末子がいる人】

【女性 (n=655)】



【男性 (n=651)】

(本人票 + 配偶者票)



■ ほぼ毎日・毎回する ■ 週3～4回程度する ■ 週1～2回程度する ■ 月1～2回程度する ■ まったくしない

※「日々の登園・登校の持ち物の準備・確認」「保育所等への送り・迎え」については、「まったくしない・利用しない」の累計値を掲載

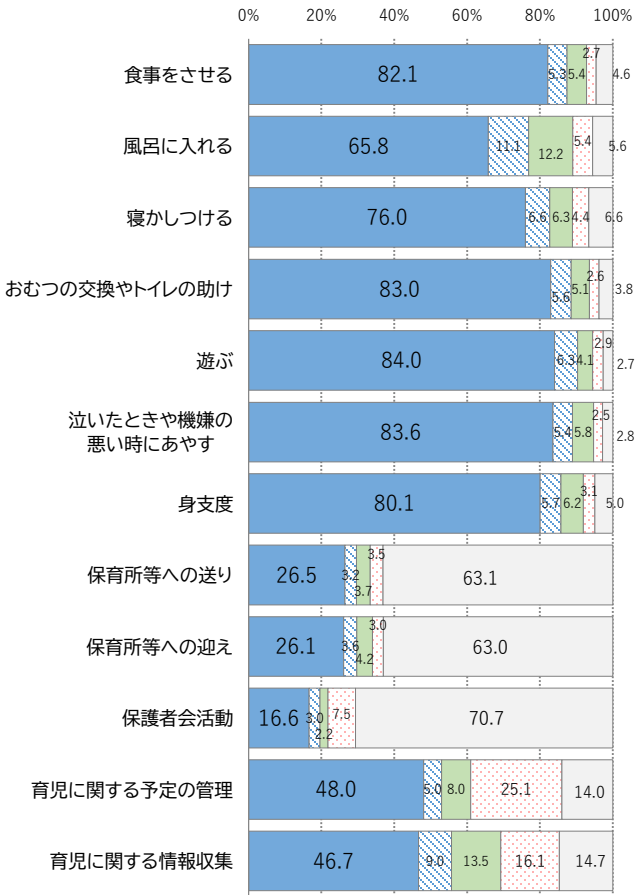
- 「有配偶者・0～2歳の末子がいる女性」では、「ほぼ毎日・毎回する」が5割を超えているものは7項目。高いものから「遊ぶ」80.0%、「おむつの交換やトイレの助け」79.8%、「食事をさせる」79.2%、「泣いたときや機嫌の悪い時にあやす」79.1%、「身支度」77.7%、「寝かしつける」72.8%と、7割を超える項目が多く、毎日・毎回実施しなければいけない、育児タスクの多さが窺える。
- 対して、「有配偶者・0～2歳の末子がいる男性」では、「ほぼ毎日・毎回する」が高いものでも、「遊ぶ」48.2%、「泣いたときや機嫌の悪い時にあやす」43.6%と、女性の割合との差が大きい。中でも、女性が「ほぼ毎日・毎回」する割合で高いもの(7割以上)と、倍以上の差があるものが、「食事をさせる」「寝かしつける」「おむつの交換やトイレの助け」「身支度」。
- 令和元年度調査との比較では、「有配偶者・0～2歳の子供がいる女性」での「食事をさせる」「風呂に入れる」「寝かしつける」「おむつの交換やトイレの助け」「遊ぶ」「泣いた時や機嫌の悪い時にあやす」について、「ほぼ毎日・毎回する」割合が、全て3～4ポイント程度減少している。

(5) 自身の現在(2020年12月)の育児頻度

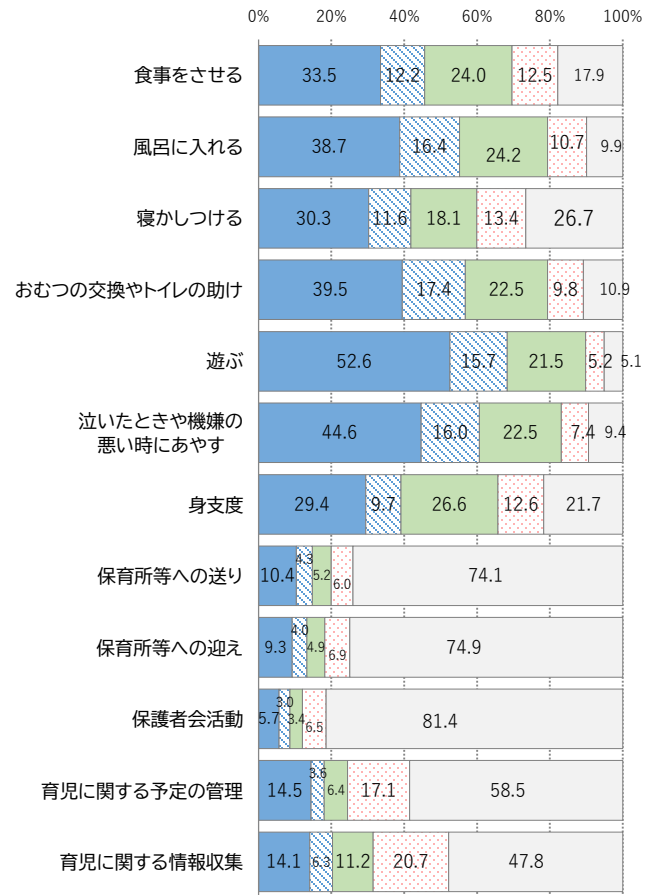
【比較】令和元年度調査

【有配偶者・0～2歳の子供がいる人】

【女性 (n=968)】



【男性 (n=968)】



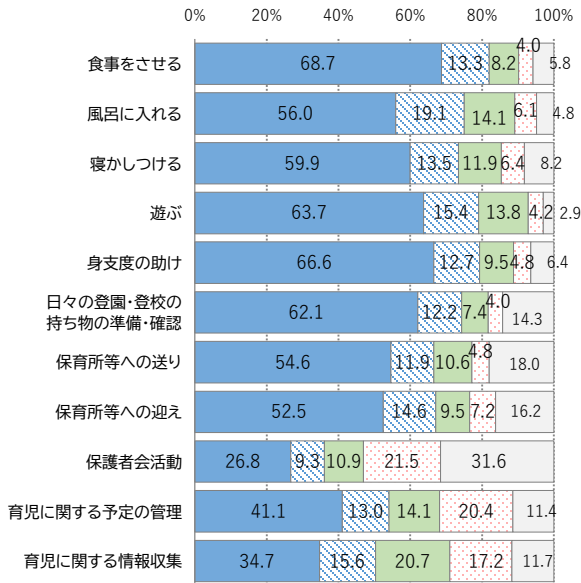
■ ほぼ毎日・毎回する ▨ 週3～4回程度する ■ 週1～2回程度する □ 月1～2回程度する □ まったくしない

※ 「日々の登園・登校の持ち物の準備・確認」「保育所等への送り・迎え」については、「まったくしない・利用しない」の累計値を掲載

(5) 自身の現在(2020年12月)の育児頻度

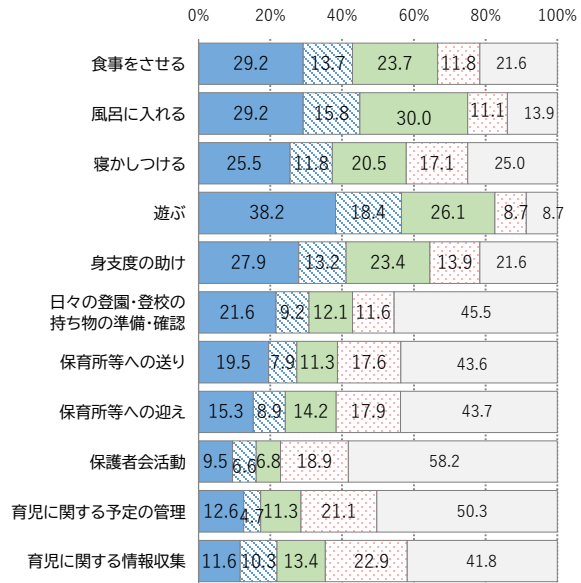
【有配偶者・3歳～未就学の末子がいる人】

【女性 (n=377)】



【男性 (n=380)】

(本人票 + 配偶者票)



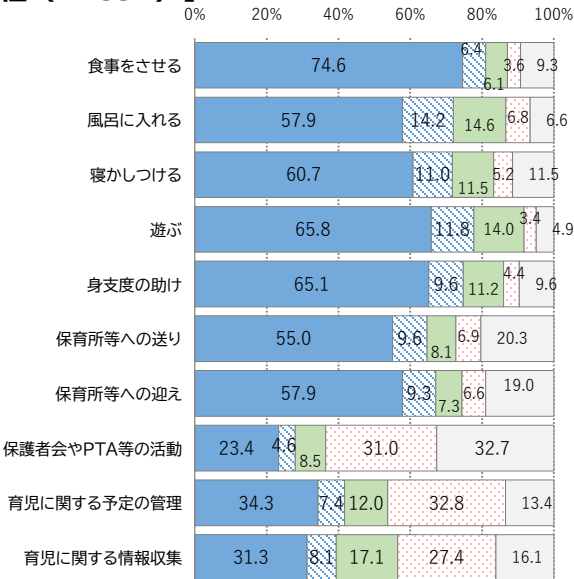
■ ほぼ毎日・毎回する ■ 週3～4回程度する ■ 週1～2回程度する ■ 月1～2回程度する ■ まったくしない

- 「有配偶者・3歳～未就学の末子がいる女性」では、「ほぼ毎日・毎回する」が5割を超えているものは8項目。高いものから「食事をさせる」68.7%、「身支度の助け」66.6%、「遊ぶ」63.7%、「日々の登園・登校の持ち物の準備・確認」62.1%と、6割を超える項目が複数ある。
- 対して、「有配偶者・0～2歳の末子がいる男性」では、「ほぼ毎日・毎回する」が高いものでも、「遊ぶ」38.2%、他の項目は全て3割以下と、女性の割合との差が大きい。中でも、女性が「ほぼ毎日・毎回」する割合で高いもの(5割以上)と、倍以上の差があるものが、「食事をさせる」「寝かしつける」「身支度の助け」「日々の登園・登校の持ち物の準備・確認」「保育所等への送り・迎え」。
- 令和元年度調査との比較では、「有配偶者・3歳～未就学の子供がいる男性」で、「ほぼ毎日・毎回する」割合が、「遊ぶ」33.5%→本調査では38.2%となっている。

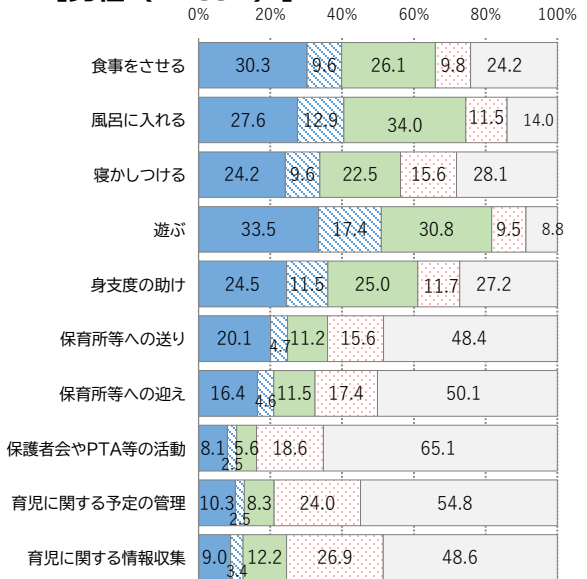
【比較】令和元年度調査

【有配偶者・3歳～未就学の子供がいる人】

【女性 (n=591)】



【男性 (n=591)】



■ ほぼ毎日・毎回する ■ 週3～4回程度する ■ 週1～2回程度する ■ 月1～2回程度する ■ まったくしない

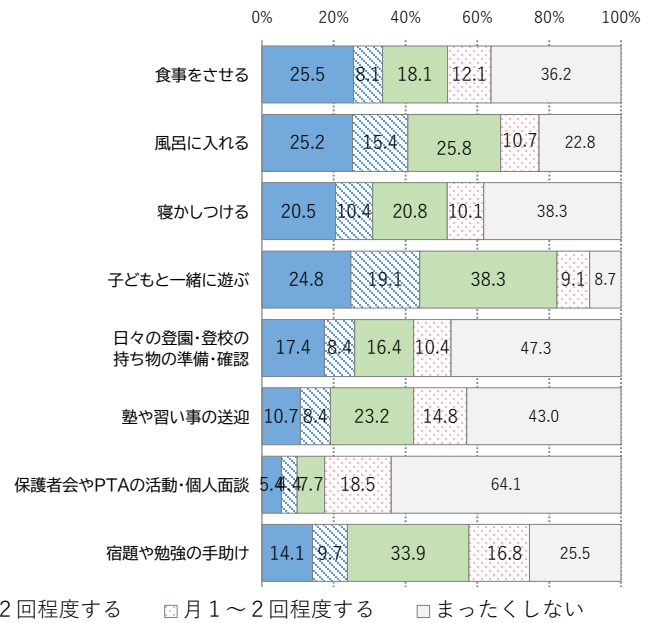
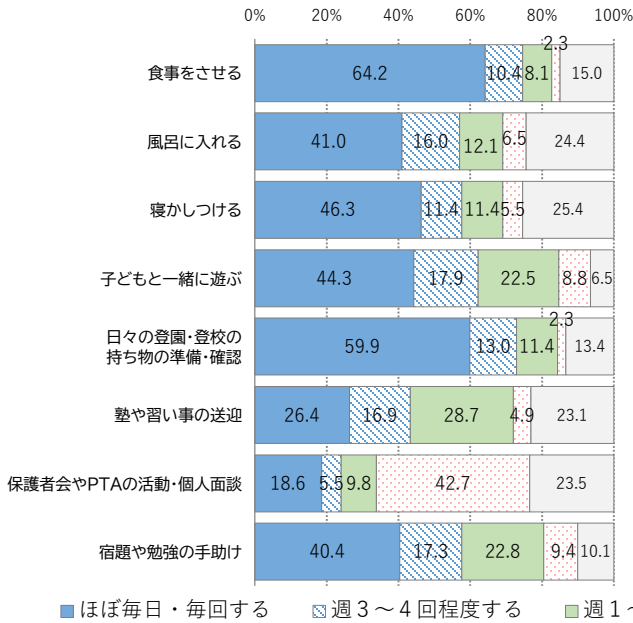
(5) 自身の現在(2020年12月)の育児頻度

【有配偶者・小学校1年生～3年生の末子がいる人】

【女性 (n=307)】

【男性 (n=298)】

(本人票 + 配偶者票)



■ ほぼ毎日・毎回する ■ 週3～4回程度する ■ 週1～2回程度する ■ 月1～2回程度する ■ まったくしない

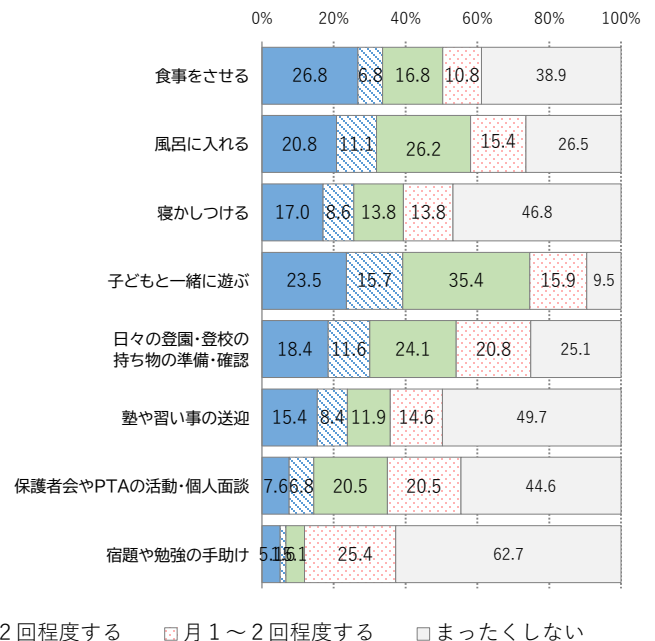
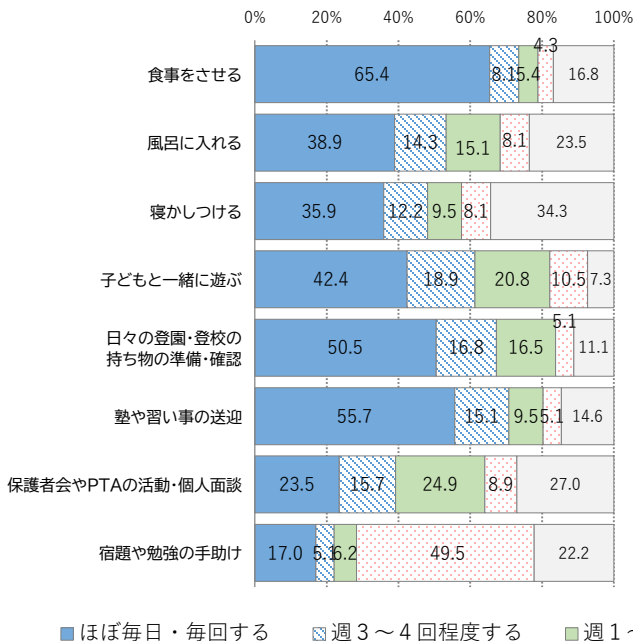
- 「有配偶者・小1～小3の末子がいる女性」では、「ほぼ毎日・毎回する」が5割を超えているものは2項目。高いものから「食事をさせる」64.2%、「日々の登園・登校の持ち物の準備・確認」59.9%。
- 対して、「有配偶者・小1～小3の末子がいる男性」では、「ほぼ毎日・毎回する」が3割を超えるものがない。女性が「ほぼ毎日・毎回」する割合で高いもの(5割以上)と、倍以上の差があるものは、「食事をさせる」「日々の登園・登校の持ち物の準備・確認」。
- 令和元年度調査との比較では、「有配偶者・小1～小3の子供がいる男性」で、「ほぼ毎日・毎回する」割合が、「風呂に入れる」20.8%→本調査25.2%、「寝かしつける」17.0%→本調査20.5%となっており、またそれぞれの「まったくしない」割合も減少している。

【比較】令和元年度調査

【有配偶者・小学校1年生～3年生の子供がいる人】

【女性 (n=370)】

【男性 (n=370)】

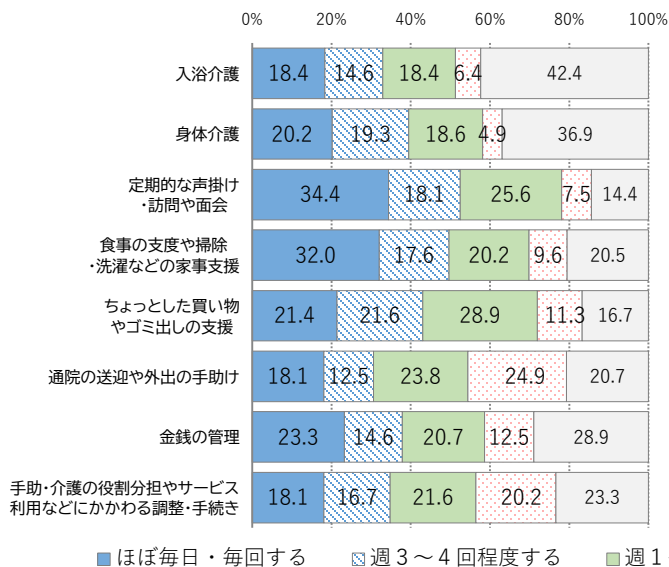


■ ほぼ毎日・毎回する ■ 週3～4回程度する ■ 週1～2回程度する ■ 月1～2回程度する ■ まったくしない

(6) 自身の現在(2020年12月)の介護頻度

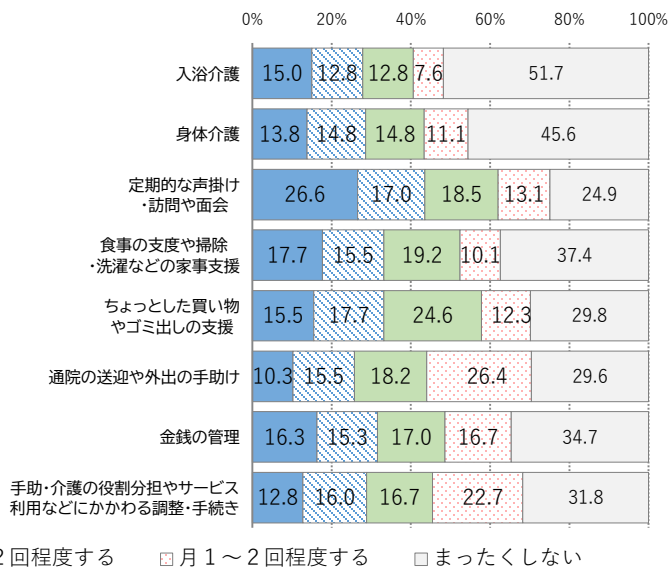
【有配偶者・介護対象有】

【女性 (n=425)】



【男性 (n=406)】

(本人票 + 配偶者票)



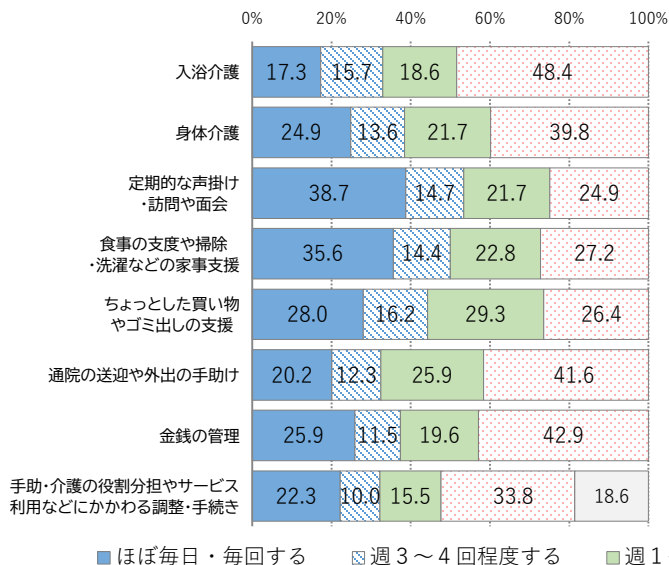
- 「有配偶者・介護対象有の女性」で、「ほぼ毎日・毎回する」が3割を超えているものは、高いものから「定期的な声掛け・訪問や面会」34.4%、「食事の支度や掃除・洗濯などの家事支援」32.0%。対して、「有配偶者・介護対象有の男性」では「定期的な声掛け・訪問や面会」26.6%、「食事の支度や掃除・洗濯などの家事支援」17.7%と、女性の方が「ほぼ毎日・毎回する」割合は高いものの、家事や育児ほどの差はない。

【参考値】令和元年度調査

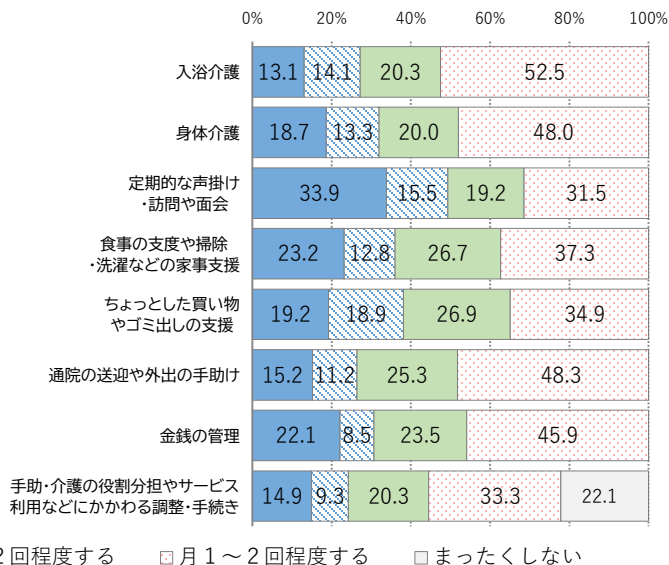
※令和元年度調査については、「まったくしない」を設けていない項目が多かった為、参考値として掲載。

【有配偶者・介護対象者がいる人】

【女性 (n=382)】



【男性 (n=375)】

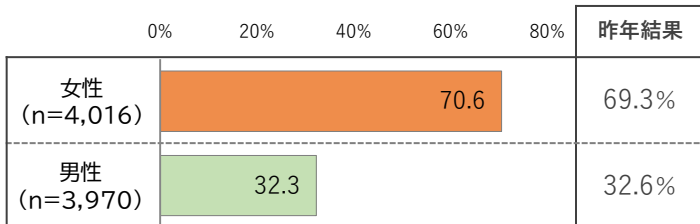


(7) 配偶者との家事・育児分担割合と満足度

【有配偶者】

家事分担割合

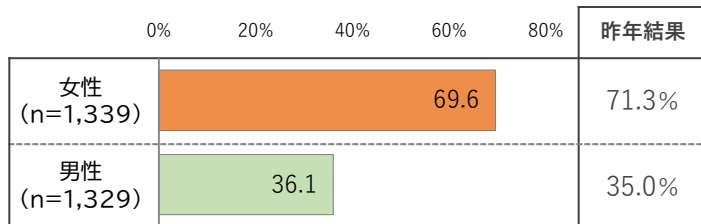
(※全体を100%にしたときに、自分が何%ぐらい行っているかの割合(平均))



育児分担割合…小3以下の子供がいる人

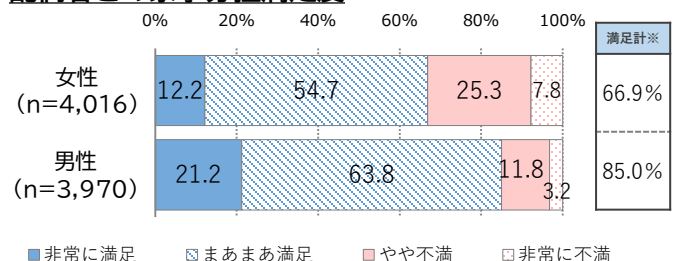
(本人票 + 配偶者票)

(※全体を100%にしたときに、自分が何%ぐらい行っているかの割合(平均))



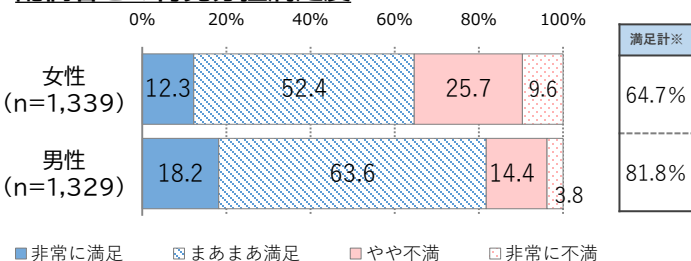
配偶者との家事分担満足度

※「非常に満足」+「まあまあ満足」の累計値



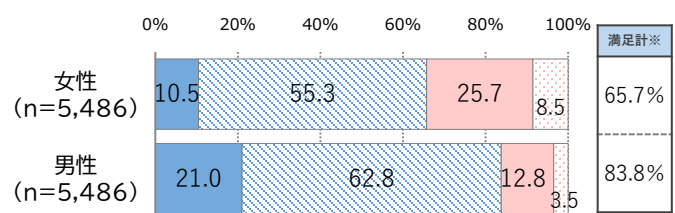
配偶者との育児分担満足度

※「非常に満足」+「まあまあ満足」の累計値

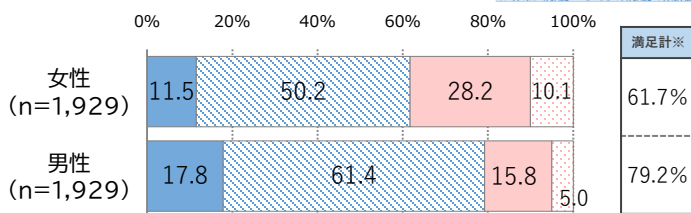


【比較】令和元年度調査

※「非常に満足」+「まあまあ満足」の累計値



※「非常に満足」+「まあまあ満足」の累計値



- 有配偶者における、日頃の配偶者との家事分担については、「女性」の家事分担割合は70.6%（令和元年度調査69.3%）、「男性」の家事分担割合は32.3%（令和元年度調査32.6%）と、「女性7割／男性3割」の比率は、令和元年度調査と同様の傾向。
- 育児分担については、「女性」の育児分担割合は69.6%（令和元年度調査71.3%）、「男性」の育児分担割合は36.1%（令和元年度調査35.0%）と、「女性7割／男性35%」の比率は、令和元年度調査同様の傾向。
- 配偶者との家事分担満足度については、「非常に満足＋まあまあ満足」の計が、「女性」で66.9%（令和元年度調査65.7%）、「男性」で85.0%（令和元年度調査83.8%）と、「男性」の方が満足度が高く、令和元年度調査と同様の傾向。
- 配偶者との育児分担満足度については、満足計が「女性」で64.7%（令和元年度調査61.7%）、「男性」で81.8%（令和元年度調査79.2%）と、「男性」の方が満足度が高く、令和元年度調査と同様の傾向であるが、「女性」で満足計が3ポイントアップ、「男性」で2.6ポイントアップと、どちらも満足度は微増した。

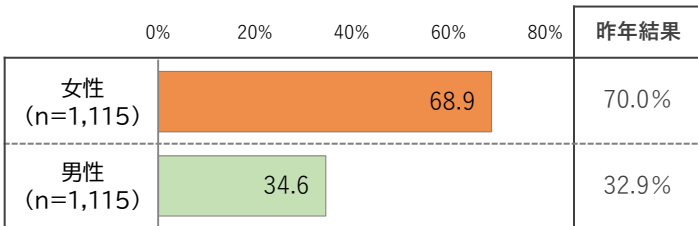
(7) 配偶者との家事・育児分担割合と満足度

【有配偶者・世帯類型別】

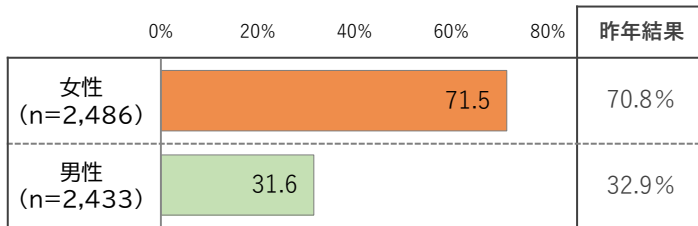
(本人票 + 配偶者票)

家事分担割合 (※全体を100%にしたときに、自分が何%ぐらい行っているかの割合(平均))

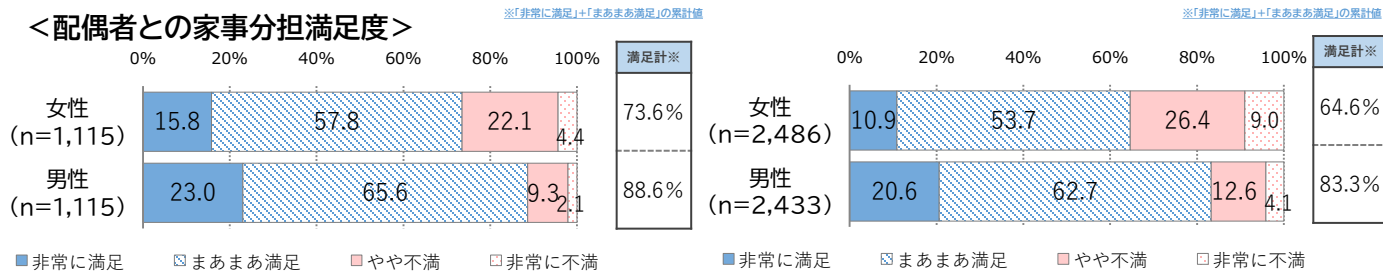
【夫婦のみ世帯】



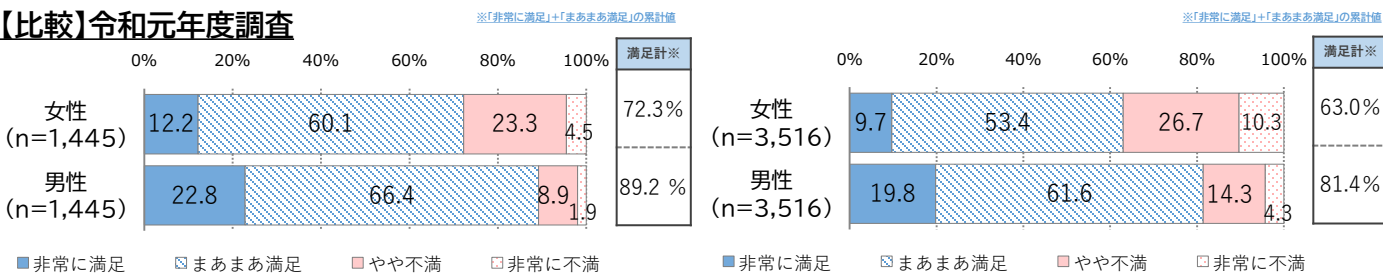
【夫婦と子供から成る世帯】



<配偶者との家事分担満足度>



【比較】令和元年度調査



- 有配偶者を世帯類型別に見た時の、日頃の配偶者との家事分担については、「夫婦のみ世帯の女性」の家事分担割合は68.9% (令和元年度調査70.0%)、「男性」の家事分担割合は34.6% (令和元年度調査32.9%)。
- 「夫婦と子供から成る世帯の女性」の家事分担割合は71.5% (令和元年度調査70.8%)、「男性」の家事分担割合は31.6% (令和元年度調査32.9%)。
- 「夫婦のみ世帯」と「夫婦と子供から成る世帯」を比較すると、男性の家事分担割合は、「夫婦のみ世帯の男性」の方が3ポイント高い。
- 配偶者との家事分担満足度については、「非常に満足+まあまあ満足」の計が、「夫婦のみ世帯の女性」で73.6% (令和元年度調査72.3%)、「男性」で88.6% (令和元年度調査89.2%)と、「男性」の方が満足度が高く、令和元年度調査と同様の傾向。
- 「夫婦と子供から成る世帯の女性」の配偶者との家事分担満足度は、満足計が64.6% (令和元年度調査63.0%)、「男性」で83.3% (令和元年度調査81.4%)と、「男性」の方が満足度が高く、令和元年度調査と同様の傾向。
- 「夫婦のみ世帯」と「夫婦と子供から成る世帯」を比較すると、家事分担満足度は、「夫婦のみ世帯」の男女の方が、「夫婦と子供から成る世帯」の男女に比べてどちらも高い。

(7) 配偶者との家事・育児分担割合と満足度

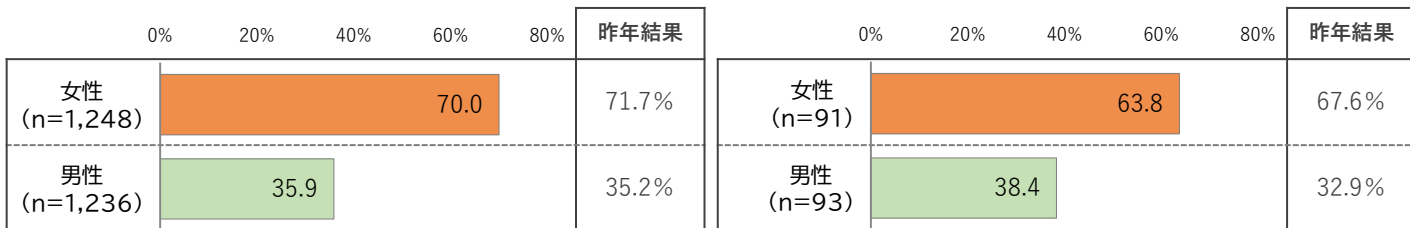
【有配偶者・世帯類型別】

(本人票 + 配偶者票)

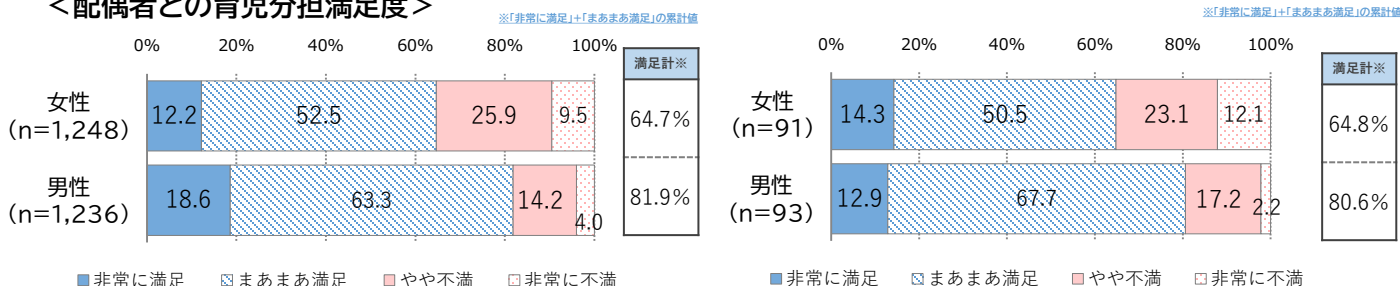
育児分担割合…小学校3年生以下の子供がいる人 (※全体を100%にしたときに、自分が何%ぐらい行っているかの割合(平均))

【夫婦と子供から成る世帯】

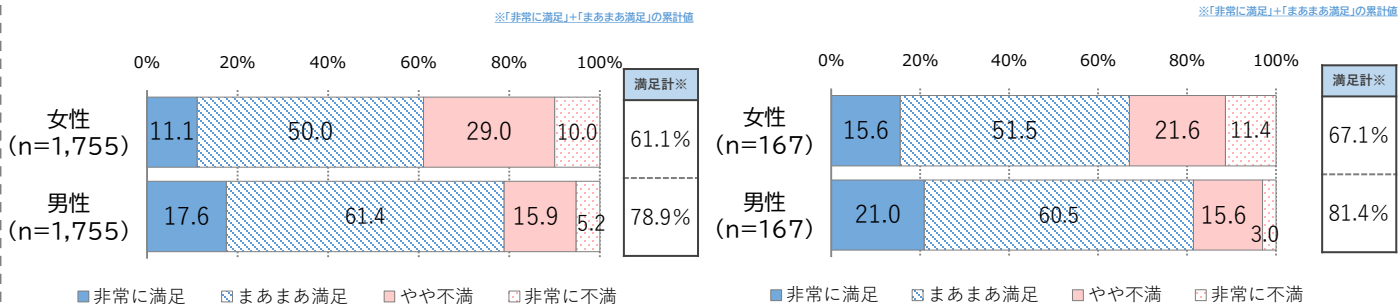
【三世帯世帯】



<配偶者との育児分担満足度>



【比較】令和元年度調査



- 有配偶者を世帯類型別に見た時の、日頃の配偶者との育児分担については、「夫婦と子供から成る世帯で小3以下の子供がいる女性」での育児分担割合は70.0% (令和元年度調査71.7%)、「男性」の育児分担割合は35.9% (令和元年度調査35.2%)。
- 「小3以下の子供がいる三世帯世帯の女性」の育児分担割合は63.8% (令和元年度調査67.6%)、「男性」の育児分担割合は38.4% (令和元年度調査32.9%)。
- 「夫婦と子供から成る世帯」と「三世帯世帯」を比較すると、女性の育児分担割合は、「夫婦と子供から成る世帯の女性」の方が6ポイント以上高い。
- 配偶者との育児分担満足度については、「非常に満足+まあまあ満足」の計が、「夫婦と子供から成る世帯で小3以下の子供がいる女性」で64.7% (令和元年度調査61.1%)、「男性」で81.9% (令和元年度調査78.9%)と、「男性」の方が満足度が高い。令和元年度調査の数値と比べると、「女性」では満足度計が3ポイント以上アップ、「男性」では満足度計が3ポイントアップとなった。
- 「小3以下の子供がいる三世帯世帯の女性」の育児分担満足度は、満足計が64.8% (令和元年度調査67.1%)、「男性」で80.6% (令和元年度調査81.4%)と、「男性」の方が満足度が高い。
- 令和元年度調査の数値と比べると、男女ともにあまり大きな差はなかった。

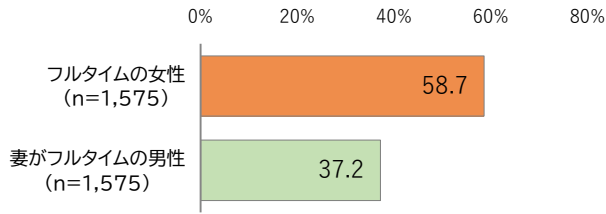
(7) 配偶者との家事・育児分担割合と満足度

【有配偶者 妻(女性)の勤務形態別】

家事分担割合

(※全体を100%にしたときに、自分が何%ぐらい行っているかの割合(平均))

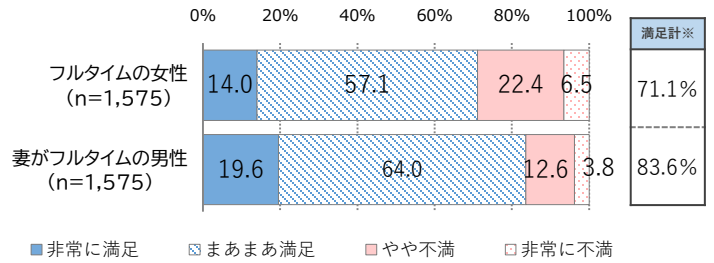
【フルタイム】



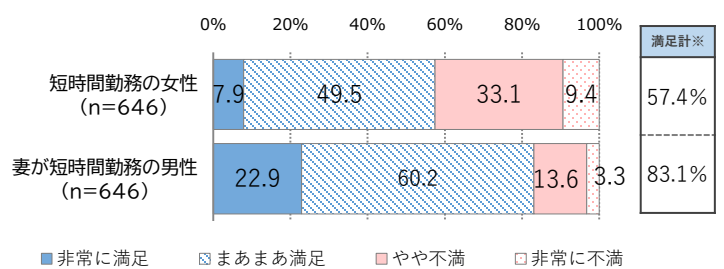
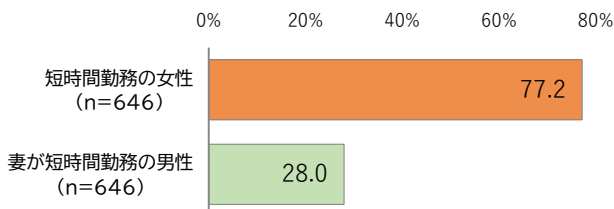
配偶者との家事分担満足度

(本人票 + 配偶者票)

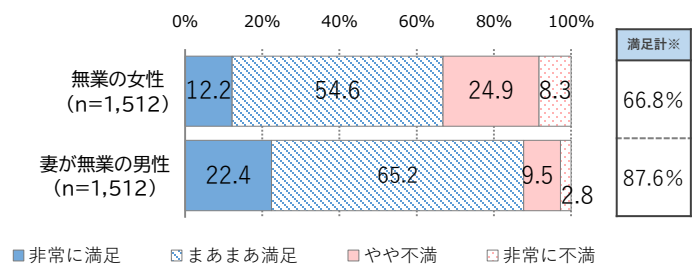
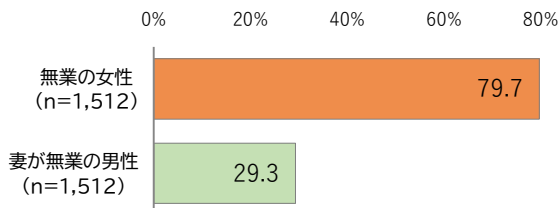
※「非常に満足」+「まあまあ満足」の累計値



【短時間勤務】



【配偶者が無業(働いていない)】



- 有配偶者における妻(女性)の勤務形態別に、日頃の配偶者との家事分担と、家事分担満足度を見た。

【妻がフルタイムの家庭】

「フルタイムの女性」の家事分担割合は、58.7%。対して「妻がフルタイムの男性」は37.2%と、この3区分の中では最も夫の家事分担度が高い。「フルタイムの女性」の配偶者に対する家事分担満足度は、「非常に満足+まあまあ満足」の計(満足計)で71.1%と、3区分の女性の中では、最も高い。

【妻が短時間勤務の家庭】

「短時間勤務の女性」の家事分担割合は、77.2%。対して「妻が短時間勤務の男性」は28.0%と、この3区分の中では最も夫の家事分担度が低い。「短時間勤務の女性」の配偶者に対する家事分担満足度は、満足計で57.4%と、3区分の女性の中では、最も低い。

【妻が無業(専業主婦)の家庭】

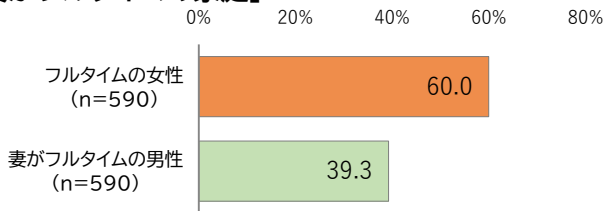
「無業の女性」の家事分担割合は、79.7%と、3区分の女性の中で最も高い。対して「妻が無業の男性」は29.3%。「無業の女性」の配偶者に対する家事分担満足度は、満足計で66.8%。対して、「妻が無業の男性」の家事分担満足度は87.6%と、3区分の男性の中で最も高い。

(7) 配偶者との家事・育児分担割合と満足度

【有配偶者 妻(女性)の勤務形態別】

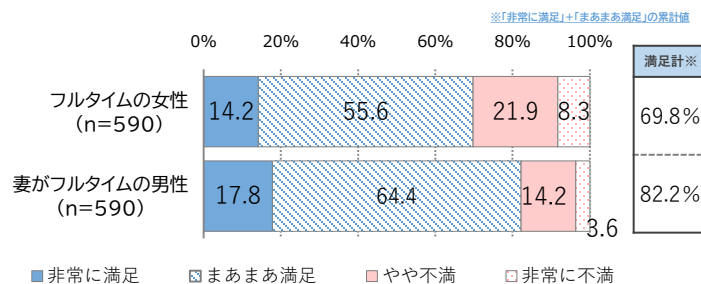
育児分担割合…小学校3年生以下の子供がいる人(※全体を100%にしたときに、自分が何%ぐらい行っているかの割合(平均))

【妻がフルタイムの家庭】

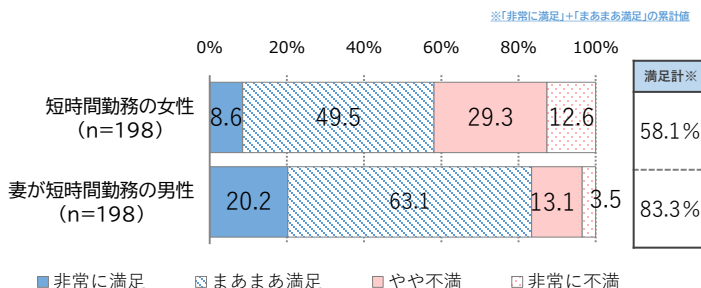
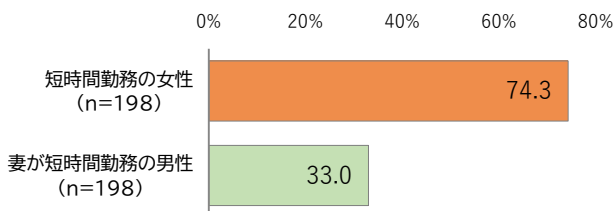


配偶者との家事分担満足度

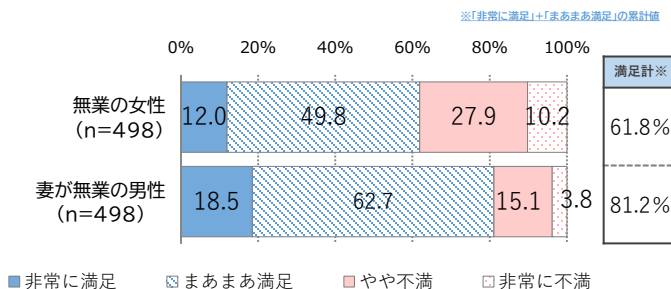
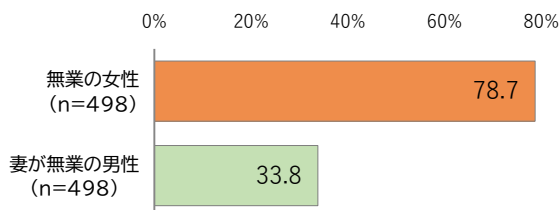
(本人票 + 配偶者票)



【妻が短時間勤務の家庭】



【妻が無業(働いていない)の家庭】



- 有配偶者における妻(女性)の勤務形態別に、日頃の配偶者との育児分担と、育児分担満足度を見た。

【妻がフルタイムの家庭】

「フルタイムの女性」の育児分担割合は、60.0%。対して「妻がフルタイムの男性」は39.3%と、この3区分の中では最も夫の育児分担度が高い。「フルタイムの女性」の配偶者に対する育児分担満足度は、「非常に満足+まあまあ満足」の計(満足計)で69.8%と、3区分の女性の中では、最も高い。

【妻が短時間勤務の家庭】

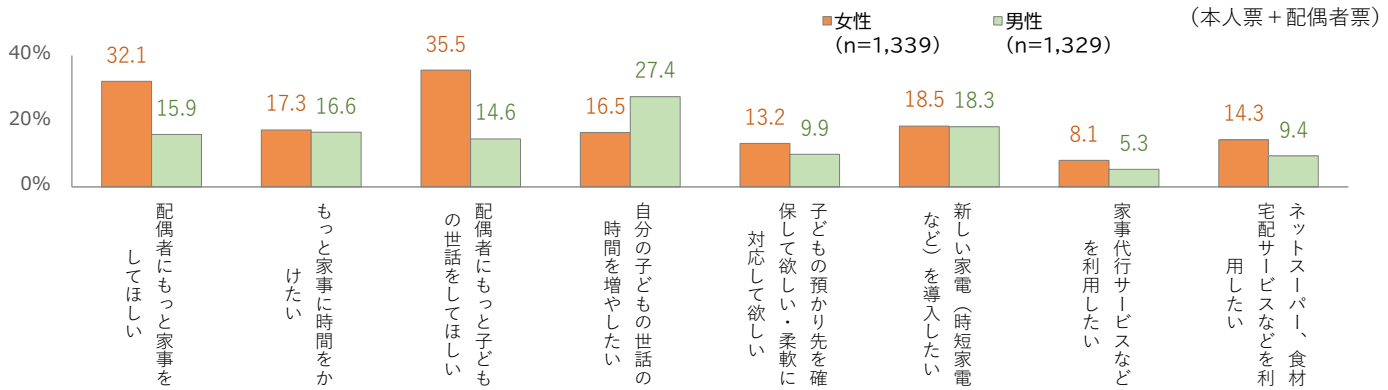
「短時間勤務の女性」の育児分担割合は、74.3%。対して「妻が短時間勤務の男性」は33.0%と、この3区分の中では最も夫の育児分担度が低い。「短時間勤務の女性」の配偶者に対する育児分担満足度は、満足計で58.1%と、3区分の女性の中では、最も低い。

【妻が無業(専業主婦)の家庭】

「無業の女性」の育児分担割合は、78.7%と、3区分の女性の中で最も高い。対して「妻が無業の男性」は33.8%。「無業の女性」の配偶者に対する家事分担満足度は、満足計で61.8%。対して、「妻が無業の男性」の家事分担満足度は81.2%。

(8) 家事・育児へのニーズ

【有配偶者・小学校3年生以下子供有】

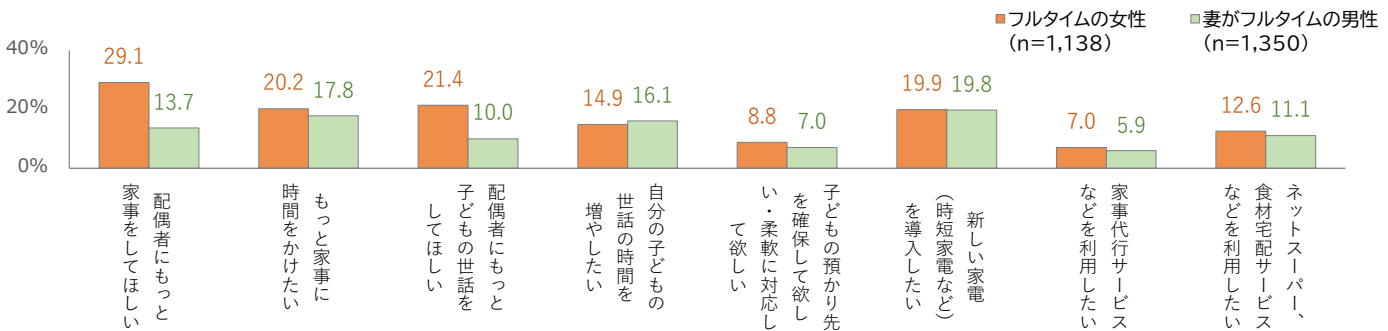


- 家事・育児へのニーズについて、有配偶者・小学生3年生以下の子供がいる男性・女性で比較すると、「女性」の方が「男性」の値よりも10ポイント以上高いもの=ギャップがあるものは、「配偶者にもっと子供の世話をしてほしい」「配偶者にもっと家事をしてほしい」。一方、「男性」の値が「女性」よりも10ポイント以上高いものは、「自分の子供の世話を増やしたい」。

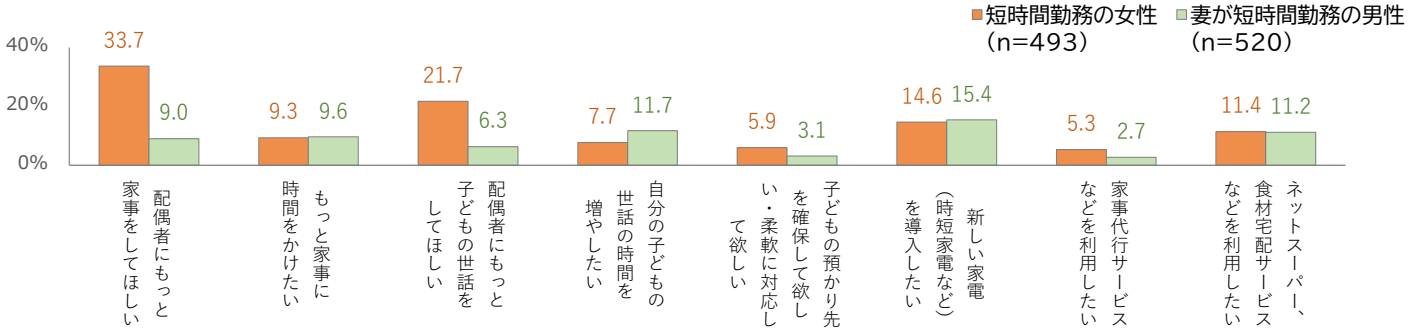
【有配偶者 妻(女性)の勤務形態別】

【妻がフルタイムの家庭】

(本人票 + 配偶者票)



【妻が短時間勤務の家庭】



【妻がフルタイムの家庭】

「フルタイムの女性」と、「妻がフルタイムの男性」で、「女性」の方が「男性」の値よりも10ポイント以上高いものは、「配偶者にもっと家事をしてほしい」「配偶者にもっと子供の世話をしてほしい」。また、男女ともに「もっと家事に時間をかけた」「新しい家電を導入したい」が2割近くと比較的高い。

【妻が短時間勤務の家庭】

「短時間勤務の女性」と、「妻が短時間勤務の男性」で、「女性」の方が「男性」の値よりも10ポイント以上高いものは、「配偶者にもっと家事をしてほしい」「配偶者にもっと子供の世話をしてほしい」。

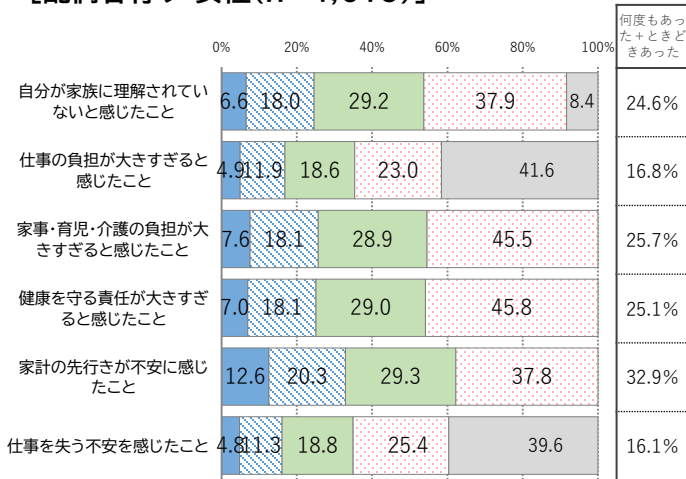
(9) 第一回緊急事態宣言中(2020年4~5月)の心理状況

【配偶者有無】

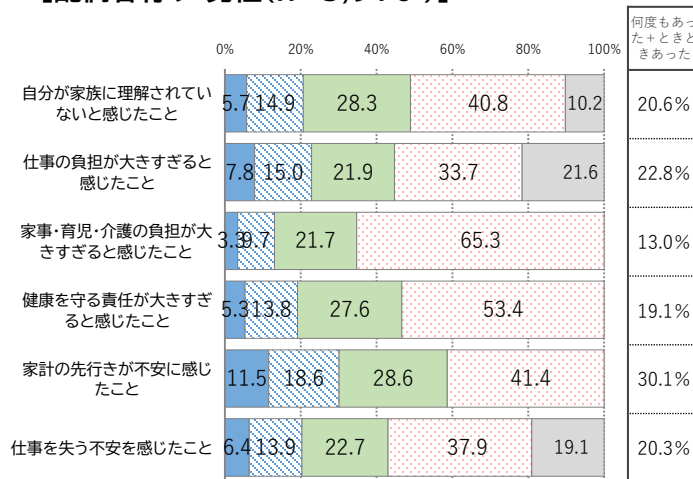
第一回緊急事態宣言中(2020年4~5月)

(本人票 + 配偶者票)

【配偶者有り・女性(n=4,016)】

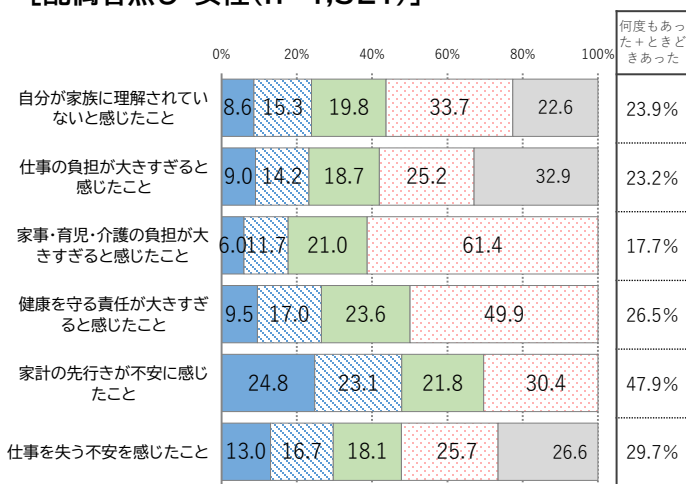


【配偶者有り・男性(n=3,970)】

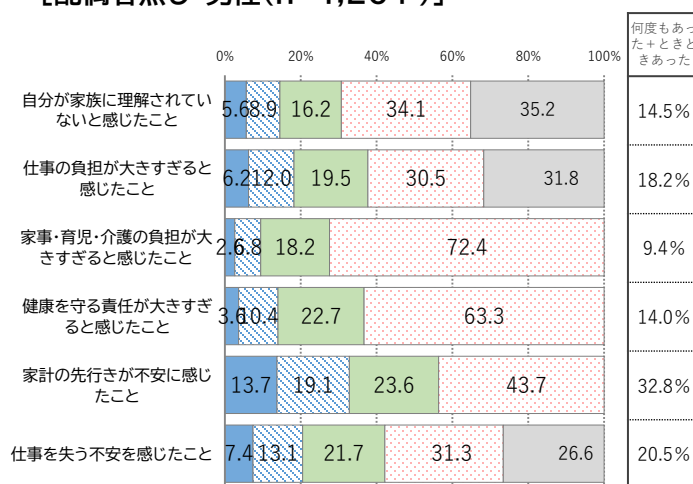


■ 何度もあった ▨ ときどきあった ■ ごくまれにあった □ まったくなかった ■ 該当しない

【配偶者無し・女性(n=1,321)】



【配偶者無し・男性(n=1,264)】



■ 何どもあった ▨ ときどきあった ■ ごくまれにあった □ まったくなかった ■ 該当しない

- 第一回緊急事態宣言中の心理状況について、配偶者の有無で見てみると、「家事育児介護の負担が大きすぎると感じたこと」は、「何どもあった+ときどきあった」とした割合が、「配偶者のいる女性」で最も高く、25.7%。
- 配偶者のいる男女で違いを見てみると、「自分が家族に理解されていないと感じたこと」「家事育児介護の負担が大きすぎると感じたこと」「健康を守る責任が大きすぎると感じたこと」については、「配偶者のいる女性」の方が、「配偶者のいる男性」に比べて、4ポイント以上高い。
- 一方、「家計の先行きが不安に感じたこと」について、最も不安を感じているのは「配偶者のいない女性」であり、「何どもあった+ときどきあった」が47.9%と高い。

(9) 第一回緊急事態宣言中(2020年4~5月)の心理状況

【配偶者有無】

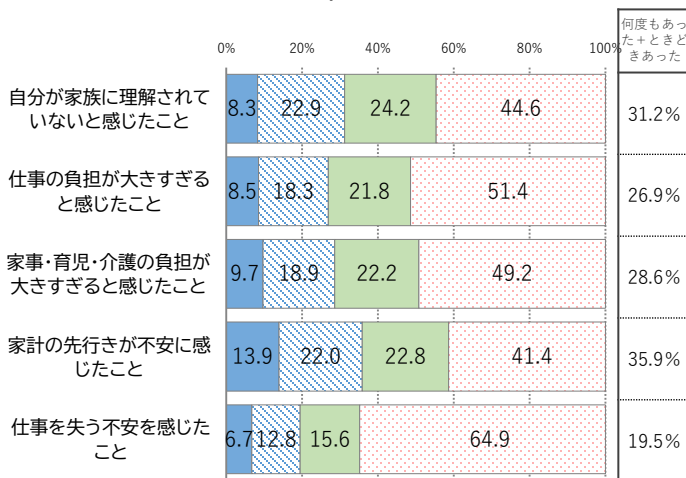
(本人票 + 配偶者票)

【参考値】令和元年度調査

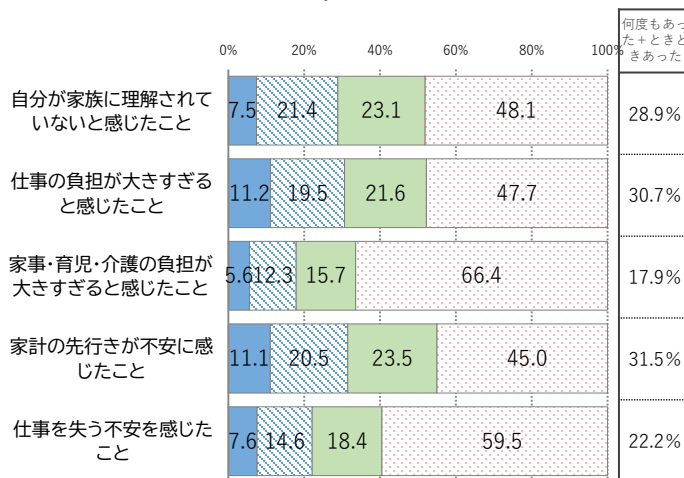
※令和元年度調査については、「該当しない」を設けていない項目が複数あった為、参考値として掲載。

ここ1か月(※2019年12月末に調査は実施)

【配偶者有り・女性(n=5,486)】

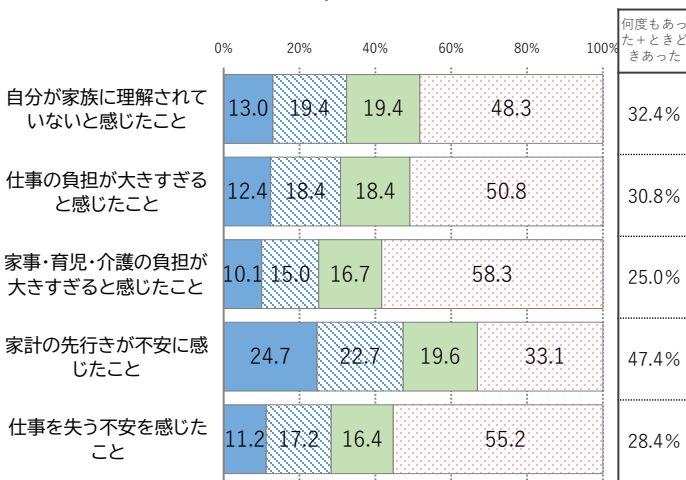


【配偶者有り・男性(n=5,486)】

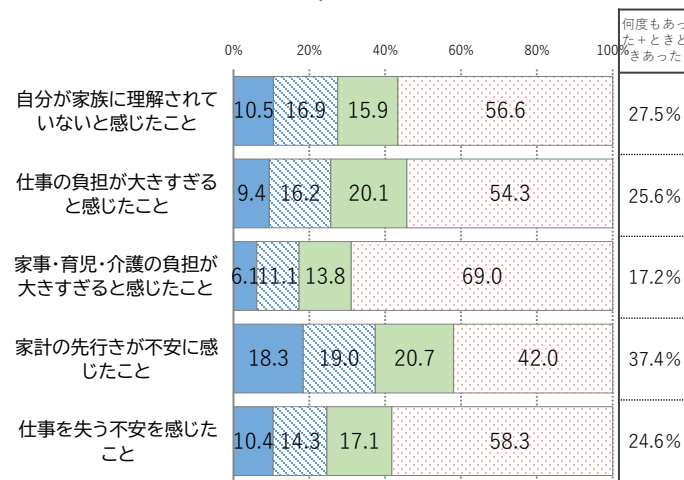


■ 何度もあった ■ ときどきあった ■ ごくまれにあった ■ まったくなかった

【配偶者無し・女性(n=1,318)】



【配偶者無し・男性(n=1,347)】



■ 何どもあった ■ ときどきあった ■ ごくまれにあった ■ まったくなかった

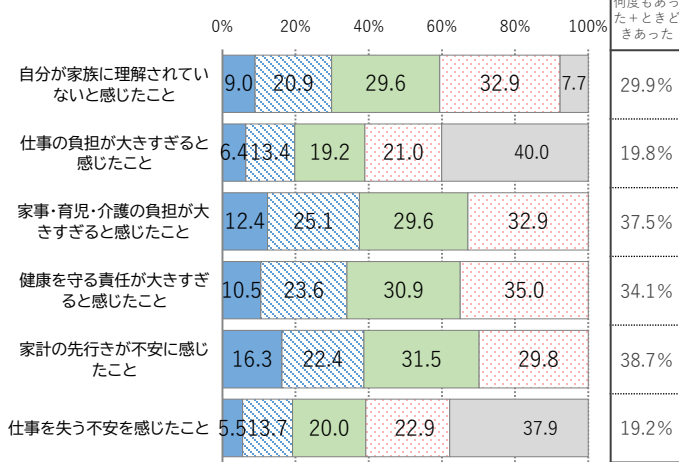
(9) 第一回緊急事態宣言中(2020年4~5月)の心理状況

【有配偶者・小学校3年生以下の子供有】

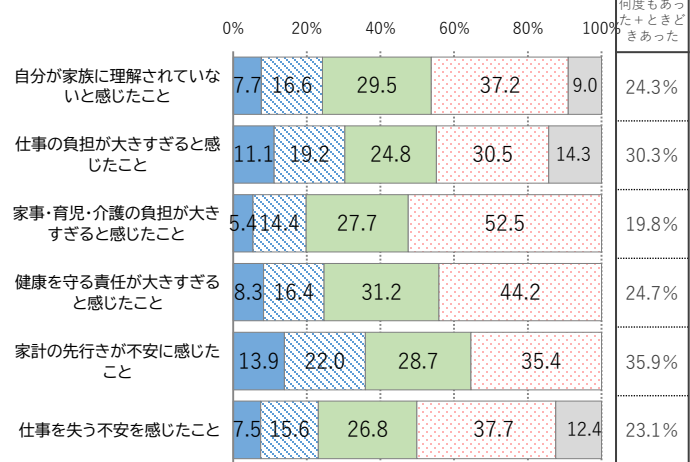
第一回緊急事態宣言中(2020年4~5月)

(本人票+配偶者票)

【小3以下の子供がいる女性(n=1,339)】



【小3以下の子供がいる男性(n=1,329)】



■ 何度もあった ■ ときどきあった ■ ごくまれにあった ■ まったくなかった ■ 該当しない

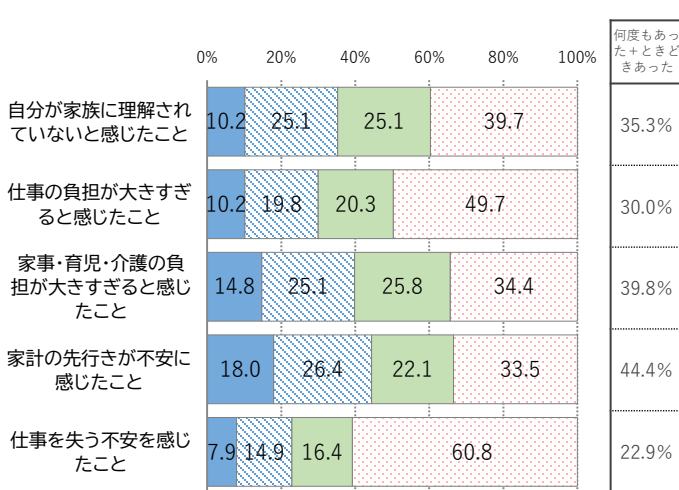
- 第一回緊急事態宣言中の心理状況について、有配偶者・小3以下の子供がいる人で見てみると、「家事育児介護の負担が大きすぎると感じたこと」は、「何どもあった+ときどきあった」とした割合が、「小3以下の子供がいる女性」で37.5%と、「小3以下の子供がいる男性」19.8%と比べ、大きな差がある。
- 他にも、「自分が家族に理解されていないと感じたこと」「健康を守る責任が大きすぎると感じたこと」については、「小3以下の子供がいる女性」の方が、「小3以下の子供がいる男性」と比べて、5ポイント以上高い。

【参考値】令和元年度調査

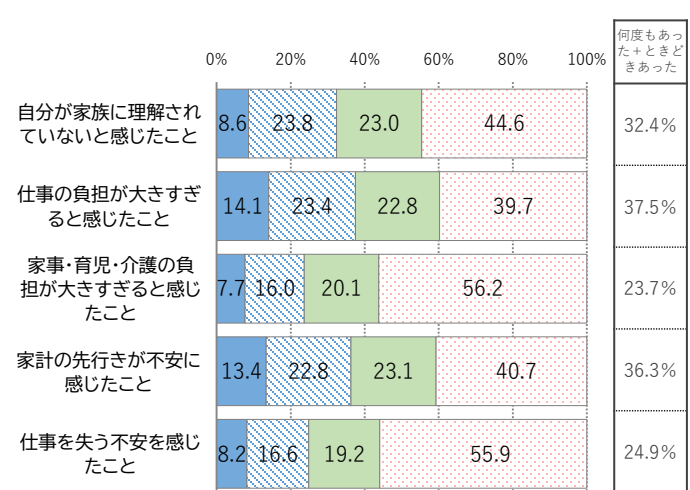
※令和元年度調査については、「該当しない」を設けていない項目が複数あった為、参考値として掲載。

ここ1か月(※2019年12月末に調査は実施)

【小3以下の子供がいる女性(n=2,008)】



【小3以下の子供がいる男性(n=1,983)】



■ 何どもあった ■ ときどきあった ■ ごくまれにあった ■ まったくなかった

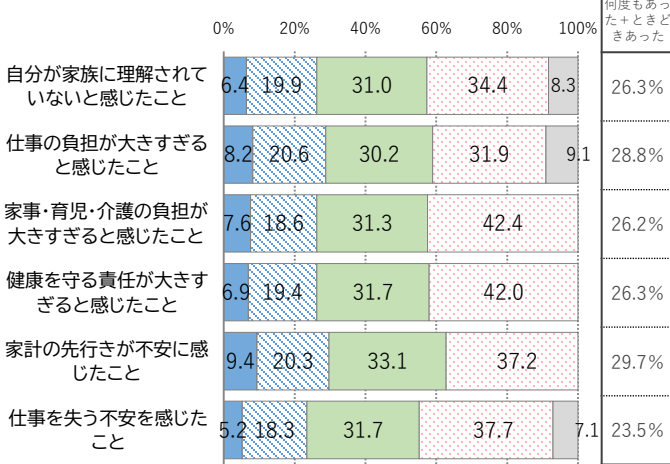
(9) 第一回緊急事態宣言中(2020年4~5月)の心理状況

【有配偶者・雇用形態(正規・非正規)別】

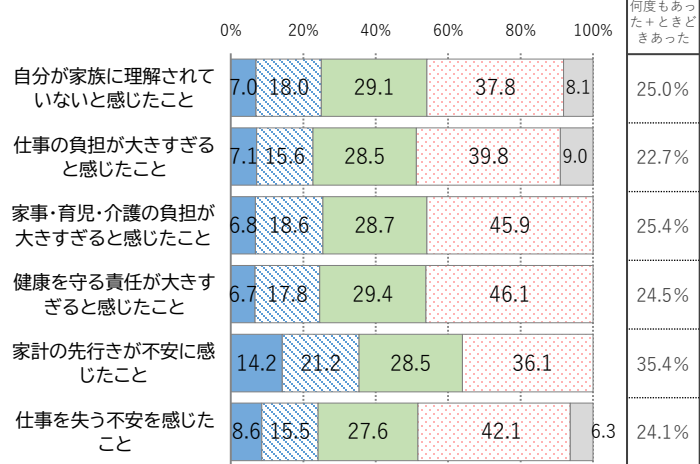
第一回緊急事態宣言中(2020年4~5月)

(本人票+配偶者票)

【正規雇用 女性(n=1,181)】

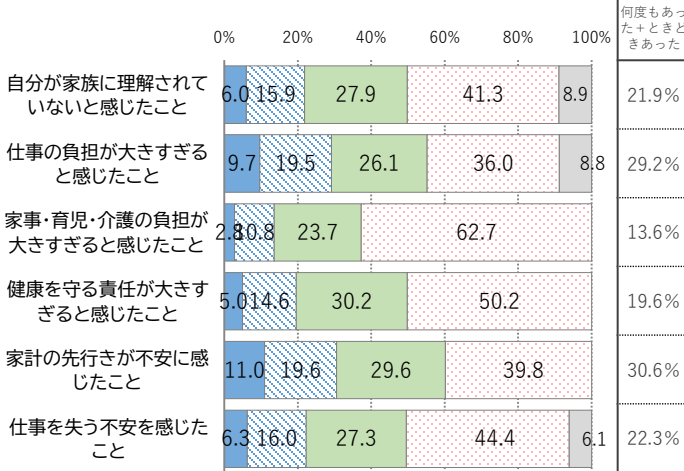


【非正規雇用 女性(n=1,086)】

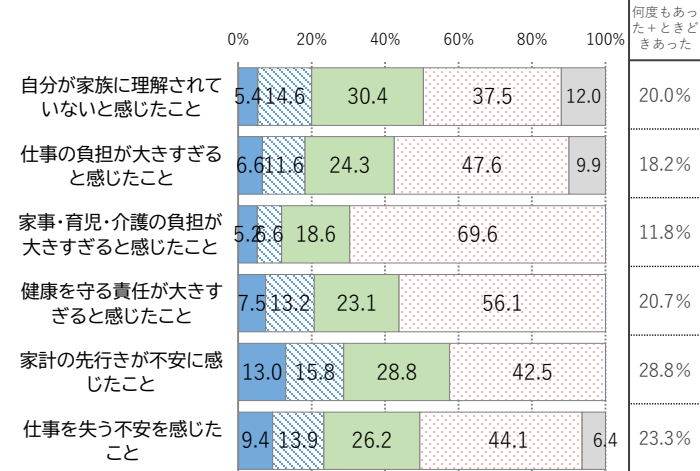


■ 何度もあった ■ ときどきあった ■ ごくまれにあった ■ まったくなかった ■ 該当しない

【正規雇用 男性(n=2,636)】



【非正規雇用 男性(n=424)】



■ 何どもあった ■ ときどきあった ■ ごくまれにあった ■ まったくなかった ■ 該当しない

- 第一回緊急事態宣言中の心理状況について、有配偶者・雇用形態別で見ると、「家事育児介護の負担が大きすぎると感じたこと」は、「何どもあった+ときどきあった」とした割合が、「正規雇用の女性」で最も高く、26.2%。
- 正規雇用の男女で違いを見てみると、「自分が家族に理解されていないと感じたこと」「家事育児介護の負担が大きすぎると感じたこと」「健康を守る責任が大きすぎると感じたこと」については、「正規雇用の女性」の方が、「正規雇用の男性」に比べて、4ポイント以上高く、特に「家事育児介護の負担が大きすぎると感じたこと」については、10ポイント以上の差がある。
- 一方、「家計の先行きが不安に感じたこと」について、「何どもあった+ときどきあった」とした割合が最も高かったのは、「非正規雇用の女性」で35.4%。

(9) 第一回緊急事態宣言中(2020年4~5月)の心理状況

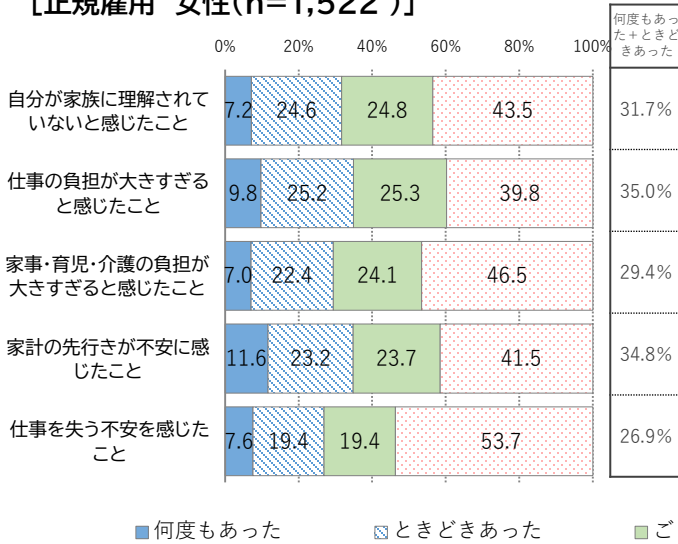
【有配偶者・雇用形態別】

(本人票+配偶者票)

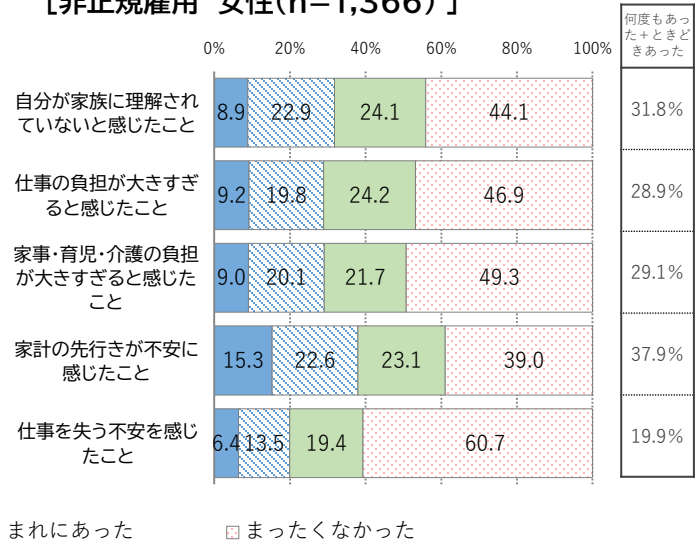
【参考値】令和元年度調査 ※令和元年度調査については、「該当しない」を設けていない項目が複数あった為、参考値として掲載。

ここ1か月(※2019年12月末に調査は実施)

【正規雇用 女性(n=1,522)】

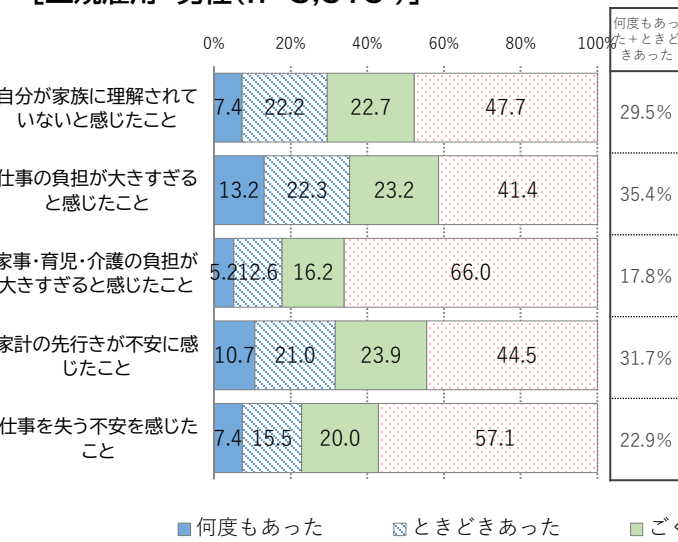


【非正規雇用 女性(n=1,366)】

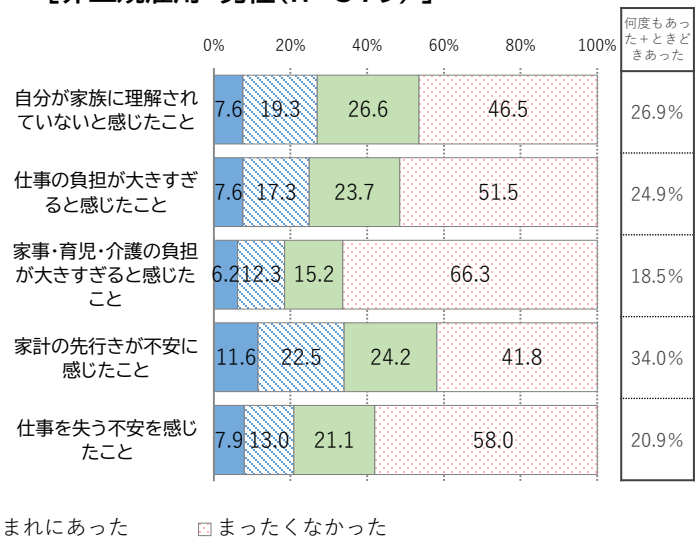


■ 何度もあった ▨ ときどきあった ■ ごくまれにあった □ まったくなかった

【正規雇用 男性(n=3,575)】



【非正規雇用 男性(n=579)】

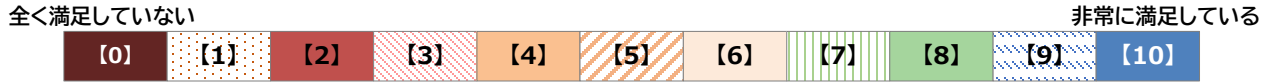


■ 何度もあった ▨ ときどきあった ■ ごくまれにあった □ まったくなかった

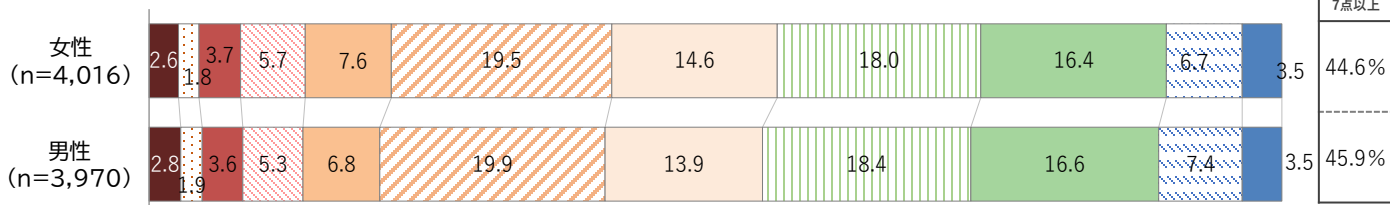
(10) 現在の生活満足度

【配偶者有無別】

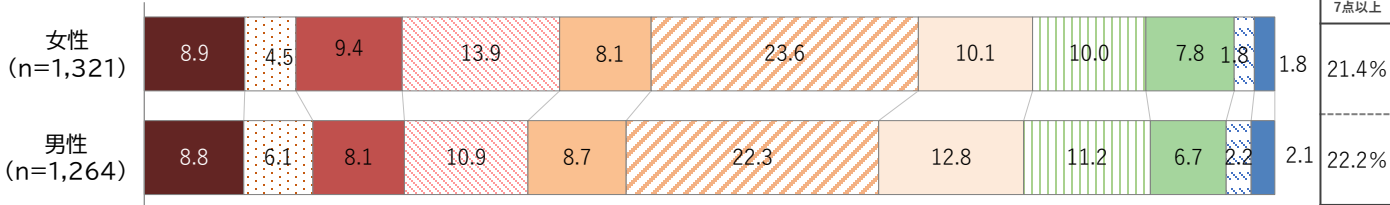
(本人票 + 配偶者票)



【配偶者がいる人】



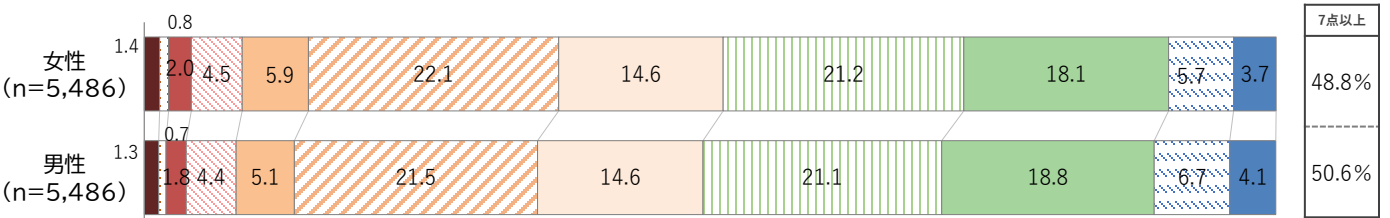
【配偶者がいない人】



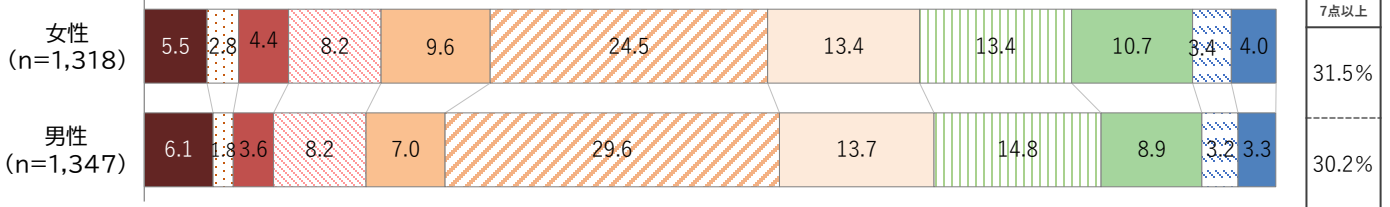
- 「得点7点以上(満足寄り)」の割合は、「配偶者がいる女性」で44.6%、「配偶者がいる男性」で45.9%。対して、「配偶者がいない女性」では、「得点7点以上(満足寄り)」が21.4%、「配偶者がいない男性」では22.2%となり、男女とも「配偶者がいる」人の割合と比べると、倍以上の差がある。
- 令和元年度調査との比較では、「得点7点以上(満足寄り)」の割合は、「配偶者がいる女性」で4.2ポイントダウン、「配偶者がいる男性」で4.7ポイントダウンとなった。
- また、「配偶者がいない男女」での「得点7点以上(満足寄り)」の割合は、「配偶者がいない女性」で10.1ポイントダウン、「配偶者がいない男性」で8.0ポイントダウンとなった。

【比較】令和元年度調査

【配偶者がいる人】



【配偶者がいない人】



(10) 現在の生活満足度

【世帯類型別】

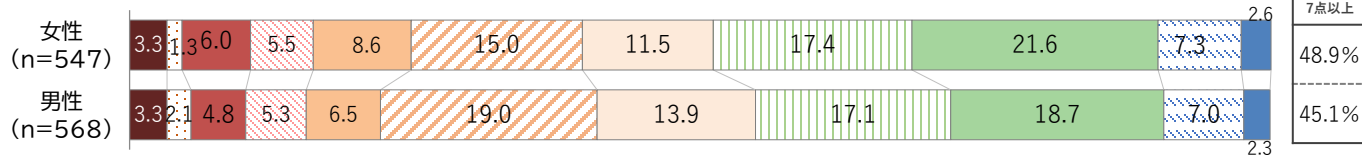
(本人票)

全く満足していない

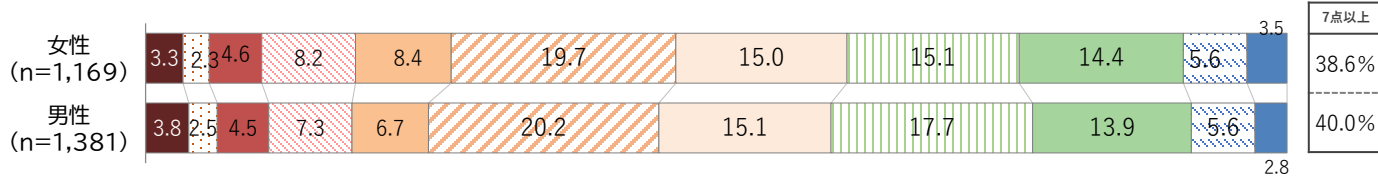
非常に満足している



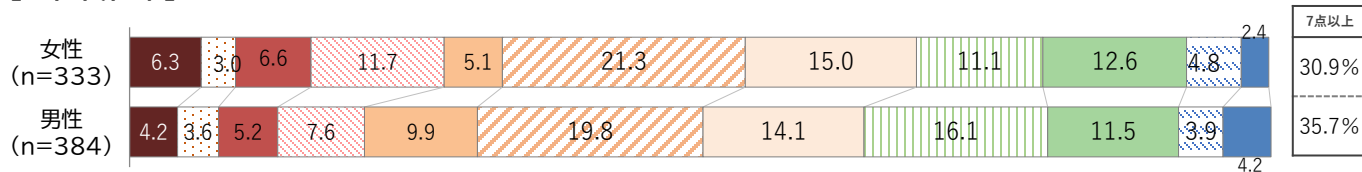
【夫婦のみ世帯】



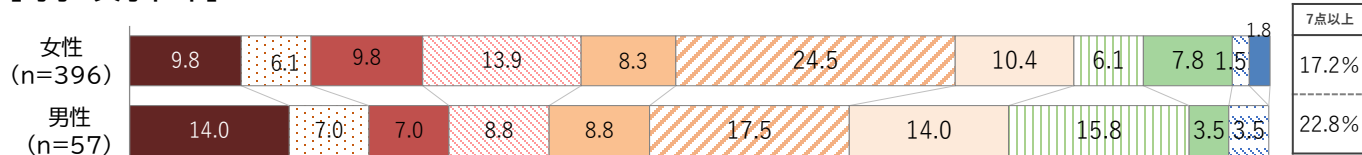
【夫婦と子供から成る世帯】



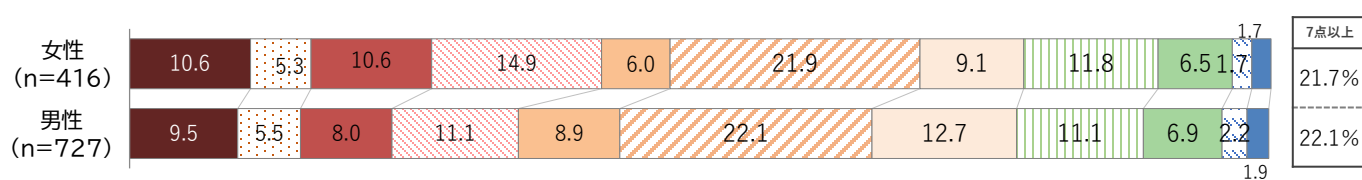
【三世帯世帯】



【母子・父子世帯】



【単独世帯】



- 「得点7点以上(満足寄り)」の割合を世帯類型別で見ると、最も低いのは、「母子世帯の女性」で17.2%。次に低いのは「単独世帯の女性」で21.7%。最も高いのは、「夫婦のみ世帯の女性」で48.9%。

(10) 現在の生活満足度

【世帯類型別】

(本人票)

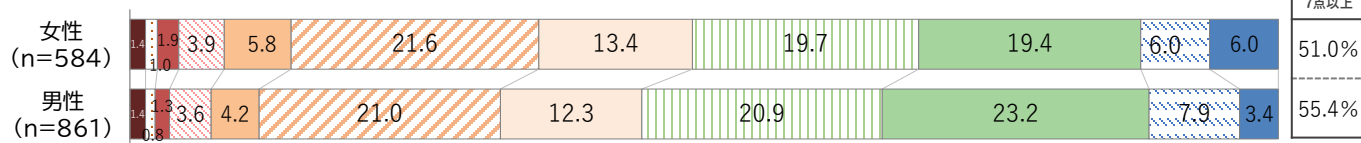
【比較】令和元年度調査

全く満足していない

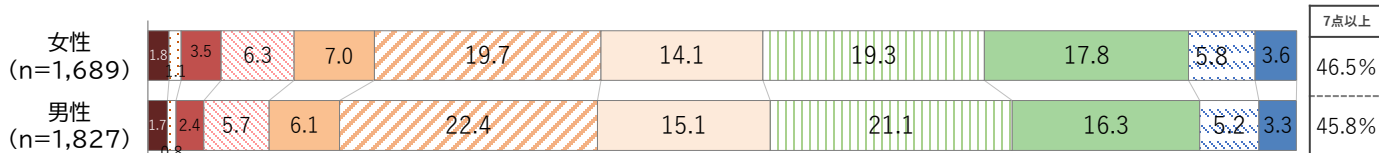
非常に満足している



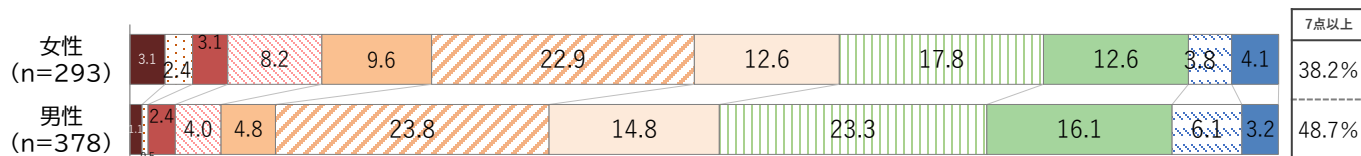
【夫婦のみ世帯】



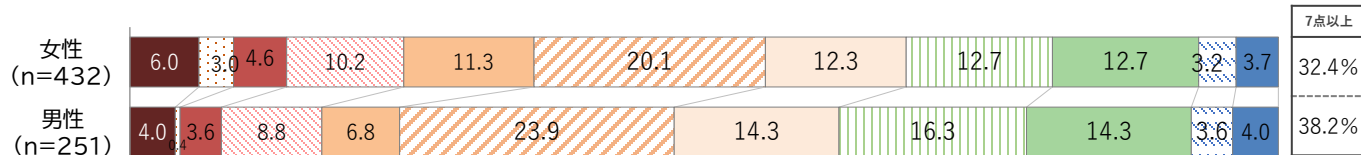
【夫婦と子供から成る世帯】



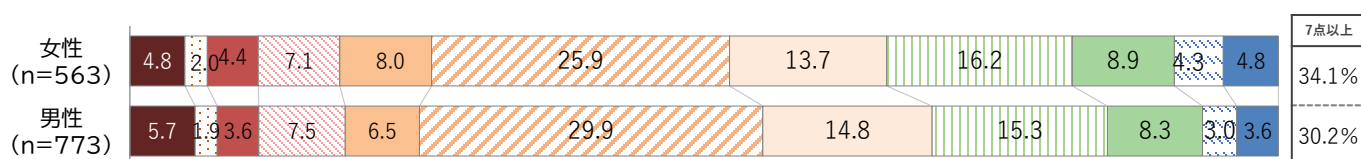
【三世帯世帯】



【ひとり親と子からなる世帯 ※本年度調査と定義は異なる】



【単独世帯】



- 令和元年度調査との比較では、本年度調査で「得点7点以上(満足寄り)」の減少度が大きいもの(10ポイント以上ダウン)は、「夫婦のみ世帯男性」、「三世帯世帯の男性」、「単独世帯の女性」。
- また、令和元年度調査と定義が異なるため、参考値ではあるが、「ひとり親と子からなる世帯の女性」は、令和元年度調査では「得点7点以上(満足寄り)」が32.4%であったが、本年度調査の「母子世帯の女性」では17.2%と、大きく減少している。

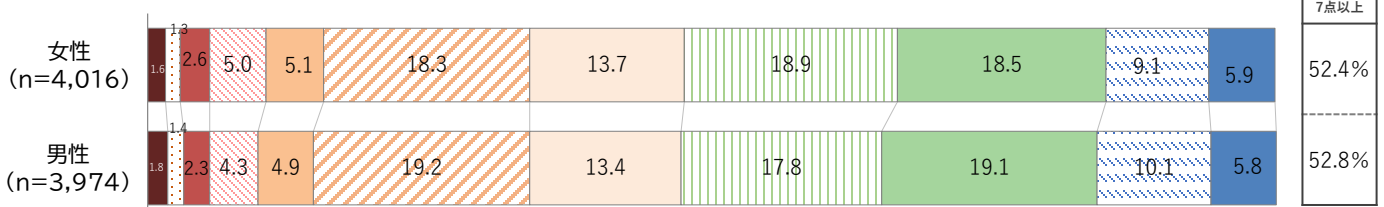
(11) 現在の幸福度

【配偶者有無】

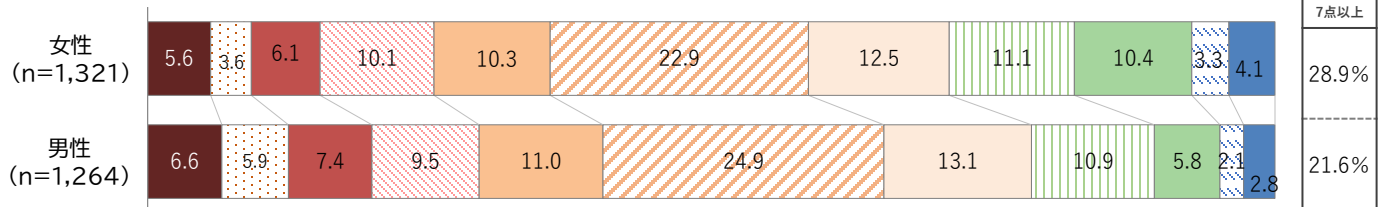
(本人票 + 配偶者票)



【配偶者がいる人】



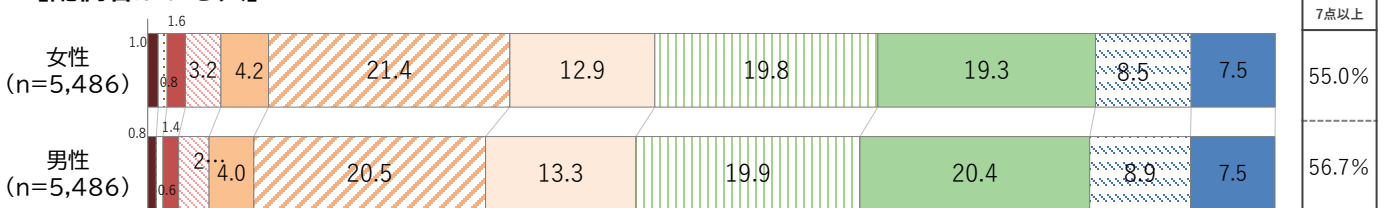
【配偶者がいない人】



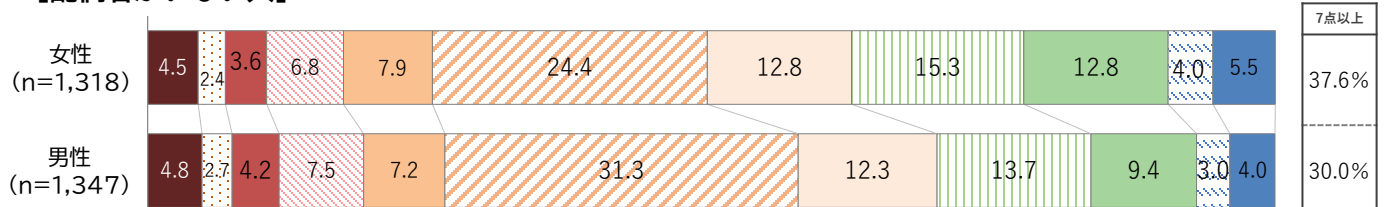
- 「得点7点以上(幸せ寄り)」の割合は、「配偶者がいる女性」で52.4%、「配偶者がいる男性」で52.8%とほぼ同じ。対して、「配偶者がいない女性」では、「得点7点以上(幸せ寄り)」が28.9%、「配偶者がいない男性」では21.6%となった。特に「男性」で、「配偶者の有無」による幸福度の違いが大きい。
- 令和元年度調査との比較では、「得点7点以上(幸せ寄り)」の割合は、「配偶者がいる女性」で2.6ポイントダウン、「配偶者がいる男性」で3.9ポイントダウンとなった。
- また、「配偶者がいない男女」での「得点7点以上(幸せ寄り)」の割合は、「配偶者がいない女性」で8.7ポイントダウン、「配偶者がいない男性」で8.4ポイントダウンとなった。

【比較】令和元年度調査

【配偶者がいる人】



【配偶者がいない人】



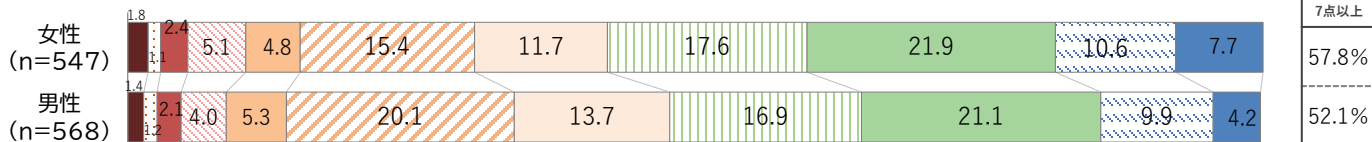
(11) 現在の幸福度

【世帯類型別】

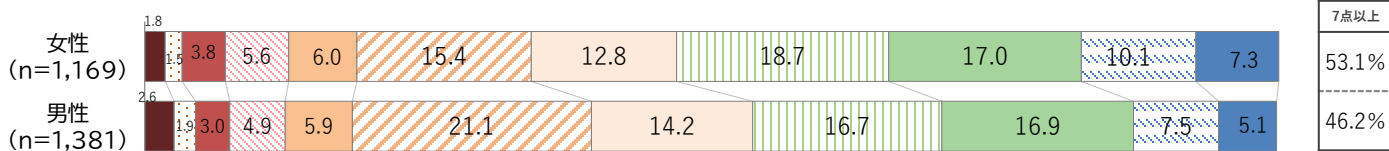
(本人票)



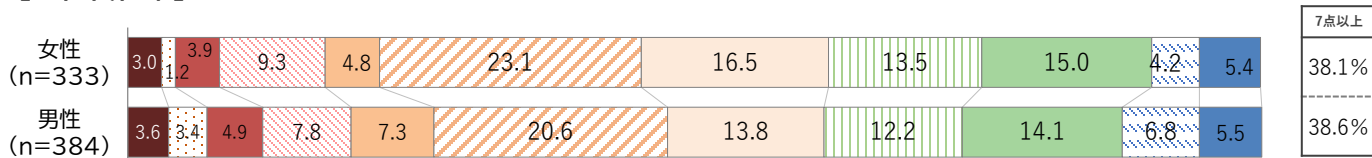
【夫婦のみ世帯】



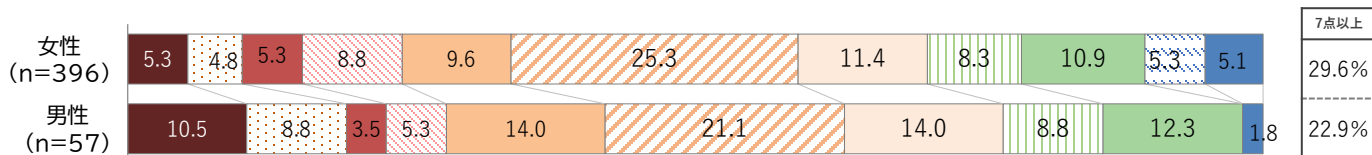
【夫婦と子供から成る世帯】



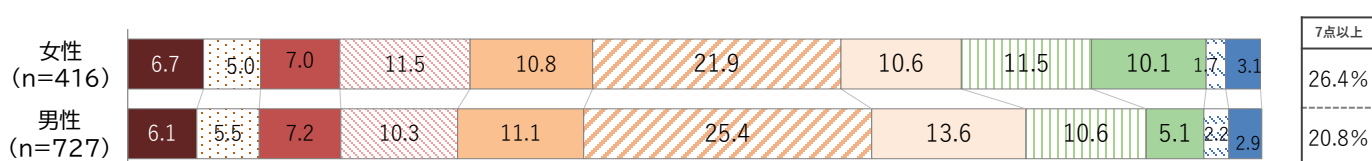
【三世帯世帯】



【母子・父子世帯】



【単独世帯】



- 「得点7点以上(幸せ寄り)」の割合を世帯類型別で見ると、最も低いのは、「単独世帯の男性」で20.8%。次に「父子世帯の男性」22.9%、「単独世帯の女性」26.4%、「母子世帯の女性」29.6%と続く。最も高いのは、「生活満足度」と同じく、「夫婦のみ世帯の女性」で57.8%。

(11) 現在の幸福度

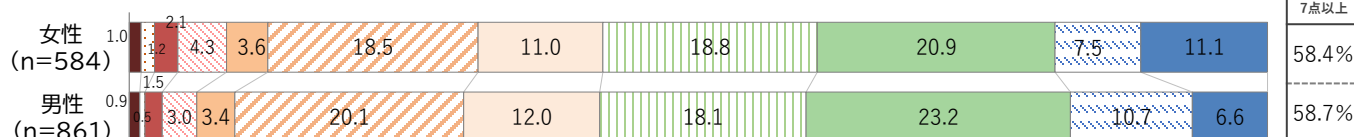
【世帯類型別】

(本人票)

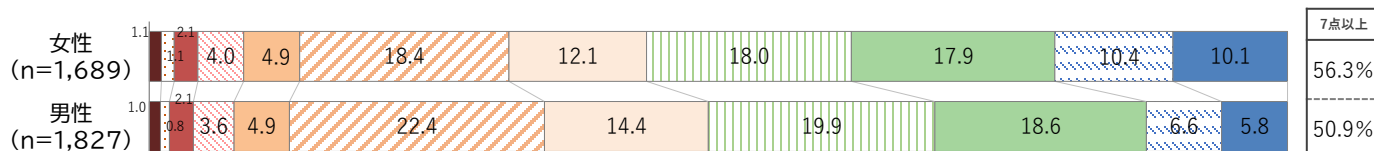
【比較】令和元年度調査



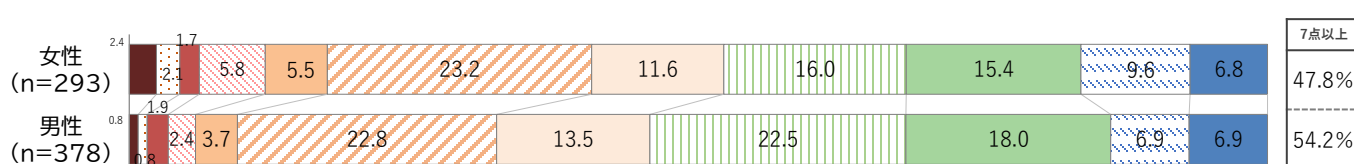
【夫婦のみ世帯】



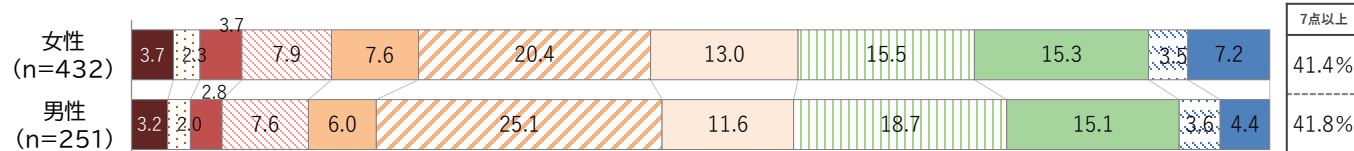
【夫婦と子供から成る世帯】



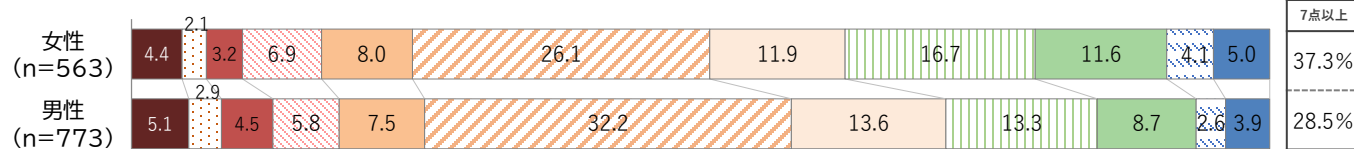
【三世帯世帯】



【ひとり親と子からなる世帯 ※本年度調査と定義は異なる】



【単独世帯】



- 令和元年度調査との比較では、本年度調査で「得点7点以上(幸せ寄り)」の減少度が大きいもの(10ポイント以上ダウン)は、「三世帯世帯の男女」、「単独世帯の女性」。
- また、令和元年度調査と定義が異なるため、参考値ではあるが、「ひとり親と子からなる世帯の女性」は、令和元年度調査では「得点7点以上(幸せ寄り)」が41.4%であったが、本年度調査の「母子世帯の女性」では29.6%と減少。また、「父子世帯の男性」も、41.8%→本年度調査では22.9%と減少している。

2. 生活全般の状況とコロナによる影響

分析結果まとめ

1. 1日の時間の使い方(現在・2020年12月時点)

1 「仕事のある1日」の時間の使い方に変化が大きかったのは、**有業男女全体では共通で「育児時間」が20分程度増加**、一方**「仕事時間」は減少**。「家事時間」に大きな変化はなかった。

2 但し、「仕事のある1日」の有業男女における**トータルの「家事・育児時間」については、男性に対して女性は2倍以上と、バランスの悪さは変わらず**。

3 「仕事のない1日」でも同様に、「家事時間」に大きな変化はないが、「育児時間」は**有業女性で30分程度増加、有業男性では50分と大きく増加**。

- 令和元年度調査と比較し、仕事がある日の有業女性では、「仕事時間」は15分短くなり、「育児時間」は20分増加。仕事がある日の有業男性では、「仕事時間」が25分短くなり、「育児時間」は21分増加、「家事時間」は横ばい。仕事のある1日について、有業女性が、有業男性の2倍以上「家事・育児」に時間を割いている、という現状は大きく変わらないが、男性の育児参加時間は増加傾向。
- 仕事がない日の有業男女の傾向を見てみると、「家事時間」は男女とも±5分程度。一方、「育児時間」については、有業女性は29分増加、有業男性は51分と大きく増加。休日においても子供が外に遊びに行けず、家に滞在する時間が増えている事が予想される中、男性の休日における家事時間はそこまで伸びていないが、育児時間は大きな改善が見られた。

有業者全体 仕事のある1日 時間の使い方		今年度 調査	令和元年度 調査	増加・ 減少度
仕事時間	女性	7時間27分	7時間42分	-15分
	男性	8時間47分	9時間12分	-25分
家事時間	女性	1時間59分	2時間03分	-4分
	男性	0時間50分	0時間52分	-2分
育児時間	女性	1時間52分	1時間32分	+20分
	男性	0時間53分	0時間32分	+21分

有業者全体 仕事のない1日 時間の使い方		今年度 調査	令和元年度 調査	増加・ 減少度
家事時間	女性	3時間03分	3時間08分	-5分
	男性	1時間42分	1時間37分	+5分
育児時間	女性	3時間05分	2時間36分	+29分
	男性	2時間15分	1時間24分	+51分

2. 第一回緊急事態宣言時(2020年4-5月)とそれ以前の時間変化

1 有配偶の男女で共通で挙げたのは、「**家事時間の増加**」。
特に、「小3以下の子供がいる女性」での「**家事時間の増加**」実感が3割と高い。

2 小3以下の子供がいる家庭での「**育児時間増加**」実感は、**女性で3割**。→小3以下の子供がいる女性では「**家事も育児も増えた**」と3割の人が実感＝**最も負担が大きかった**と思われる。

3 反対に減ったのは、男女共通で「**仕事時間**」。
特に「**非正規雇用**」では、**男女共通で2割が「仕事時間が減った**」とした。

- 第一回緊急事態宣言時(2020年4-5月)とそれ以前(コロナ前)を比較して、時間の使い方に変化があったかどうかを聞いた結果、男女・配偶者有無・雇用形態に関わらず、「家事時間が増えた」とした人は10%以上。有業者については、「仕事時間が減った」とした人が、10%以上。
- 「家事時間」「育児時間」共に、「増えた」とした割合が高かったのは、「小3以下の子供がいる女性」で、どちらも3割増。対して、「小3以下の子供がいる男性」では、「家事時間」は25%が増加、「育児時間」は26%が増加となった。また、「家族と遊んだりくつろぐ時間」についても、「小3以下の子供がいる」男女共に、3割近くが「増えた」としており、家にいる時間が長くなることにより、育児時間や、家族とコミュニケーションをとる時間は増加したと言える。一方で、もともと男女で「家事時間」「育児時間」に倍近い差がある中で、「増えた」とする割合はそれでも女性の方が高い属性が多く、その差が埋まるほどの増加状況ではなかったことも窺える。

2. 生活全般の状況とコロナによる影響

分析結果まとめ

3. 現在の家事頻度・育児頻度(現在・2020年12月時点)

1 有配偶の男性での「**食事の準備**」「**食事の片づけ**」「**洗濯**」の「**ほぼ毎日・毎回する**」実施率は、有配偶の女性に対して30～50ポイント程度の差があり、女性の方が依然頻度が高い。

2 一方、令和元年度調査と比べると、小3以下の子供がいる男性の「**食事の準備・片づけ**」「**洗濯**」を「**全くしない**」とした率は5ポイント以上減少→**男性の家事参加率はやや上昇**。

3 小1～小3の末子がいる男性で、「**風呂に入れる**」「**寝かしつける**」実施率が**やや上昇**。但し**男性で「ほぼ毎日・毎回する」育児タスクで5割を超えるものがない**現状は変わらず。

- 有配偶の女性で「ほぼ毎日・毎回する」が5割を超えるものは、「食事の準備」73.0%、「食事の片づけ」70.3%、「洗濯」55.8%。有配偶の男性ではいずれの「ほぼ毎日・毎回する」実施率も20～30%程度と差が大きい。
- その中でも、小3以下の子供がいる男性では、令和元年度調査と比べると、「食事の準備」を全くしない人は39.7%→本年度調査では32.7%に減少、「食事の片づけ」を全くしない人は27.1%→本年度調査では20.7%に減少、「洗濯」を全くしない人は36.5%→30.9%に減少と、全くしない人が減少=家事参加率の上昇は窺えた。
- 育児についても、小1～小3の末子がいる男性で、「風呂に入れる」「寝かしつける」など、テレワーク等による勤務時間の減少や家にいる時間の増加も関係してか、特に夜に子供と接触する育児について、実施率の上昇が見受けられた。但し、全ての年齢の子供に対して、「ほぼ毎日・毎回する」と答えた育児タスクで5割を超えるものがない(女性では複数ある)現状は、本年度調査でも変わらなかった。

4. 配偶者との家事・育児分担割合と満足度

1 有配偶者における**家事分担割合は「女性7割／男性3割」、小3以下の子供がいる有配偶者における育児分担割合は「女性7割／男性35%前後」と、令和元年度調査と同様の傾向**。

2 妻の勤務形態別に見ると、「**妻がフルタイム**」の家庭で、**家事・育児共に女性6割・男性4割と、最も男性の実施割合が高い**。一方「**妻が短時間勤務**」の男性では、**家事実施率が3割**。

3 有配偶者における**家事・育児分担満足度は、男女で18ポイント前後差があり、女性の方が満足度が低い傾向は変わらず**。但し、**家事・育児分担への満足度は男女とも昨年より微増**。



- 有配偶の女性では、家事分担割合は70.6% (令和元年度調査69.3%)、育児分担割合は69.6% (令和元年度調査71.3%)。有配偶の男性の家事分担割合は32.3% (令和元年度調査32.6%)、育児分担割合は36.1% (令和元年度調査35.0%)と、大きく家事・育児分担割合は変わらない。
- 妻の勤務形態別に家事・育児分担割合を見ると、「妻がフルタイム」の家庭で、家事については女性58.7%、男性37.2%、育児については女性60.0%、男性39.3%と、家事・育児共に凡そ「女性6割/男性4割」の比率と、男性の家事・育児参加率がまだ高い。一方、「妻が短時間勤務」の家庭では、家事については女性77.2%、男性28.0%、育児については女性74.3%、男性33.0%と、男性の家事・育児実施割合は凡そ3割程度と低い。
- 家事・育児分担への満足度は、女性で65%前後に対し、男性は8割強と、男女で18ポイント前後差がある。令和元年度調査と同様の傾向だが、男女とも昨年より家事・育児共に満足度は微増している。

2. 生活全般の状況とコロナによる影響

分析結果まとめ

5. 一回目の緊急事態宣言時(2020年4-5月)の心理状況

1 小3以下の子供がいる世帯では、「家事・育児・介護の負担が大きすぎると感じた」は女性の方が18ポイント高く、「健康を守る責任が大きいと感じた」も女性が9ポイント高い。

2 配偶者無しの世帯では、「家計の先行きが不安に感じた」は、配偶者無しの女性で顕著に高く、配偶者無しの男性に比べて15ポイント以上高い。

3 雇用形態別に見てみると、非正規雇用の女性では「家計の先行きが不安に感じた」が高く、正規雇用の女性と比べても、同じ非正規雇用の男性と比べても、5ポイント以上高い。

第一回緊急事態宣言時の心理状況 ※何度もあった+時々あったの累計値		家事・育児・介護の負担が大きすぎると感じたこと	健康を守る責任が大きすぎると感じたこと	家計の先行きが不安に感じたこと
小3以下の子供がいる世帯	女性	37.5%	34.1%	38.7%
	男性	19.8%	24.7%	35.9%
配偶者無しの世帯	女性	17.7%	26.5%	47.9%
	男性	9.4%	14.0%	32.8%
雇用形態別	正規雇用の女性	26.2%	26.3%	29.7%
	正規雇用の男性	13.6%	19.6%	30.6%
	非正規雇用の女性	25.4%	24.5%	35.4%
	非正規雇用の男性	11.8%	20.7%	28.8%

6. 今後の家事・育児へのニーズ

1 小3以下の子供がいる世帯での男女差を見ると、「配偶者にもっと子供の世話・家事をしてほしい」は女性の方が10ポイント以上高い。

2 妻がフルタイムの家庭では、男女共に「もっと家事に時間をかけたい」が2割前後、一方で「新しい時短家電などを導入したい」も2割と、時間のなかで家事効率化を望む考えが窺える。

3 妻が短時間勤務の家庭では、「配偶者にもっと家事をしてほしい」は女性が3割超に対し、男性は1割未満と、男女でのギャップがより大きい。

- 家事・育児へのニーズについての男女ギャップを見てみると、小3以下の子供がいる世帯の女性では、「配偶者にもっと子供の世話をしてほしい」35.5%（男性14.6%）、「配偶者にもっと家事をしてほしい」32.1%（男性15.9%）と差が大きく、女性の配偶者の家事・育児実施状況に対する不満が窺える。
- 対して、小3以下の子供がいる世帯の男性では、「自分の子供の世話の時間を増やしたい」27.4%、「もっと家事に時間をかけたい」16.6%と、まだ家事に比べると、育児の方が積極的に時間を増やしたい気持ちが強い。
- 妻がフルタイムの家庭での傾向を見てみると、「もっと家事に時間をかけたい」が女性で20.2%、男性でも17.8%と高く、「新しい家電（時短家電など）を導入したい」も女性で19.9%、男性で19.8%と高い。
- 妻が短時間勤務の家庭での傾向を見てみると、「配偶者にもっと家事をしてほしい」は女性で33.7%（男性9.0%）、「配偶者にもっと子供の世話をしてほしい」は女性で21.7%（男性で6.3%）と、男女差がより大きく、現状の家事・育児分担に対して、短時間勤務の女性でより不満を抱く人が多いことが窺える。

第2章 調査結果

3. 仕事の状況とコロナによる影響

3. 仕事の状況とコロナによる影響

- ・ コロナ下における仕事面への影響についてまとめる。

(1) 分析対象の業種・職種

【性別 ※有業者】

(本人票)

<業種>

(%)

	農業・林業・漁業	鉱業・採石業・砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業・郵便業	卸売業	小売業	金融業・保険業	不動産業・物品賃貸業	宿泊業・飲食サービス業	教育・学習支援業	医療・福祉業	他サービス業	その他の産業
全体 (n=4,898)	1.2%	0.1%	5.0%	18.1%	1.3%	4.5%	5.3%	3.9%	7.3%	4.4%	2.2%	4.0%	5.4%	11.6%	15.5%	10.3%
女性 (n=1,885)	1.0%	0.2%	4.2%	11.3%	0.9%	2.4%	3.4%	2.2%	9.4%	4.4%	1.9%	6.4%	6.7%	17.8%	16.6%	11.3%
男性 (n=3,013)	1.3%	0.1%	5.5%	22.3%	1.5%	5.8%	6.4%	4.9%	6.0%	4.3%	2.5%	2.5%	4.6%	7.7%	14.9%	9.6%

<職種>

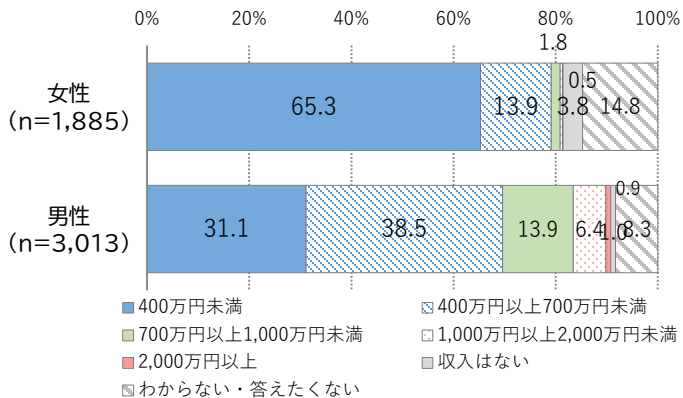
	看護師	医師	介護士・ヘルパー等	保健師	保育士	左記以外の専門・技術系の職業	管理的職業	事務系の職業	営業・販売系の職業	サービス系の職業	生産技能・作業	保安の職業	農林漁業職	運輸・通信	その他
全体 (n=4,898)	2.1%	0.5%	3.1%	0.1%	0.8%	11.3%	8.8%	21.2%	12.5%	7.3%	10.3%	1.2%	0.8%	3.5%	16.6%
女性 (n=1,885)	4.4%	0.1%	4.4%	0.2%	2.0%	6.8%	0.6%	31.1%	11.2%	11.0%	6.3%	0.2%	0.9%	1.4%	19.6%
男性 (n=3,013)	0.6%	0.7%	2.3%	0.1%	0.1%	14.0%	14.0%	15.0%	13.2%	4.9%	12.9%	1.9%	0.7%	4.8%	14.7%

- ・ 業種について、全体で最も割合が高かったものは、「製造業」18.1%。次に「他サービス業」15.5%、「医療・福祉業」11.6%と続く。
- ・ 男女別で見ると、女性の方が男性より5ポイント以上高い業種は、「医療・福祉業」。女性17.8%に対し、男性7.7%。
- ・ 一方で、男性の方が女性より5%以上高い業種は「製造業」。女性11.3%に対し、男性22.3%。
- ・ 職種について、「その他」「左記以外の専門・技術系の職業」を除き全体で最も割合が高かったものは、「事務系の職業」21.2%。次に「営業・販売系の職業」12.5%、「生産技能・作業」10.3%と続く。
- ・ 男女別で見ると、女性の方が男性より5%以上高い職種は、「事務系の職業」。女性31.1%に対し、男性15.0%。「サービス系の職業」は女性11.0%に対し、男性4.9%。
- ・ 一方で、男性の方が女性より5%以上高い職種は「管理的職業」。女性0.6%に対し、男性14.0%。「左記以外の専門・技術系の職業」は女性6.8%に対し、男性14.0%。「生産技能・作業」は女性6.3%に対し、男性12.9%。

(2) 個人年収と世帯年収、その変化

【有業者】

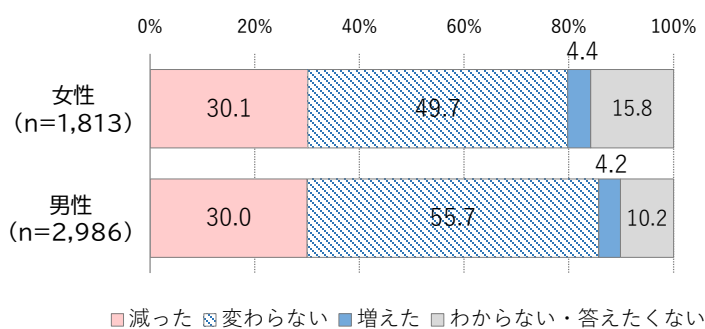
個人年収



個人年収の変化

※「収入はない」を除く

(本人票)



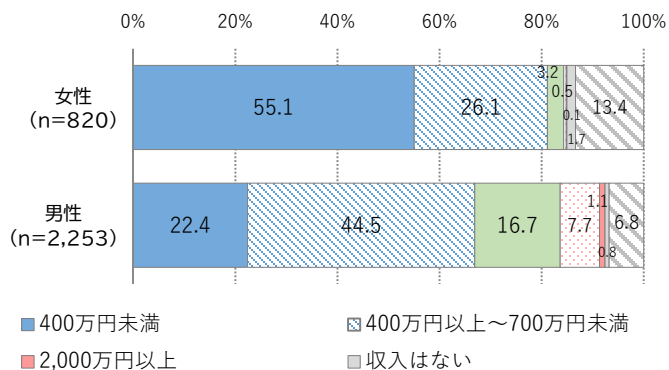
- 個人年収については、「女性」では「400万円未満」が最も高く、65.3%。男性では「400万円以上700万円未満」が最も高く、38.5%。
- 個人年収の変化では、「減った」とした人は男女とも3割程度。「変わらない」とした人は女性で49.7%、男性で55.7%。女性では「わからない・答えたくない」が15.8%とやや多い。

【雇用形態別】

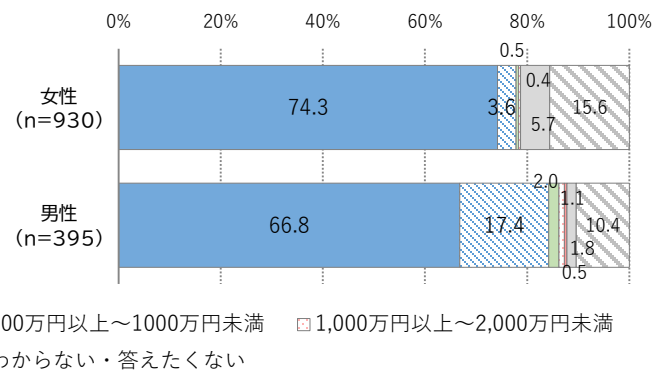
個人年収

(本人票)

【正規雇用】

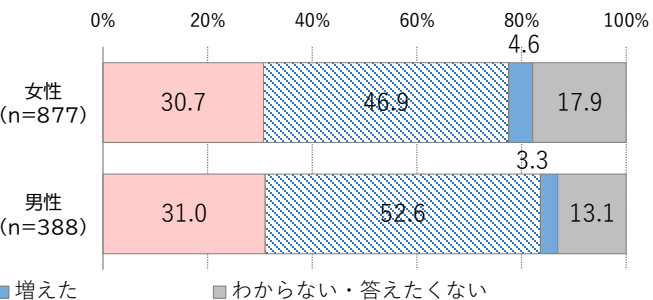
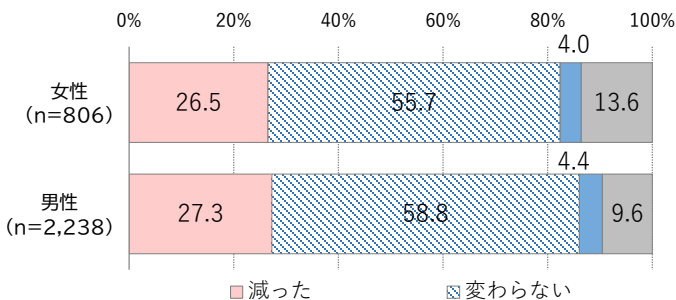


【非正規雇用】



個人年収の変化

※「収入はない」を除く



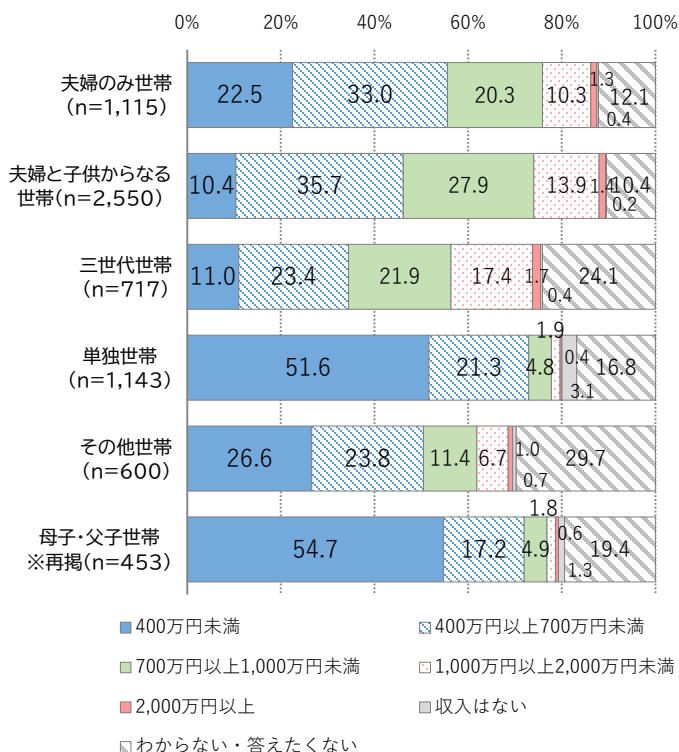
- 個人年収については、女性の「正規雇用」では「400万円未満」が最も高く、55.1%。男性の「正規雇用」では「400万円以上~700万円未満」が最も高く、44.5%。
- 女性の「非正規雇用」では、「400万円未満」が最も高く、74.3%。男性の「非正規雇用」でも「400万円未満」が最も高く、66.8%。
- 個人年収の変化では、「正規雇用」の女性では、「減った」とした人が26.5%、男性で27.3%。「変わらない」とした人は女性で55.7%、男性で58.8%。「増えた」とした人は、男女とも4%程度。
- 「非正規雇用」の個人年収の変化では、「減った」とした人は男女とも30%を超える。「変わらない」とした人は女性で46.9%、男性で52.6%。「非正規雇用」の女性では、「わからない・答えたくない」が17.9%。

(2) 個人年収と世帯年収、その変化

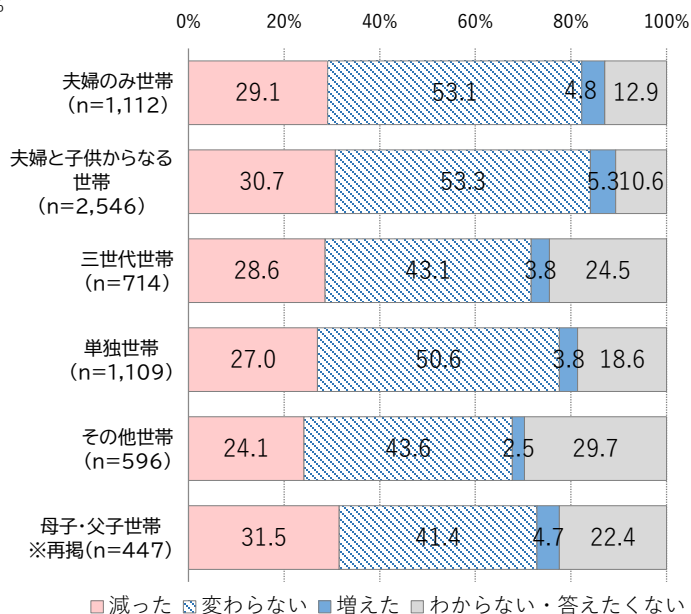
【世帯類型別】

(本人票)

世帯年収



世帯年収の変化

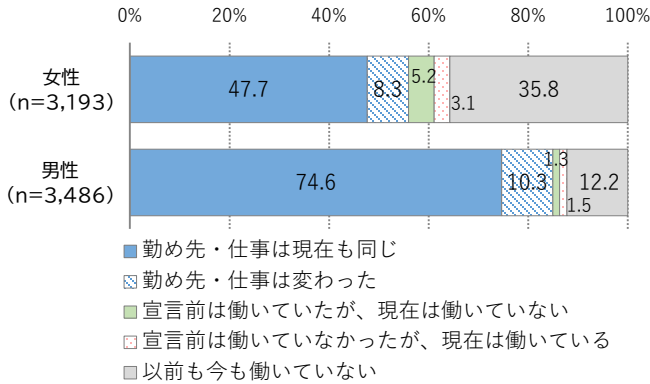


- 世帯年収については、「母子・父子世帯」では「400万円未満」が最も高く54.7%、「単独世帯」でも「400万未満」が51.6%と最も高い。
- 世帯年収の変化では、「減った」とした割合は「母子・父子世帯」で31.5%と最も高く、また「変わらない」とした割合は41.4%と、最も低い。
- 「夫婦のみ世帯」「夫婦と子供からなる世帯」「単独世帯」では、「変わらない」とした割合が5割以上。

(3) 第一回緊急事態宣言(2020年4～5月)前後での仕事の変化や継続意向

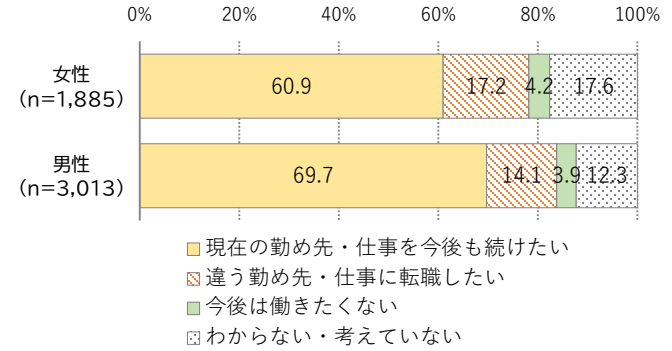
【男女別】

第一回緊急事態宣言前と現在(2020年12月)の仕事の変化



有業者の仕事の継続意向

(本人票)



【参考】第一回緊急事態宣言前と現在(2020年12月)の仕事の変化

(以前も今も働いていないを除いた値)

性別	勤め先・仕事は現在も同じ	勤め先・仕事に変化があった			①②③計
		①勤め先・仕事は変わった	②宣言前は働いていたが現在は働いていない	③宣言前は働いていなかったが現在は働いている	
女性 (n=2,051)	74.2%	12.9%	8.1%	4.8%	25.8%
男性 (n=3,060)	84.9%	11.8%	1.5%	1.8%	15.1%

- 第一回緊急事態宣言前と現在の仕事の変化について、「以前も今も働いていない」を除いた値で見ると、「勤め先・仕事は変わった」とした人は、女性で12.9%、男性で11.8%。「宣言前は働いていたが、現在は働いていない」は女性で8.1%、男性で1.5%。第一回緊急事態宣言前と現在を比べ、勤め先・仕事に何かの変化があった人は、女性で25.8%、男性で15.1%と、女性の方が男性より10ポイント以上高い。
- 仕事の継続意向については、「現在の勤め先・仕事を今後も続けたい」とした人は、女性で60.9%、男性で69.7%と、女性の方が8ポイント以上低い。「違う勤め先・仕事に転職したい」人は、女性で17.2%、男性で14.1%。

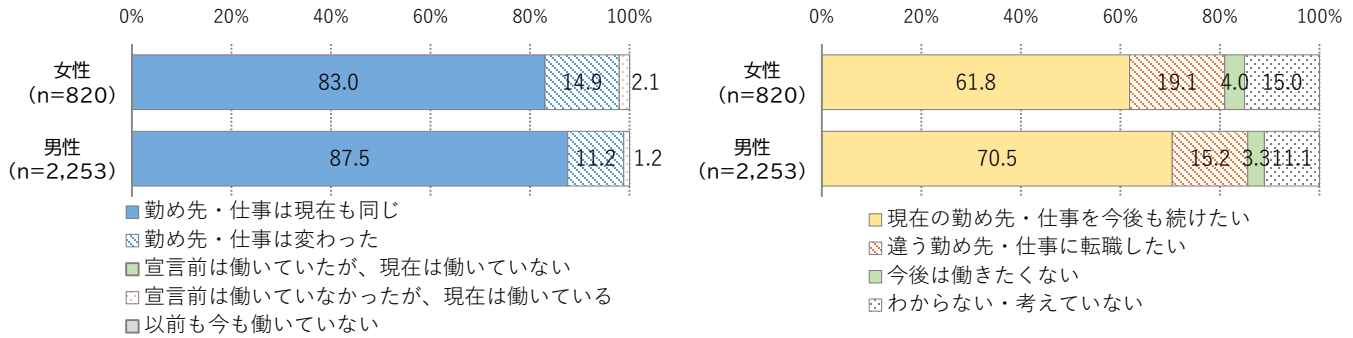
(3) 第一回緊急事態宣言(2020年4~5月)前後での仕事の変化や継続意向

【有業者雇用形態別】

(本人票)

【正規雇用】

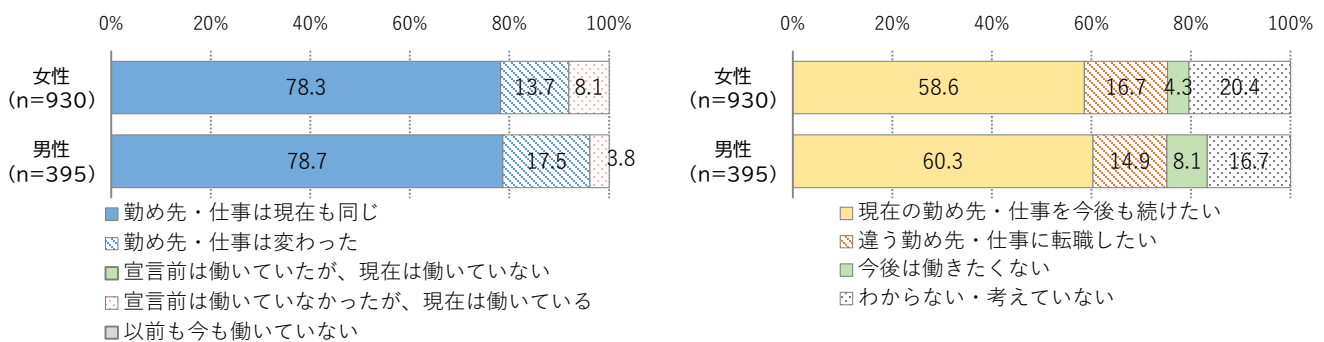
第一回緊急事態宣言前と現在(2020年12月)の仕事の変化 仕事の継続意向



- 第一回緊急事態宣言前と現在の仕事の変化について、「勤め先・仕事は変わった」とした人は、「正規雇用の女性」で14.9%、「正規雇用の男性」で11.2%。
- 仕事の継続意向については、「現在の勤め先・仕事を今後も続けたい」とした人は、「正規雇用の女性」で61.8%、「正規雇用の男性」で70.5%と、女性の方が8ポイント以上低い。「違う勤め先・仕事に転職したい」人は、「正規雇用の女性」で19.1%、「正規雇用の男性」で15.2%。

【非正規雇用】

第一回緊急事態宣言前と現在(2020年12月)の仕事の変化 仕事の継続意向



- 第一回緊急事態宣言前と現在の仕事の変化について、「勤め先・仕事は変わった」とした人は、「非正規雇用の女性」で13.7%、「正規雇用の男性」で17.5%。
- 仕事の継続意向については、「現在の勤め先・仕事を今後も続けたい」とした人は、「非正規雇用の女性」で58.6%、「非正規雇用の男性」で60.3%と、「正規雇用」に比べ男女差が小さい。「違う勤め先・仕事に転職したい」人は、「非正規雇用の女性」で16.7%、「非正規雇用の男性」で14.9%。

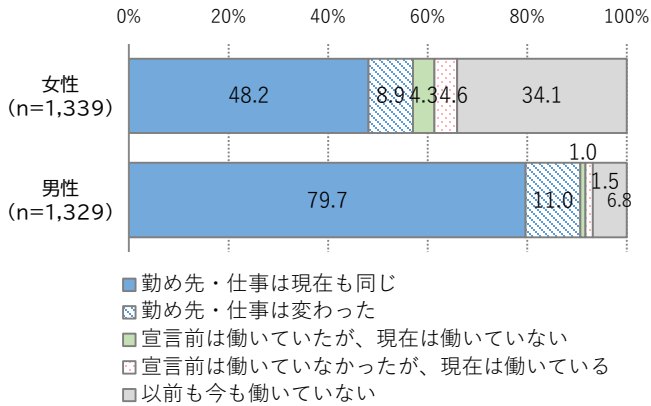
(3) 第一回緊急事態宣言(2020年4~5月)前後での仕事の変化や継続意向

【有業者 小3以下の子供の有無】

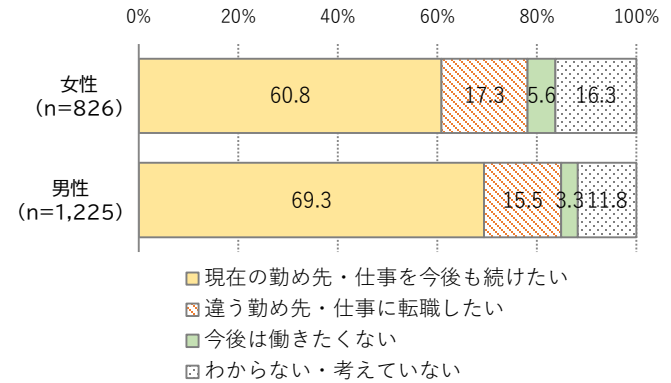
【小3以下の子供がいる人】

(本人票 + 配偶者票)

第一回緊急事態宣言前と現在(2020年12月)の仕事の変化



仕事の継続意向



【参考】第一回緊急事態宣言前と現在の仕事の変化

(以前も今も働いていないを除いた値)

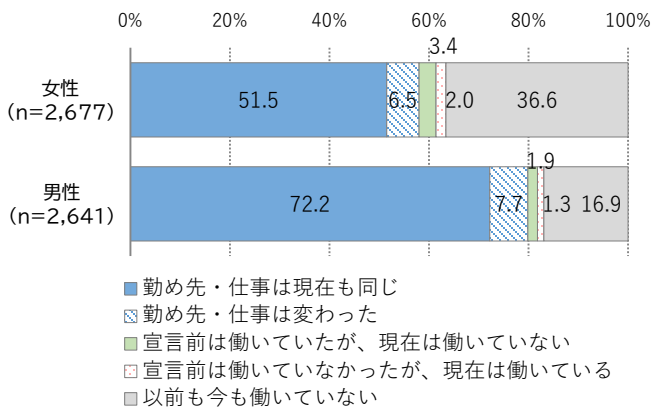
性別	勤め先・仕事は現在も同じ	勤め先・仕事に変化があった			
		①勤め先・仕事は変わった	②宣言前は働いていたが現在は働いていない	③宣言前は働いていなかったが現在は働いている	①②③計
女性 (n=883)	73.2%	13.5%	6.5%	6.9%	26.9%
男性 (n=1,238)	85.5%	11.8%	1.1%	1.6%	14.5%

• 第一回緊急事態宣言前と現在の仕事の変化について、「以前も今も働いていない」を除いた値で見ると、「勤め先・仕事に何らかの変化があった」とした人は、「小3以下の子供がいる」女性で26.9%、男性で14.5%と、女性の方が12ポイント以上高い。

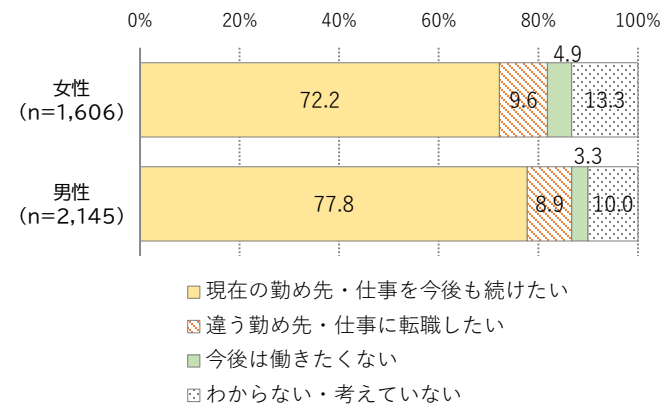
• 仕事の継続意向については、「現在の勤め先・仕事を今後も続けたい」とした人は、「小3以下の子供がいる」女性で60.8%、男性で69.8%と、女性の方が9ポイント低い。

【小3以下の子供がいない人】

第一回緊急事態宣言前と現在(2020年12月)の仕事の変化



仕事の継続意向



【参考】第一回緊急事態宣言前と現在の仕事の変化

(以前も今も働いていないを除いた値)

性別	勤め先・仕事は現在も同じ	勤め先・仕事に変化があった			
		①勤め先・仕事は変わった	②宣言前は働いていたが現在は働いていない	③宣言前は働いていなかったが現在は働いている	①②③計
女性 (n=1,698)	81.2%	10.3%	5.4%	3.2%	18.9%
男性 (n=2,195)	86.8%	9.3%	2.3%	1.6%	13.2%

• 第一回緊急事態宣言前と現在の仕事の変化について、「以前も今も働いていない」を除いた値で見ると、「勤め先・仕事に何らかの変化があった」とした人は、「小3以下の子供がいない」女性で18.9%、男性で13.2%と、女性の方が5ポイント以上高い。

• 仕事の継続意向については、「現在の勤め先・仕事を今後も続けたい」とした人は、「小3以下の子供がいない」女性で72.2%。「小3以下の子供がいる女性」の値と比べると、仕事を続けたいとした人は、「小3以下の子供がいない女性」の方が11ポイント以上高い。

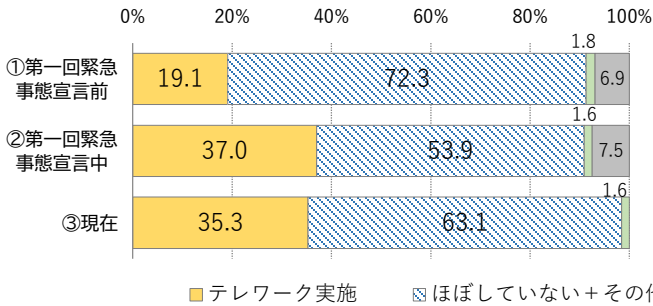
(4) 三時点でのテレワーク実施率の変化(①第一回緊急事態宣言前-②宣言中-③現在(2020年12月))

【有業者※ 性別】

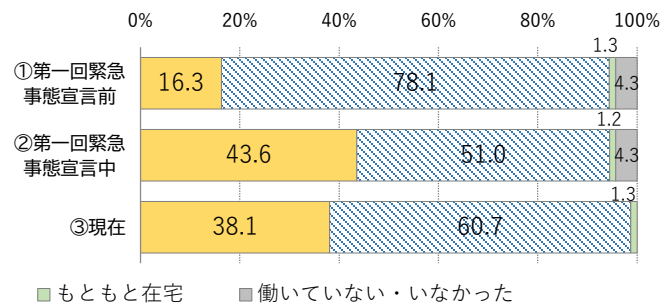
※テレワークに関する設問「有業者」定義・・「正規の会社員・職員・従業員」「パート・アルバイト」「労働派遣事業所の派遣社員」「嘱託」「その他の形で雇用されている」「会社などの役員」と回答した人が対象
 ・「テレワーク実施」・・月に1~2回以上と回答した人
 ・「ほぼしていない+その他」・・ほぼしていない、テレワークはなく休業・自宅待機・その他と回答した人

(本人票)

【女性(n=1,750)】



【男性(n=2,648)】



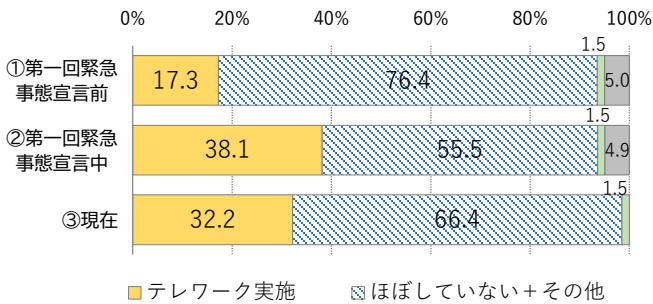
- 女性の三時点でのテレワーク実施率は、①第一回緊急事態宣言前は19.1%、②宣言中は37.0%、③現在は35.3%。
- 男性は①第一回緊急事態宣言前は16.3%、②宣言中は43.6%と女性より6ポイント以上高く、③現在は38.1%となった。

【有業者※ 雇用形態別】

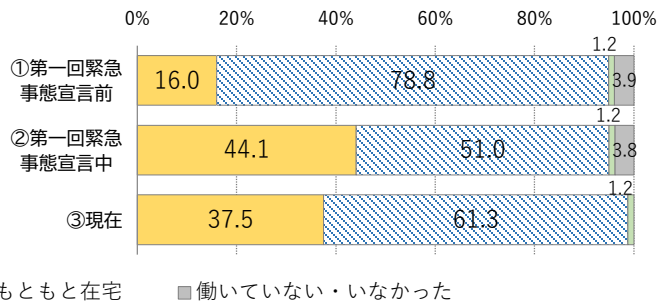
<正規雇用>

(本人票)

【女性(n=820)】

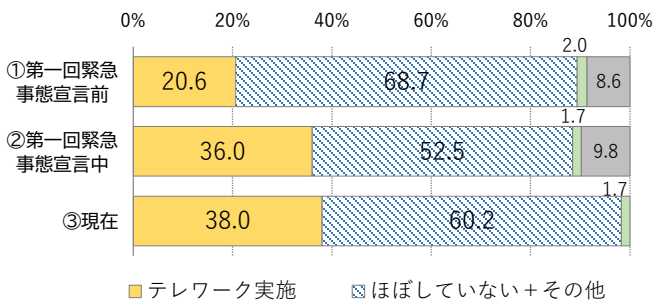


【男性(n=2,253)】

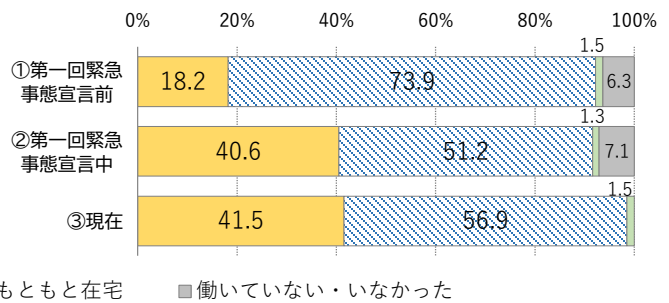


<非正規雇用>

【女性(n=930)】



【男性(n=395)】



- 「正規雇用の女性」の三時点でのテレワーク実施率は、①第一回緊急事態宣言前は17.3%、②宣言中は38.1%、③現在は32.2%。「正規雇用の男性」は①第一回緊急事態宣言前は16.0%、②宣言中は44.1%と女性より6ポイント以上高く、③現在は37.5%と女性より5ポイント以上高い。
- 「非正規雇用の女性」の三時点でのテレワーク実施率は、①第一回緊急事態宣言前は20.6%、②宣言中は36.0%、③現在は38.0%。「非正規雇用の男性」は①第一回緊急事態宣言前は18.2%、②宣言中は40.6%、③現在は41.5%。

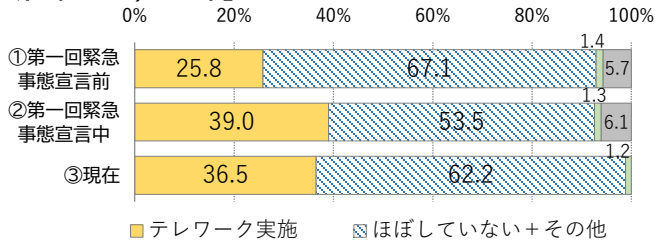
(4) 三時点でのテレワーク実施率の変化(①第一回緊急事態宣言前-②宣言中-③現在(2020年12月))

【有業者※ 配偶者の有無別】

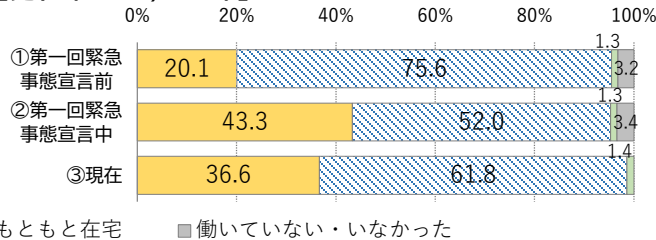
(本人票 + 配偶者票)

<配偶者がいる人>

[女性(n=2,267)]

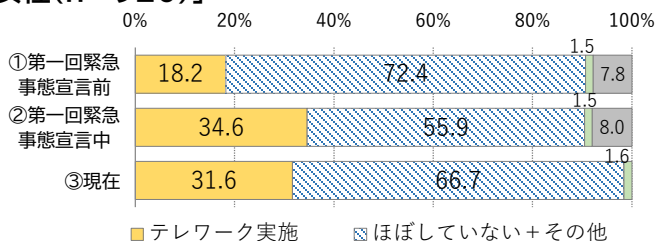


[男性(n=3,060)]

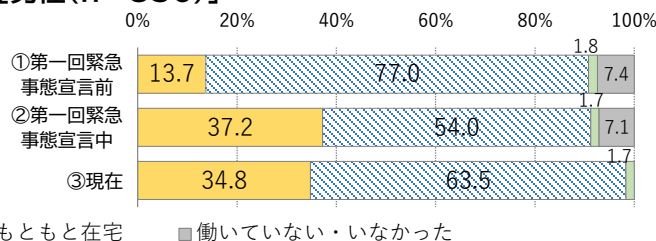


<配偶者がいない人>

[女性(n=920)]



[男性(n=836)]



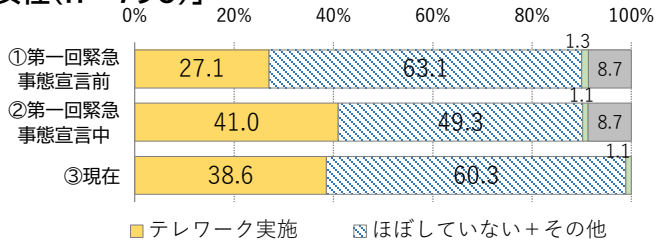
- 「配偶者がいる」女性の三時点でのテレワーク実施率は、①第一回緊急事態宣言前は25.8%、②宣言中は39.0%、③現在は36.5%。男性は①第一回緊急事態宣言前は20.1%、②宣言中は43.3%、③現在は36.6%となった。
- 「配偶者がいない」女性の三時点でのテレワーク実施率は、①第一回緊急事態宣言前は18.2%、②宣言中は34.6%、③現在は31.6%。男性は①第一回緊急事態宣言前は13.7%、②宣言中は37.2%、③現在は34.8%。
- 「配偶者がいる女性」と「配偶者がいない女性」では、③現在のテレワーク実施率に5ポイント近く差がある。

【有業者※ 有配偶者 小3以下の子供の有無別】

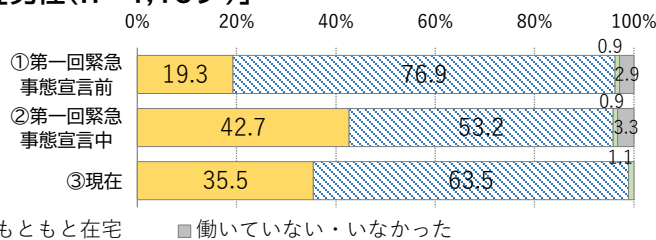
(本人票 + 配偶者票)

<小3以下の子供がいる人>

[女性(n=796)]

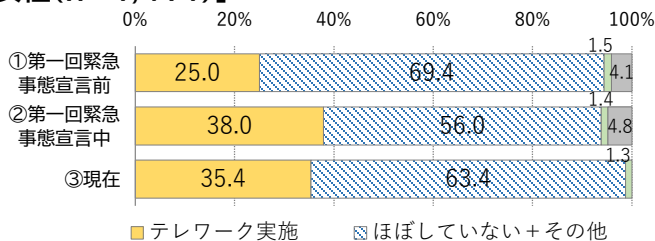


[男性(n=1,169)]

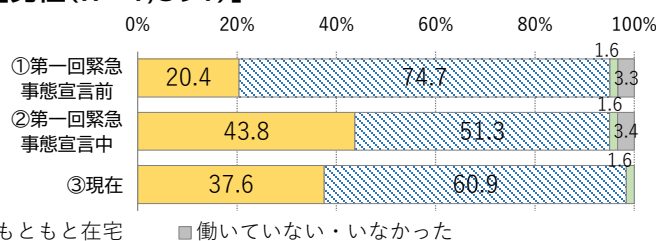


<小3以下の子供がいない人>

[女性(n=1,471)]



[男性(n=1,891)]



- 「小3以下の子供がいる」女性の三時点でのテレワーク実施率は、①第一回緊急事態宣言前は27.1%、②宣言中は41.0%、③現在は38.6%。男性は①第一回緊急事態宣言前は19.3%、②宣言中は42.7%、③現在は35.5%となった。
- 「小3以下の子供がいない」女性の三時点でのテレワーク実施率は、①第一回緊急事態宣言前は25.0%、②宣言中は38.0%、③現在は35.4%。男性は①第一回緊急事態宣言前は20.4%、②宣言中は43.8%、③現在は37.6%。

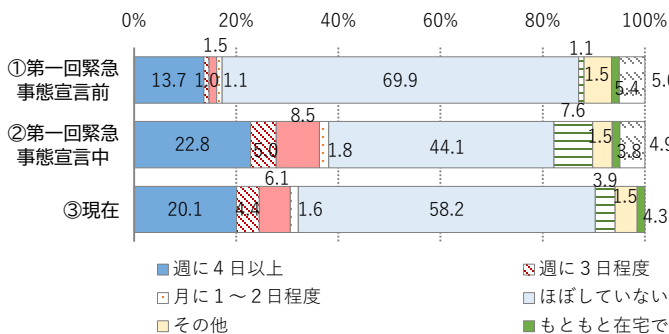
(4) 三時点でのテレワーク実施率の変化(①第一回緊急事態宣言前-②宣言中-③現在(2020年12月))

【雇用形態別】

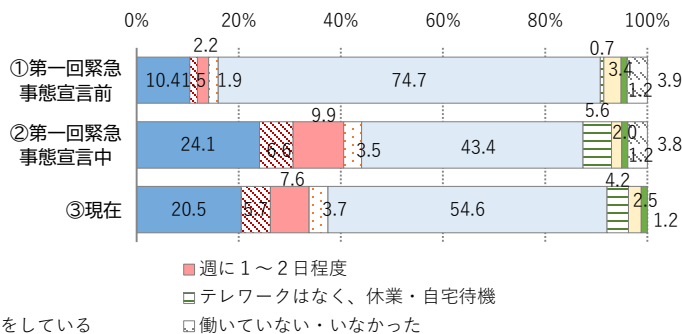
<正規雇用>

(本人票)

[女性(n=820)]

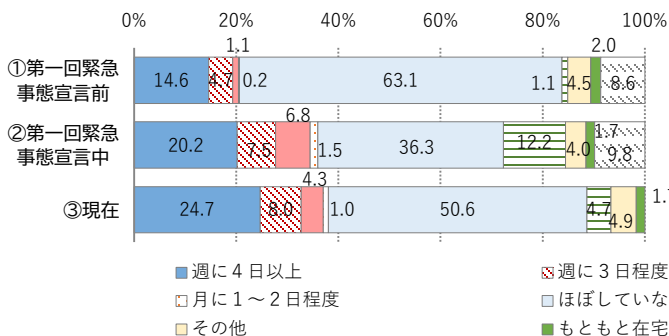


[男性(n=2,253)]

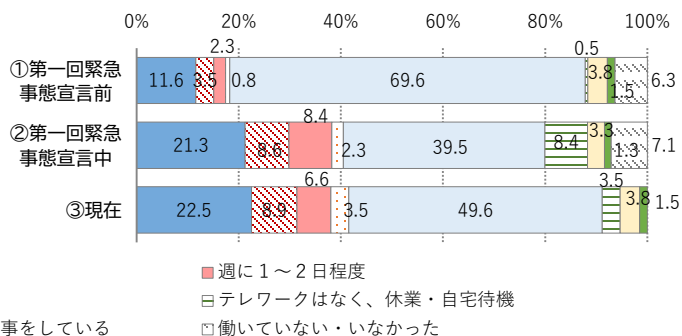


<非正規雇用>

[女性(n=930)]



[男性(n=395)]



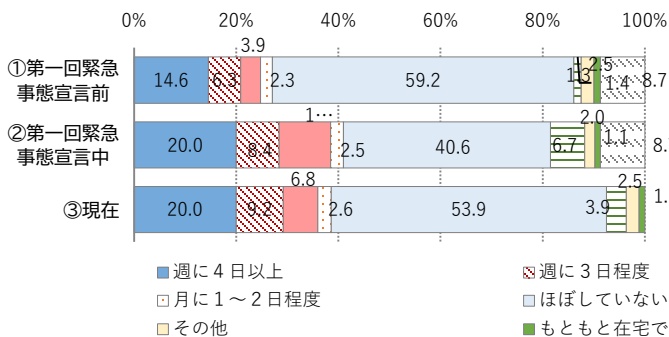
- 「正規雇用」と「非正規雇用」を比較すると、②第一回緊急事態宣言中に、「週に4日以上」実施している割合が高いのは「正規雇用」の男女。「正規雇用」の女性で22.8%、男性で24.1%となる。
- 一方、③現在、「週に4日以上」実施している割合は、「非正規雇用」の男女の方が高く、「非正規雇用」の女性で24.7%、男性で22.5%となる。

【有配偶者 小3以下の子供の有無】

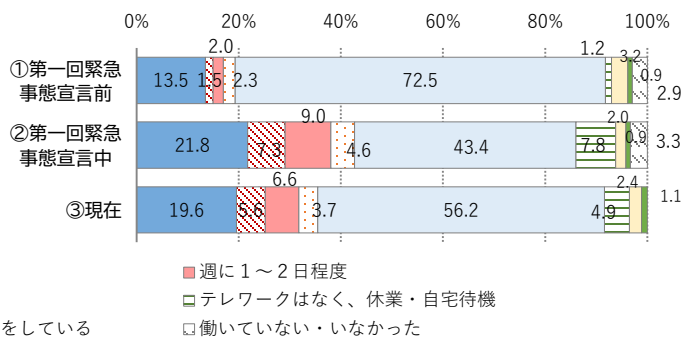
<小3以下の子供がいる人>

(本人票)

[女性(n=796)]



[男性(n=1,169)]



- 「小3以下の子供がいる」男女で比較すると、②第一回緊急事態宣言中に、「週に4日以上」実施している割合は、女性で20.0%、男性で21.8%。現在「週に4日以上」実施している割合は、女性で20.0%、男性で19.6%と、大きな差はない。

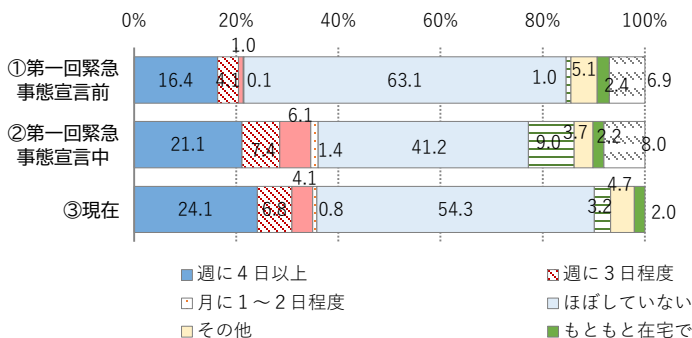
(4) 三時点でのテレワーク実施率の変化(①第一回緊急事態宣言前-②宣言中-③現在(2020年12月))

【有業者 会社の従業員規模別】

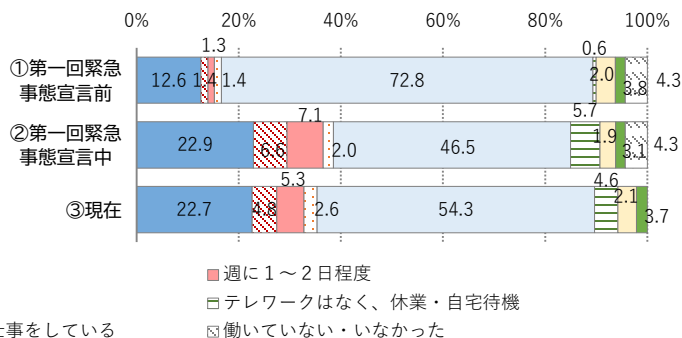
<従業員数 99名以下>

(本人票)

[女性(n=838)]

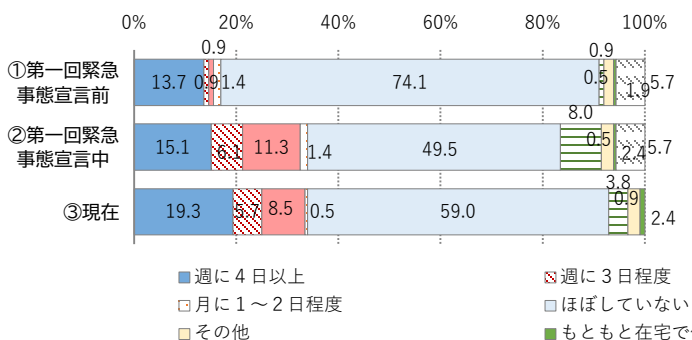


[男性(n=958)]

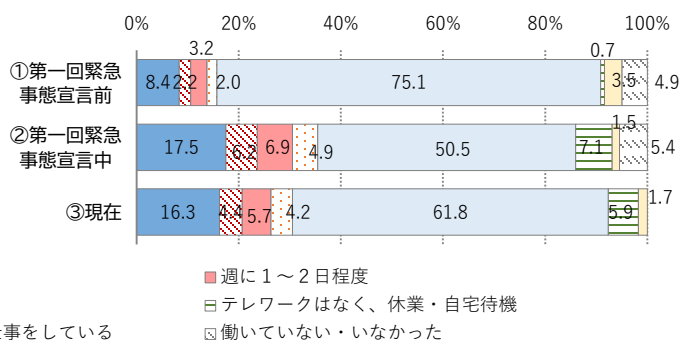


<従業員数 100-299名>

[女性(n=212)]

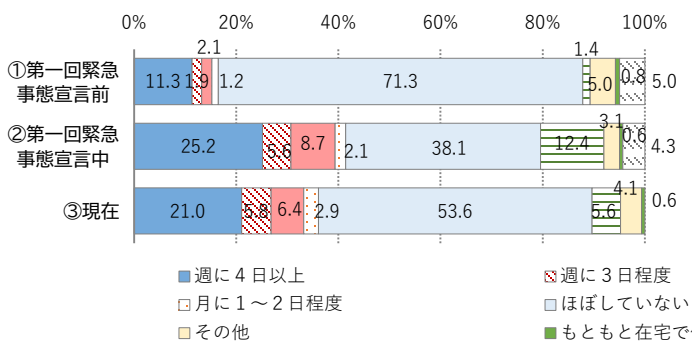


[男性(n=406)]

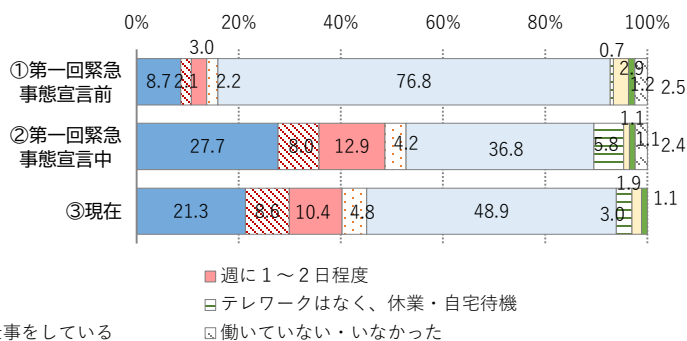


<従業員数 300名以上>

[女性(n=485)]



[男性(n=1,061)]



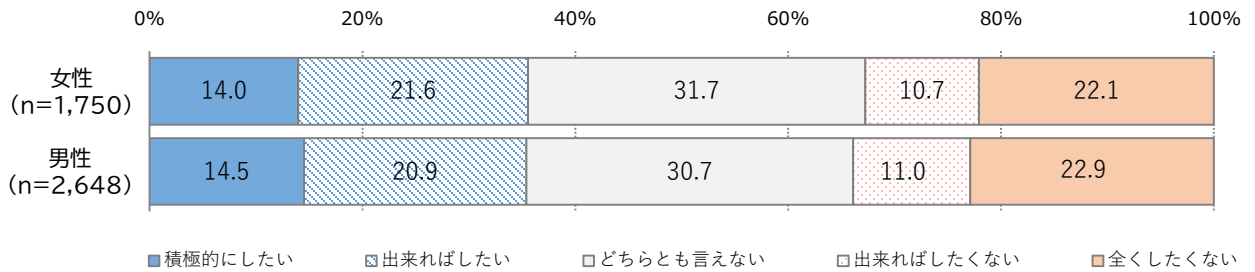
- 従業員規模別に比較すると、②第一回緊急事態宣言中に、「週に4日以上」実施している割合が高いのは「従業員数300名以上」の男女。「従業員数300名以上」の女性で25.2%、男性で27.7%となる。
- 一方、③現在、「週に4日以上」実施している割合は、「従業員数99名以下」の男女が高く、「従業員数99名以下」の女性で24.1%、男性で22.7%となる。
- ②第一回緊急事態宣言中、③現在のどちらの時点でも、「テレワーク週4日以上実施率」が低いのは、「従業員数100-299名」の男女。

(5) 今後のテレワーク継続意向

【有業者※】

※テレワークに関する設問「有業者」定義・「正規の会社員・職員・従業員」「パート・アルバイト」「労働派遣事業所の派遣社員」「嘱託」「その他の形で雇用されている」「会社などの役員」と回答した人が対象

(本人票)

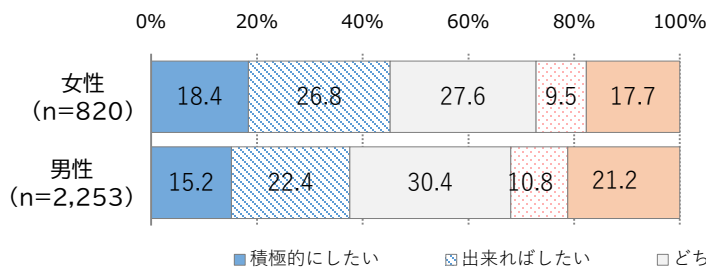


- 今後のテレワーク継続意向は、「積極的にしたい+出来ればしたい」が女性で35.6%、男性で35.4%とほぼ同等。「出来ればしたくない+全くしたくない」が女性で32.8%、男性で33.9%とほぼ同等。

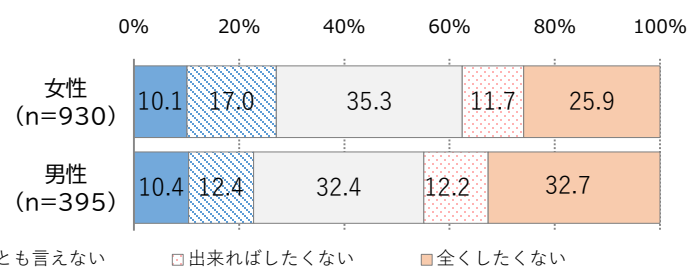
【有業者※ 雇用形態別】

(本人票)

<正規雇用>



<非正規雇用>



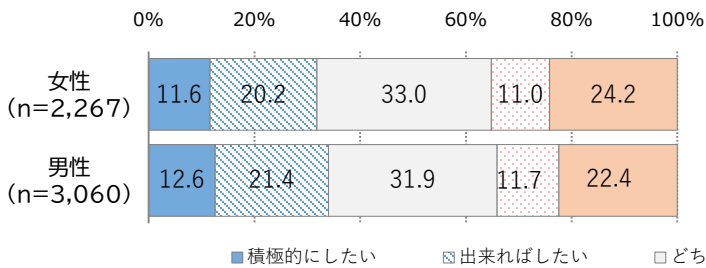
- 「正規雇用」での今後のテレワーク継続意向は、「積極的にしたい+出来ればしたい」が女性で45.2%、男性で37.6%と、女性の方が7ポイント以上高い。
- 「非正規雇用」での今後のテレワーク継続意向は、「積極的にしたい+出来ればしたい」が女性で27.1%、男性で22.8%。「出来ればしたくない+全くしたくない」が女性で37.6%、男性で44.9%と、男性の方が7ポイント以上高い。
- 今後のテレワークを「積極的にしたい+出来ればしたい」とした人は、「正規雇用の女性」と「非正規雇用の女性」を比べると「正規雇用の女性」の方が高く、18ポイント以上差がある。

(5) 今後のテレワーク継続意向

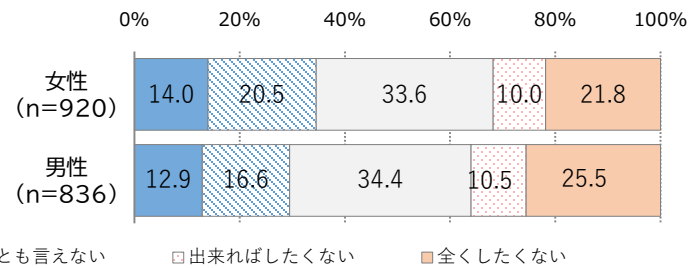
【有業者※ 配偶者の有無】

※テレワークに関する設問「有業者」定義・・「正規の会社員・職員・従業員」「パート・アルバイト」「労働派遣事業所の派遣社員」「嘱託」「その他の形で雇用されている」「会社などの役員」と回答した人が対象（本人票 + 配偶者票）

<配偶者がいる人>



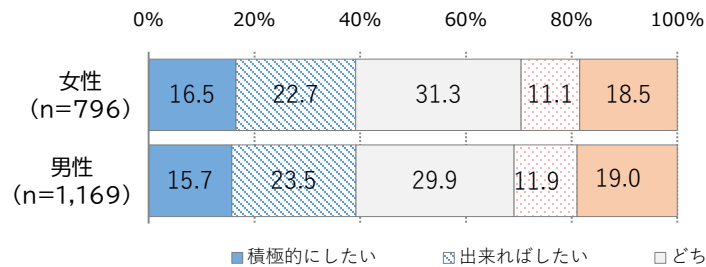
<配偶者がいない人>



- 「配偶者がいる人」での今後のテレワーク継続意向は、「積極的にしたい+出来ればしたい」が女性で31.8%、男性で34.0%。「出来ればしたくない+全くしたくない」が女性で35.2%、男性で34.1%。
- 「配偶者がいない人」での今後のテレワーク継続意向は、「積極的にしたい+出来ればしたい」が女性で34.5%、男性29.5%と、女性の方が5%高い。「出来ればしたくない+全くしたくない」は、女性で31.8%、男性で36.0%。

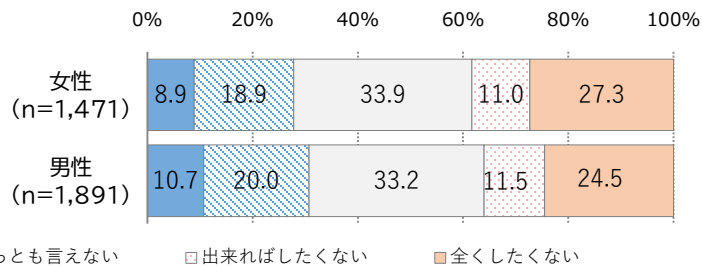
【有業者※ 有配偶者・小3以下の子供の有無】

<小3以下の子供がいる人>

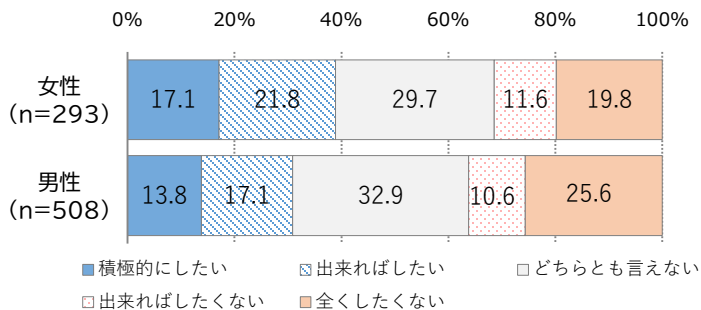


<小3以下の子供がいない人>

(本人票 + 配偶者票)



<比較:単独世帯(1人暮らし)>



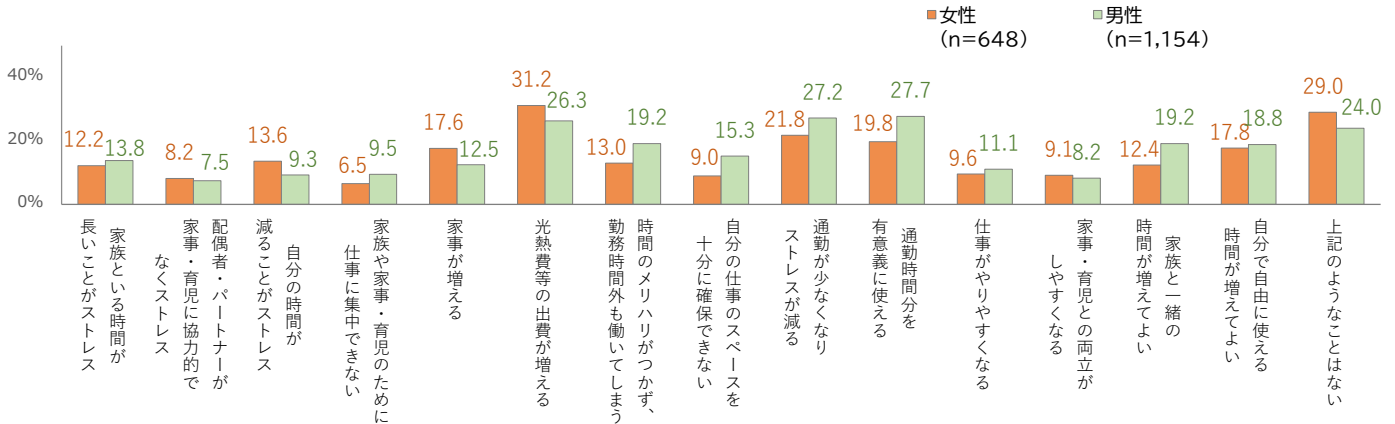
- 「小3以下の子供がいる人」での今後のテレワーク継続意向は、「積極的にしたい+出来ればしたい」は男女ともに39.2%。「出来ればしたくない+全くしたくない」は女性で29.6%、男性で30.9%と、男女共に「積極的にしたい+出来ればしたい」が上回る。
- 「小3以下の子供がいない人」での今後のテレワーク継続意向は、「積極的にしたい+出来ればしたい」が女性で27.8%、男性で30.7%。「出来ればしたくない+全くしたくない」が女性で38.3%、男性で36.0%と、「出来ればしたくない+全くしたくない」が上回る。
- 「単独世帯(1人暮らし)」での今後のテレワーク継続意向は、「積極的にしたい+出来ればしたい」が女性で38.9%、男性で30.9%と、女性の方が8ポイント高い。一方、「出来ればしたくない+全くしたくない」は女性で31.4%、男性で36.2%。女性は「積極的にしたい+出来ればしたい」が上回り、男性は「出来ればしたくない+全くしたくない」が上回る。

(6) テレワークを経験して感じたこと

【有業者※】

※テレワークに関する設問「有業者」定義・「正規の会社員・職員・従業員」「パート・アルバイト」「労働派遣事業所の派遣社員」「嘱託」「その他の形で雇用されている」「会社などの役員」と回答した人が対象
 ※「第一回緊急事態宣言中」にテレワークを実施した人が対象

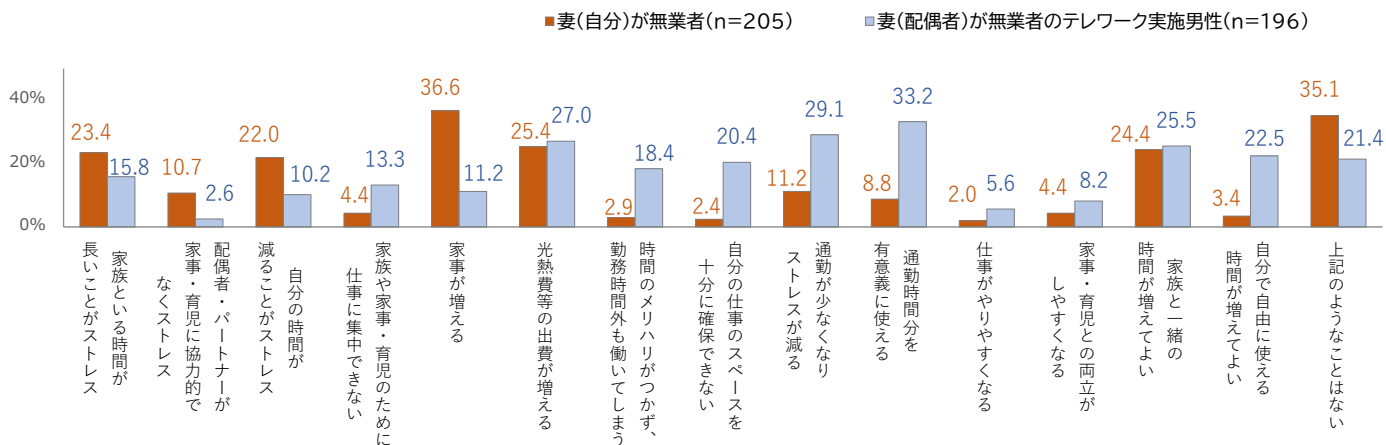
(本人票)



- 有業者でかつ第一回緊急事態宣言中にテレワークを実施した女性と男性を比較すると、女性の方が5ポイント近く高い項目は、差が大きいものから順に「光熱費等の出費が増える」、「家事が増える」。
- 男性の方が5ポイント以上高い項目は、差が大きいものから順に「通勤時間分を有意義に使える」、「家族と一緒に時間が増えてよい」、「自分の仕事のスペースを十分に確保できない」、「時間のメリハリがつかず、勤務時間外も働いてしまう」、「通勤が少なくなりストレスが減る」。

【有配偶 第一回緊急事態宣言中のテレワークの実施有無】

【第一回緊急事態宣言中に夫がテレワークを実施した家庭(妻が専業主婦)の男女間ギャップ】

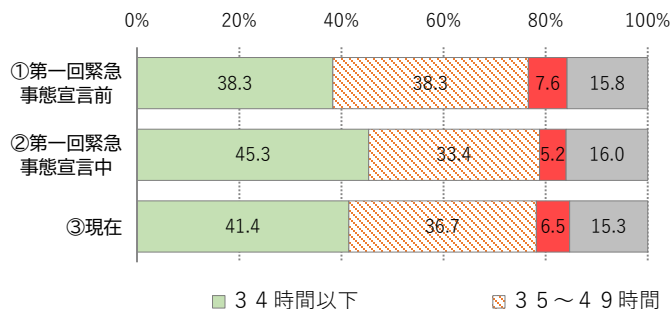


- 「自分が無業者(専業主婦)」の女性の方が、「妻が無業者のテレワーク実施男性」より5ポイント近く高い項目は、差が大きいものから順に「家事が増える」、「自分の時間が減ることがストレス」、「家族という時間が長いことがストレス」、「配偶者が家事・育児に協力的でなくストレス」。
- 一方、「家族と一緒に時間が増えてよい」は、男女共に25%前後と同程度。

(7) 三時点での就業時間の変化(①第一回緊急事態宣言前-②宣言中-③現在(2020年12月))

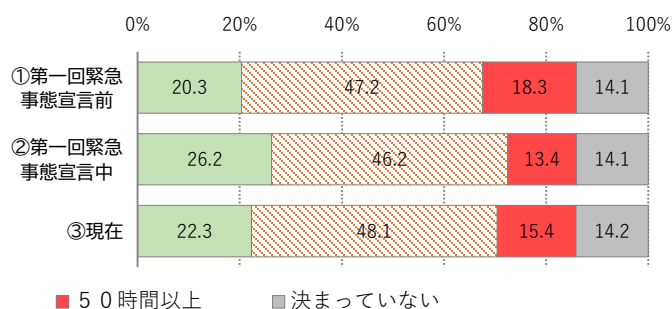
【有業者】

【女性(n=1,885)】



【男性(n=3,013)】

(本人票)



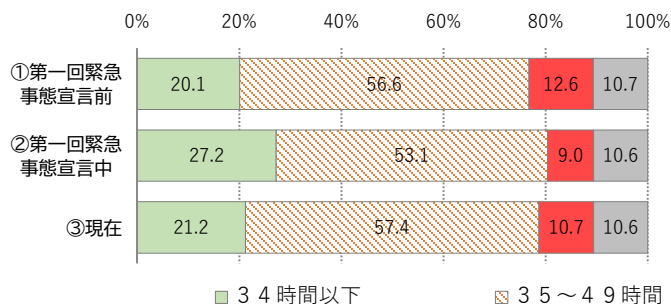
- 三時点での就業時間の変化では、「34時間未満」が、女性では①第一回緊急事態宣言前は38.3%、②宣言中は45.3%と宣言前に比べて7ポイント程度上がり、③現在は41.4%となった。
- 男性では、「50時間以上」が、①第一回緊急事態宣言前は18.3%、②宣言中は13.4%と宣言前に比べて5ポイント程度下がり、③現在は15.4%。

【有業者 雇用形態別】

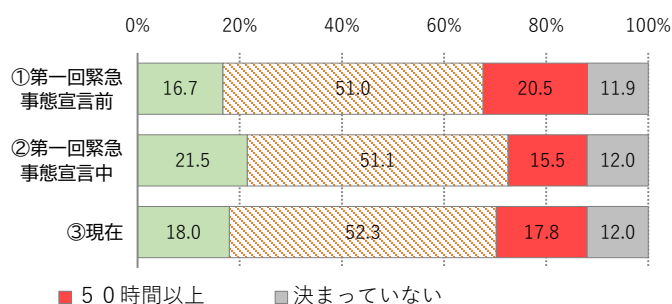
<正規雇用>

(本人票)

【女性(n=820)】



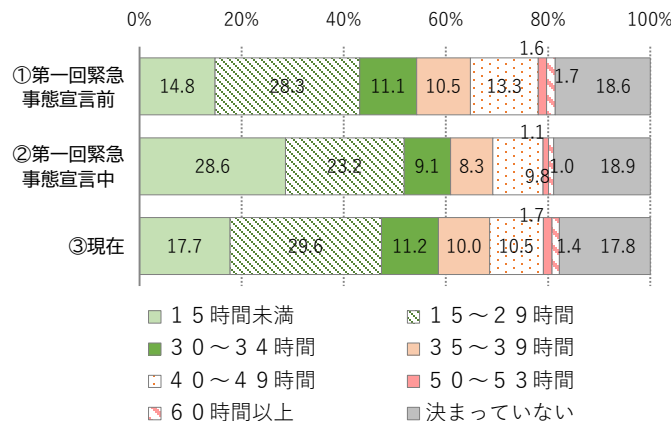
【男性(n=2,253)】



- 「正規雇用」の三時点での就業時間の変化では、「34時間未満」が、「正規雇用の女性」では①第一回緊急事態宣言前は20.1%、②宣言中は27.2%と宣言前に比べて7ポイント程度上がり、③現在は21.2%となった。
- 「正規雇用の男性」では、「50時間以上」が、①第一回緊急事態宣言前は20.5%、②宣言中は15.5%と宣言前に比べて5ポイント程度下がり、③現在は17.8%。

<非正規雇用>

【女性(n=930)】



- 「非正規雇用の女性」の三時点での就業時間の変化では、「34時間未満」が、①第一回緊急事態宣言前は54.2%、②宣言中は60.9%と宣言前に比べて7ポイント程度上がり、③現在は58.5%となった。
- より細かく見てみると、「15時間未満」は、①第一回緊急事態宣言前14.8%から、②宣言中は28.6%と14ポイント近く上がっている。

(8) 第一回緊急事態宣言による働き方や仕事内容の変化

【有業者 雇用形態別】

仕事の変化

(本人票)

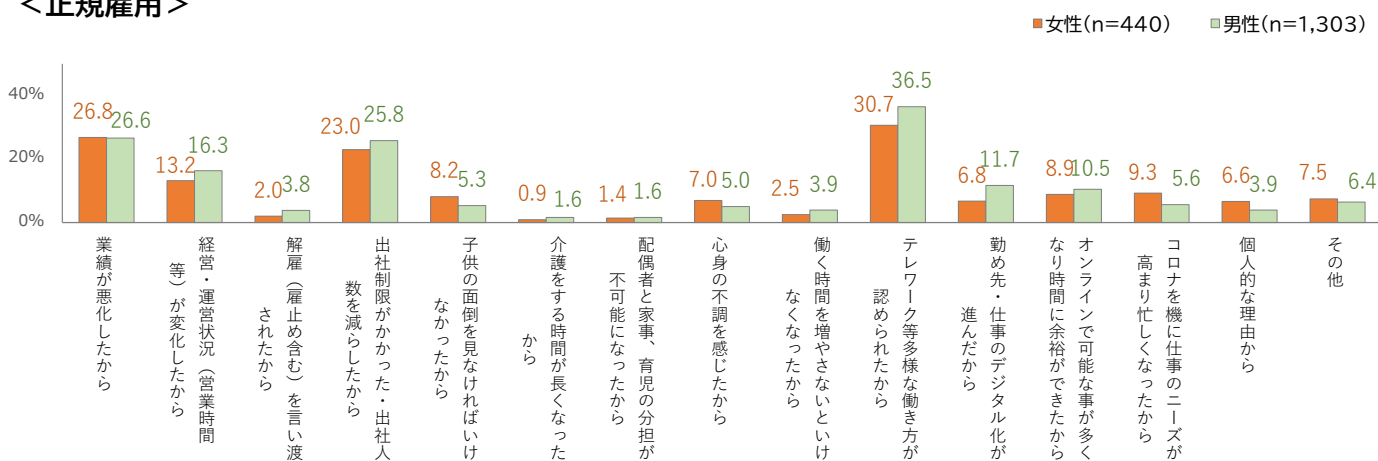
		何かしらの変化があった	特に変化はなかった
正規雇用	女性(n=820)	53.7%	46.3%
	男性(n=2,253)	57.8%	42.2%
非正規雇用	女性(n=930)	51.2%	48.8%
	男性(n=395)	50.9%	49.1%

変化があった人を対象に集計

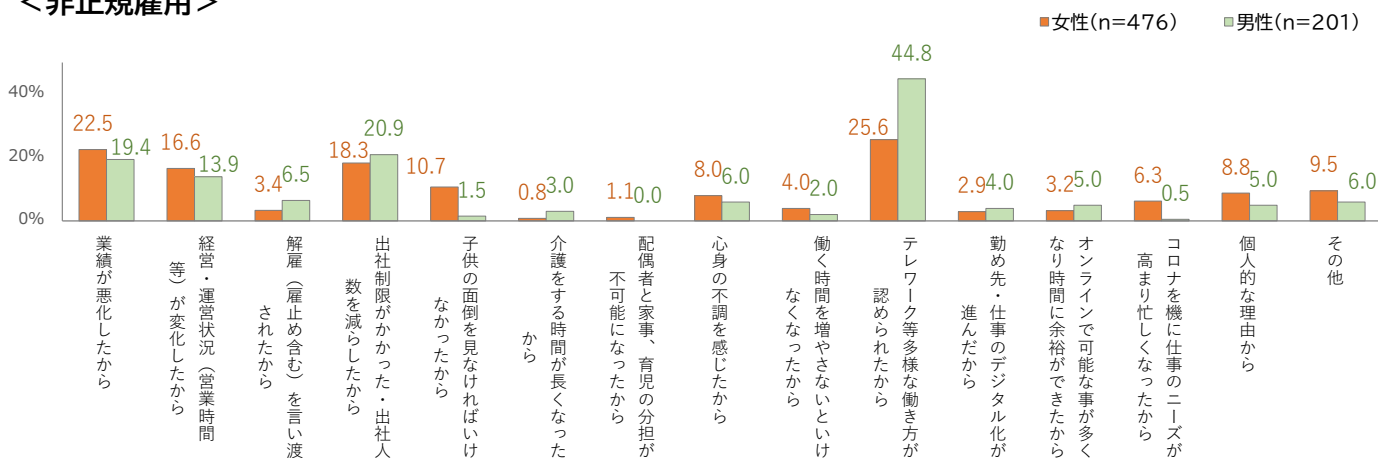
- 「正規雇用」の男女と、「非正規雇用」の男女で、第一回緊急事態宣言前と後で、働き方や仕事の変化があったかどうかについては、「何かしらの変化があった」とした割合が最も高いのは、「正規雇用の男性」で57.8%。

仕事の変化があった理由

<正規雇用>



<非正規雇用>



- 「正規雇用」の男女と、「非正規雇用」の男女で、仕事の変化があった理由を比較すると、「テレワーク等多様な働き方が認められたから」が最も低いのは、「非正規雇用の女性」で25.6%。

(8) 第一回緊急事態宣言による働き方や仕事内容の変化

【有業者 企業規模別】

(本人票)

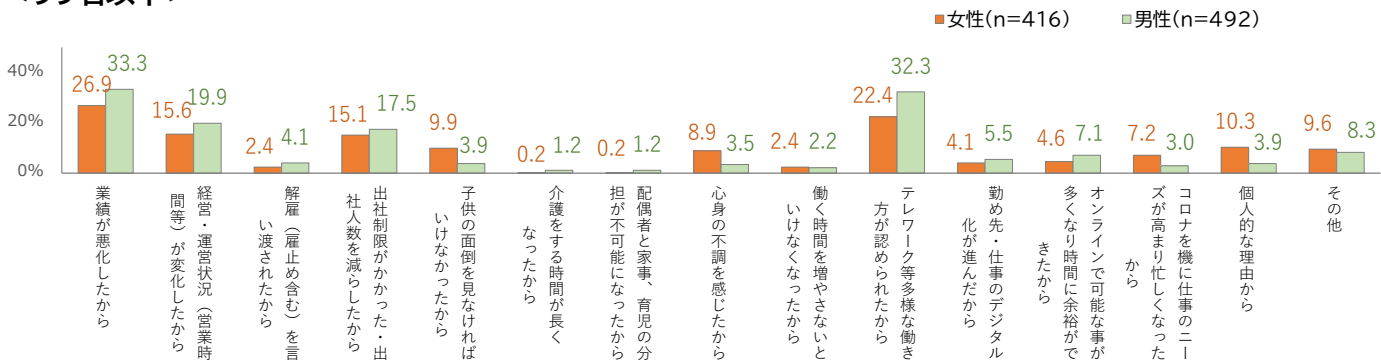
仕事の変化

		何かしらの変化があった	特に変化はなかった
99名以下	女性(n=838)	49.6%	50.4%
	男性(n=958)	51.4%	48.6%
100-299名	女性(n=212)	50.5%	49.5%
	男性(n=406)	57.1%	42.9%
300名以上	女性(n=485)	60.0%	40.0%
	男性(n=1,061)	64.1%	35.9%

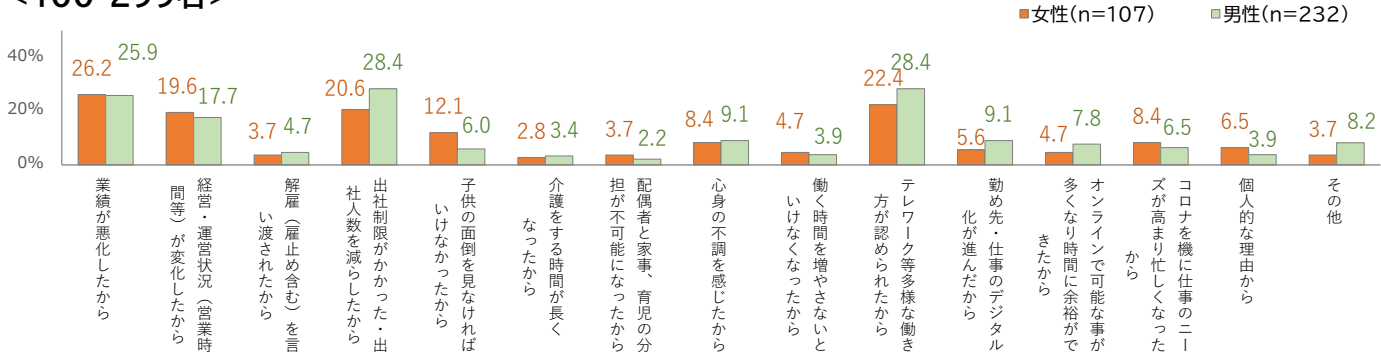
- 「従業員規模」で、第一回緊急事態宣言前と後で、働き方や仕事の変化があったかどうかについては、「何かしらの変化があった」とした割合が最も高いのは、「従業員規模300名以上の男性」で64.1%、次いで「従業員規模300名以上の女性」で60.0%。

変化があった人を対象に集計

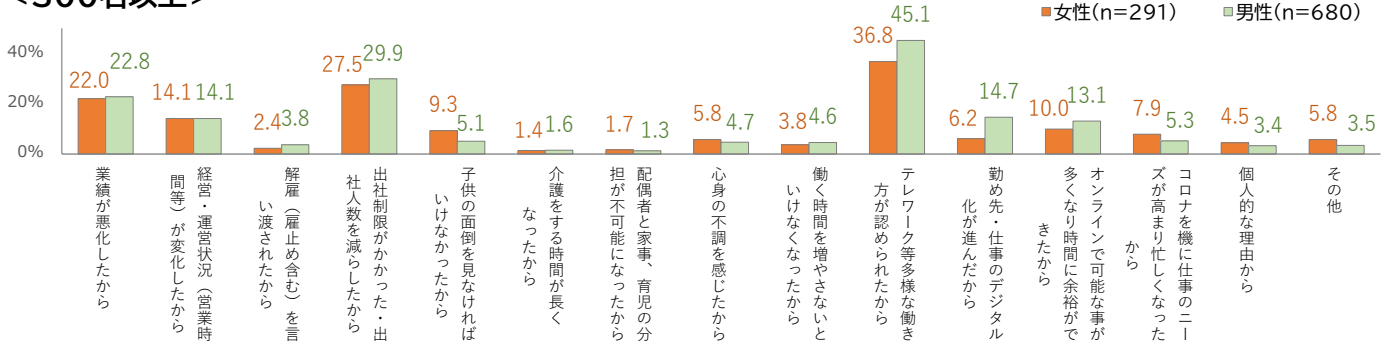
<99名以下>



<100-299名>



<300名以上>



- 「従業員規模」で、第一回緊急事態宣言前と後で働き方や仕事内容に変化があった理由として、マイナス面の理由として、企業規模が「99名以下の女性」で、「業績が悪化したから」が26.9%、「男性」で33.3%と最も高い。
- 一方、プラス面の理由としては、企業規模にかかわらず「テレワーク等多様な働き方が認められたから」が最も高く共通。特に「300名以上」の企業で男女ともに高く、「女性」で36.8%、「男性」で45.1%。

3. 仕事の状況とコロナによる影響

分析結果まとめ

1. 年収・仕事の変化と、今後の仕事の継続意向

1 個人年収は、有業者男女とも「減った」3割強。正規雇用よりも非正規雇用で「減った」とする人が多く、「非正規雇用」の女性では「個人年収は変わらない」とした人は5割以下。

2 第一回緊急事態宣言前と現在の仕事の変化について、「何かの変化があった」人は女性で25.8%と男性に比べ10ポイント以上高く、特に「小3以下の子供がいる女性」で高い。

3 現在の勤め先・仕事を今後も続けたいかについては、「小3以下の子供がいる女性」で仕事の継続意向が6割と、「小3以下の子供がいる男性」7割弱に比べ低い。

第一回緊急事態宣言前と現在の仕事の変化 (以前も今も働いていないを除いた値)		勤め先・仕事は現在も同じ	勤め先・仕事に何かの変化があった
全体	女性	74.2%	25.8%
	男性	84.9%	15.1%
小3以下の子供がいる	女性	73.2%	26.9%
	男性	85.5%	14.5%
小3以下の子供がいない	女性	81.2%	18.9%
	男性	86.8%	13.2%

- ・ 昨年と現在(2020年12月時点)の個人年収について、「減った」と答えた人は、有業者女性・男性ともに3割程度。「増えた」は4~5%にとどまる。
- ・ 特に「非正規雇用の女性」では、「年収は減った」が30.7%、「わからない・答えたくない」17.9%、「年収は変わらない」は46.9%と、「正規雇用の女性」、また「非正規雇用の男性」と比べて、最も「年収は変わらない」とした割合が低い。
- ・ 第一回緊急事態宣言前と現在の仕事の変化について、「何かの変化があった」とした人は、女性で25.8%、男性で15.1%と、女性の方が10ポイント以上高い。中でも「小3以下の子供がいる女性」では26.9%と、「小3以下の子供がいない女性」18.9%と比べても高い。小さい子供がいる家庭において、休校等もあり、女性の方が仕事を辞めたり、勤め先を変えたりとより強く影響を受けた様子が窺える。
- ・ 今後の仕事の継続意向についても、「小3以下の子供がいる女性」では6割が継続と、同条件の男性や、「小3以下の子供がいない女性」と比べても低い。

2. 第一回緊急事態宣言中、その前後でのテレワーク実施率と勤務時間

1 第一回緊急事態宣言中のテレワーク実施率は、有業女性で37.0%、有業男性で43.6%と、男性の方が5ポイント以上高い。

2 第一回緊急事態宣言中の勤務時間について、「非正規雇用」の女性では「15時間未満」が14.8%→28.6%と、10%以上増加。

3 「正規雇用の男性」の勤務時間については、「50時間以上」が、第一回緊急事態宣言前は20.5%→宣言中は15.5%と、5ポイント減少。

- ・ 第一回緊急事態宣言前のテレワーク実施率については、有業女性で19.1%、有業男性で16.3%。宣言中のテレワーク実施率は、有業女性で37%、有業男性で43.6%と、男性の方が5ポイント以上テレワーク実施率が高く、男女間の差が最も大きい。現在(2020年12月時点)でのテレワーク実施率は、有業女性で35.3%、有業男性で38.1%となった。
- ・ 第一回緊急事態宣言中の勤務時間について、もともと短い時間での勤務が多い「非正規雇用の女性」では、「15時間未満」の割合が宣言前14.8%から宣言中28.6%と10ポイント以上増加。
- ・ 一方、全体的にもともと勤務時間が長い(50時間以上勤務割合が高い)、「正規雇用の男性」では、「50時間以上勤務」の割合が宣言前20.5%から宣言中15.5%と、5ポイント減少。終業の時間も宣言中は早くなったことが推測され、その分、夜の育児タスクの実施率増加などにも繋がったと考えられる。

3. 仕事の状況とコロナによる影響

分析結果まとめ

3. テレワークを経験して感じたこと

- 1 有業者のテレワーク経験者での男女比較で、女性の方が高い項目は、「**光熱費等の出費が増える**」、「**家事が増える**」と、**マイナス要素**が高い。
- 2 一方、有業者の男性で5ポイント以上高い項目は、仕事の効率など**マイナス要素**も挙がるが、「**通勤時間分を有意義に使える**」「**通勤が減りストレス減少**」などの**プラス要素**も高い。
- 3 夫がテレワーク実施／妻が専業主婦の家庭では、妻の方が「**家事が増える**」「**自分の時間が減りストレス**」「**家族という時間が長いことがストレス**」と、**マイナス要素**が高い。

- テレワークを実施した男女有業者で比較すると、テレワークを通して、「光熱費の出費が増える」は女性31.2%、男性26.3%「家事が増える」は女性17.6%、男性12.5%、と女性の方が5ポイント近く高く、家事や出費の問題に対するシビアな視点が目立つ。
- 逆に男性の方が5ポイント以上高い項目は、「通勤時間分を有意義に使える」「通勤が減りストレス減少」、「時間のメリハリがつかず勤務時間外も働いてしまう」「自分の仕事のスペースを確保できない」といった仕事の効率面に関するプラス・マイナス要素や、「家族と一緒に時間が増えてよい」といったプラス要素も挙がる。
- 夫がテレワーク実施／妻が専業主婦の家庭における、夫がテレワークを実施した中での男女ギャップを見てみると、妻(専業主婦)の方が5ポイント近く高いものは、「家事が増える」、「自分の時間が減ることがストレス」、「家族という時間が長いことがストレス」、「配偶者が家事・育児に協力的でなくストレス」と、夫のテレワークにより自分の時間の使い方も変化し、様々な「ストレス」を強く感じていることが窺える結果となった。

4. 今後のテレワーク継続意向

- 1 今後のテレワーク継続意向は、有業者の男女ともに「**今後ほしい**」が**35%**、「**したくない**」が**3割強**、「**どちらとも言えない**」が**3割強**と、やや「**今後ほしい**」が優勢。
- 2 小3以下の子供がいる女性では、「**今後もテレワークをしたい**」が**39.2%**。対して小3以下の子供がない女性では、「**今後もテレワークをしたい**」が**27.8%**と、大きな差がある。
- 3 正規雇用の女性では、「**今後もテレワークをしたい**」が**45.2%**。対して非正規雇用の女性では、「**今後もテレワークをしたい**」が**27.1%**と、大きな差がある。

今後のテレワーク実施意向 ※テレワーク経験有無問わず対象としている		積極的にしたい +出来ればしたい	どちらとも言えない	出来ればしたくない +全くしたくない
女性(n=1750)		35.6%	31.7%	32.8%
男性(n=2648)		35.4%	30.7%	33.9%
小3以下の子供が いる世帯	女性(n=796)	39.2%	31.3%	29.6%
	男性(n=1169)	39.2%	29.9%	30.9%
小3以下の子供が いない世帯	女性(n=1471)	27.8%	33.9%	38.3%
	男性(n=1891)	30.7%	33.2%	36.0%
雇用 形態別	正規雇用の女性(n=820)	45.2%	27.6%	27.2%
	正規雇用の男性(n=2253)	37.6%	30.4%	32.0%
	非正規雇用の女性(n=930)	27.1%	35.3%	37.6%
	非正規雇用の男性(n=395)	22.8%	32.4%	44.9%

第2章 調査結果

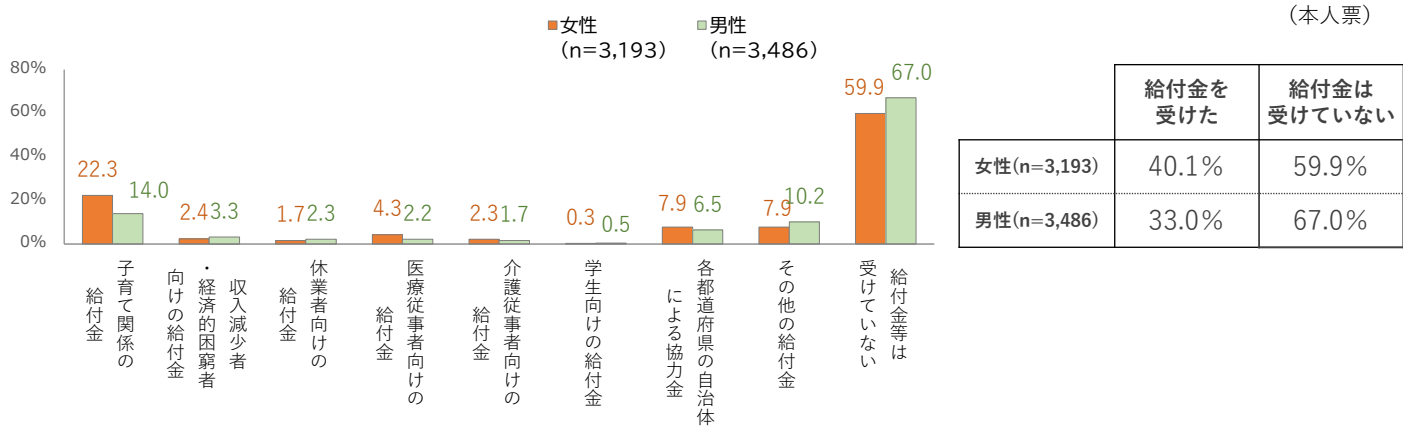
4. コロナ下における給付金受給・利用状況

4. コロナ下における給付金受給・使用状況

- コロナ下における、各種給付金および特別定額給付金の受給、使用状況についてまとめる。

(1) 各種給付金 受給状況 ※特別定額給付金は除く

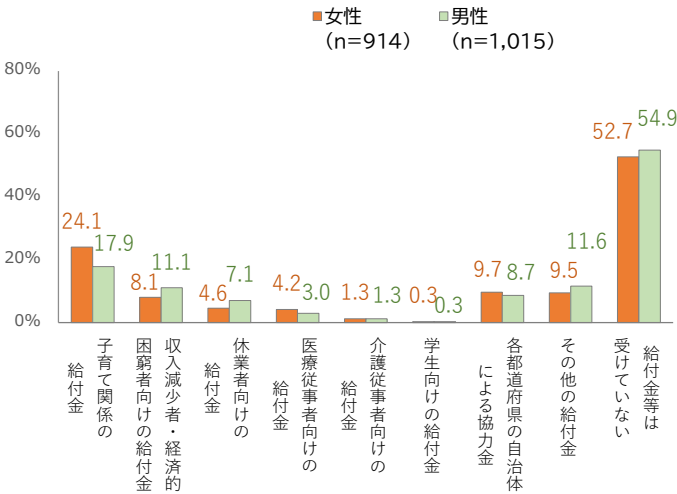
【性別】



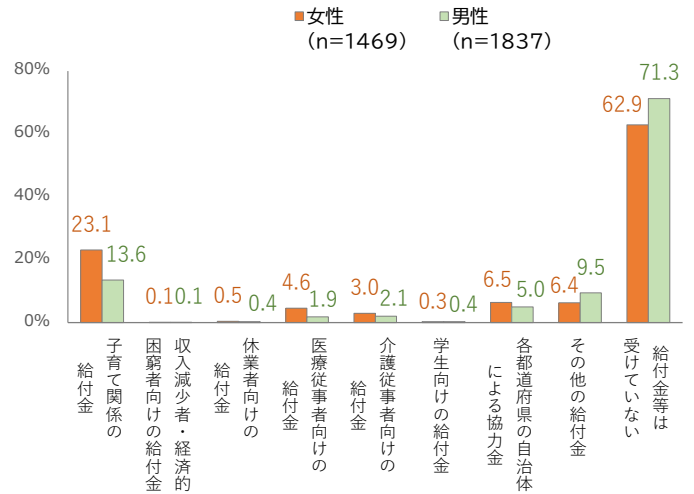
- 何かしらの給付金を受けた人は、「女性」で40.1%、「男性」で33.0%と「女性」が7ポイント上回る。
- 「女性」で「子育て関係の給付金」が22.3%と最も高く、「男性」では14.0%。

【年収変化】

<世帯年収減>



<世帯年収に変化なし>



		給付金を受けた	給付金を受けていない
年収減	女性 (n=914)	47.3%	52.7%
	男性 (n=1,015)	45.1%	54.9%
変化なし	女性 (n=1,321)	37.1%	62.9%
	男性 (n=1,264)	28.7%	71.3%

- 世帯年収が減った人と変わらない人を比べると、「何かしらの給付金を受けた割合」は、世帯年収に変化がない人では、「女性」37.1%、「男性」28.7%にとどまるのに対し、「世帯年収が減った女性」では47.3%、「男性」で45.1%と、世帯年収に変化がない男女に比べ7~10ポイント上回る。
- 世帯年収が減った男女、世帯年収に変化がない男女、どちらも最も高いのは「子育て関係の給付金」の受給。一方、「収入減少者・経済的困窮者向けの給付金」については、世帯年収に変化がない男女は0.1%とごく僅かであるのに対し、世帯年収が減った「女性」は8.1%、「男性」は11.1%と、受給に明らかな差がある。

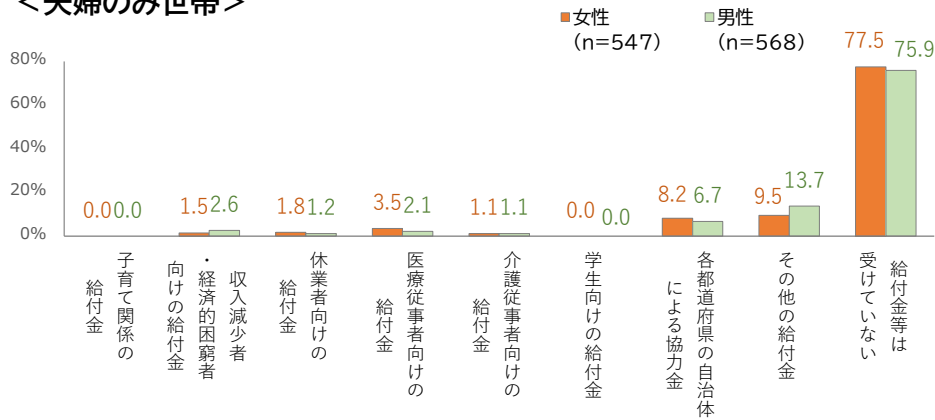
(1) 各種給付金 受給状況

※特別定額給付金は除く

【世帯類型別】

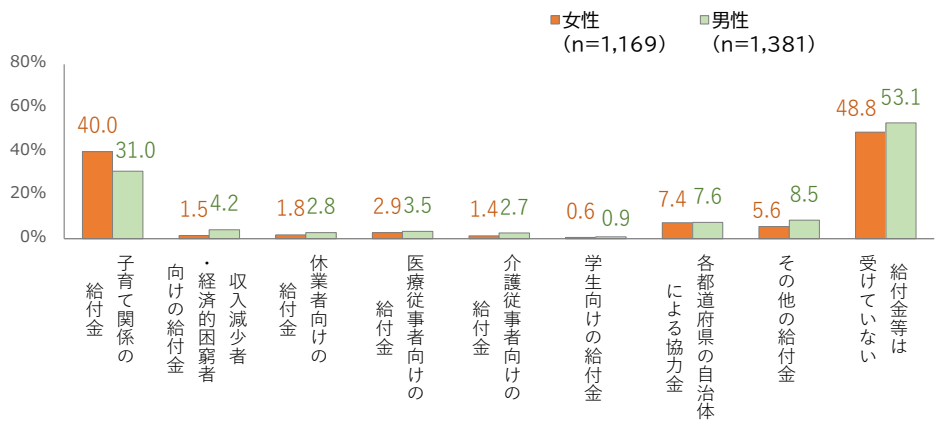
<夫婦のみ世帯>

(本人票)



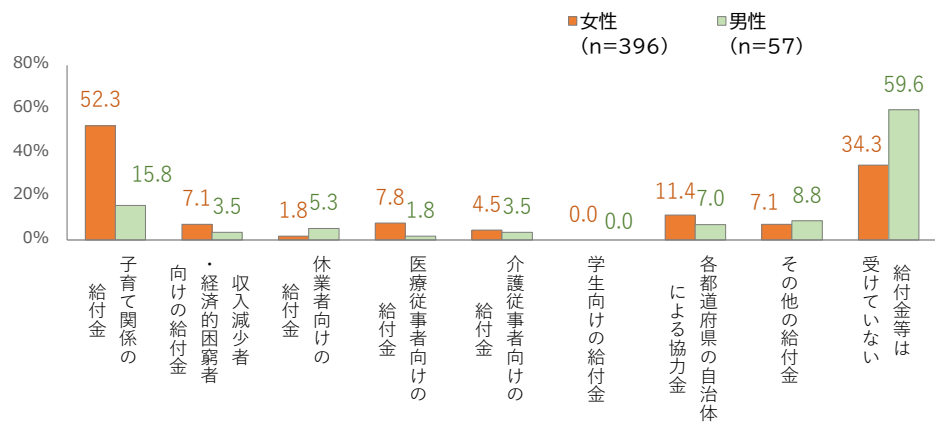
	給付金を受けた	給付金は受けていない
女性(n=547)	22.5%	77.5%
男性(n=568)	24.1%	75.9%

<夫婦と子供から成る世帯>



	給付金を受けた	給付金は受けていない
女性(n=1,169)	51.2%	48.8%
男性(n=1,381)	46.9%	53.1%

<母子・父子世帯>

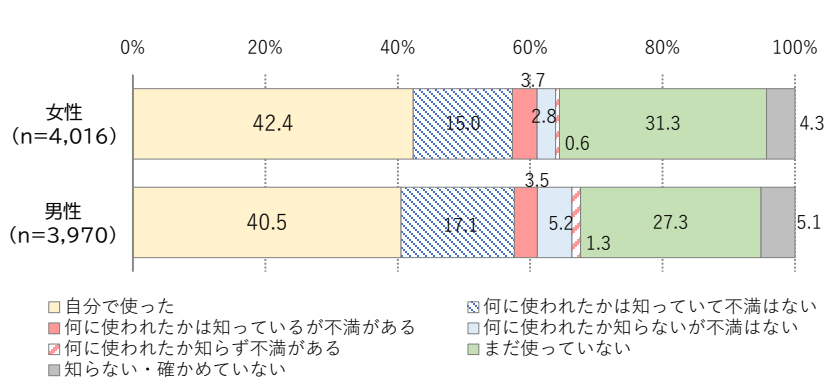


	給付金を受けた	給付金は受けていない
女性(n=396)	65.7%	34.3%
男性(n=57)	40.4%	59.6%

- ・「夫婦のみ世帯」では、「給付金等は受けていない」とした人が、「女性」で77.5%、「男性」で75.9%。
- ・「夫婦と子供から成る世帯」では、「子育て関係の給付金」の受給が目立って高いが、「女性」で40.0%、「男性」で31.0%と差がある。
- ・「母子・父子世帯」では、「母子世帯(女性)」の「子育て関係の給付金」の受給は52.3%と半数を超える。他で10%を超えるものは、「各都道府県の自治体による協力金」が11.4%。また、「収入減少者・経済的困窮者向けの給付金」は「母子世帯」で7.1%も、他世帯の受給率は1.5~4%程度。

(2) 特別定額給付金(10万円)の利用状況

【有配偶者】



(本人票 + 配偶者票)

	自分で使った	自分で使っていない	
		不満はない	不満がある
女性 (n=4,016)	42.4%	17.8%	4.3%
男性 (n=3,970)	40.5%	22.3%	4.8%

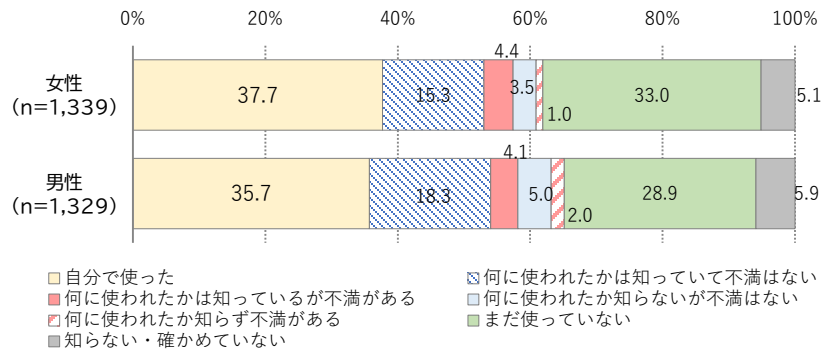
※「知らない・確かめていない」「まだ使っていない」は除く

- 「有配偶者」で見ると、「自分で使った」とした人は、「女性」で42.4%、「男性」で40.5%。
- また、「(自分が使っておらず)不満がある」とした人は、「女性」で4.3%、「男性」で4.8%。

【有配偶者 小3以下の子供有無】

<小3以下の子供がいる人>

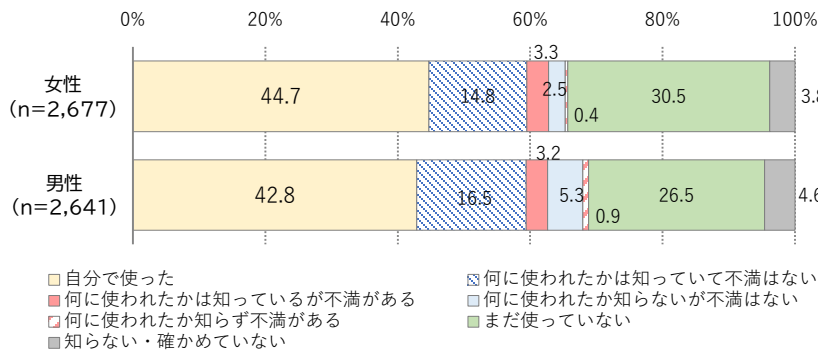
(本人票)



	自分で使った	自分で使っていない	
		不満はない	不満がある
女性 (n=1,339)	37.7%	18.8%	5.4%
男性 (n=1,329)	35.7%	23.3%	6.1%

※「知らない・確かめていない」「まだ使っていない」は除く

<小3以下の子供がいない人>



	自分で使った	自分で使っていない	
		不満はない	不満がある
女性 (n=2,677)	44.7%	17.3%	3.7%
男性 (n=2,641)	42.8%	21.8%	4.1%

※「知らない・確かめていない」「まだ使っていない」は除く

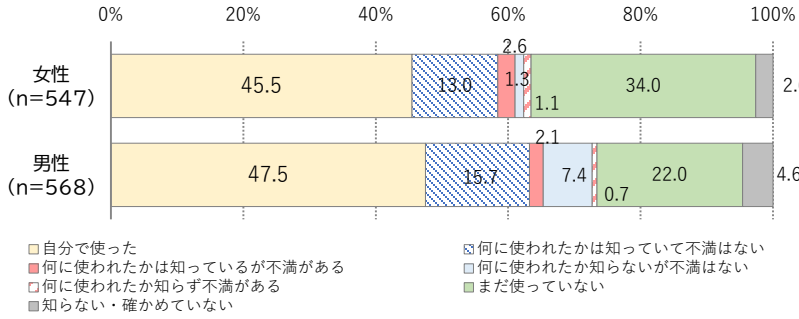
- 「有配偶者の小3以下の子供有無」で見ると、「自分で使った」とした人は、「小3以下の子供がいる女性」で37.7%、「小3以下の子供がいる男性」で35.7%。また、「(自分が使っておらず)不満がある」とした人は、「小3以下の子供がいる女性」で5.4%、「小3以下の子供がいる男性」で6.1%。
- 「小3以下の子供がいない女性」では、「自分で使った」が44.7%、「小3以下の子供がいない男性」では、「自分で使った」が42.8%と、「小3以下の子供がいる男女」に比べて、「小3以下の子供がいない男女」の方が自分で使った割合が高い。

(2) 特別定額給付金(10万円)の利用状況

【世帯類型】

(本人票)

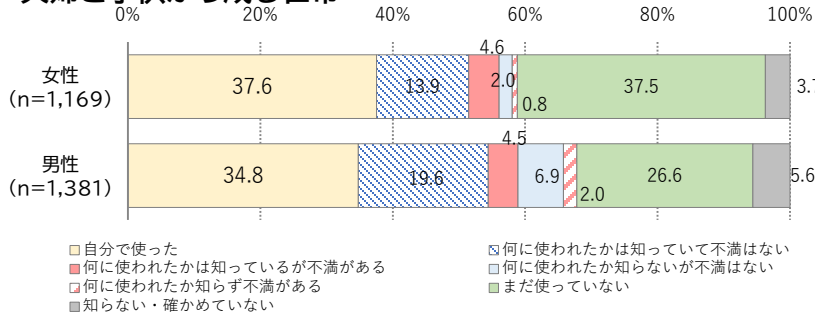
<夫婦のみ世帯>



	自分で使った	自分で使っていない	
		不満はない	不満がある
女性 (n=547)	45.5%	16.9%	3.7%
男性 (n=568)	47.5%	25.2%	2.8%

※「知らない・確かめていない」「まだ使っていない」は除く

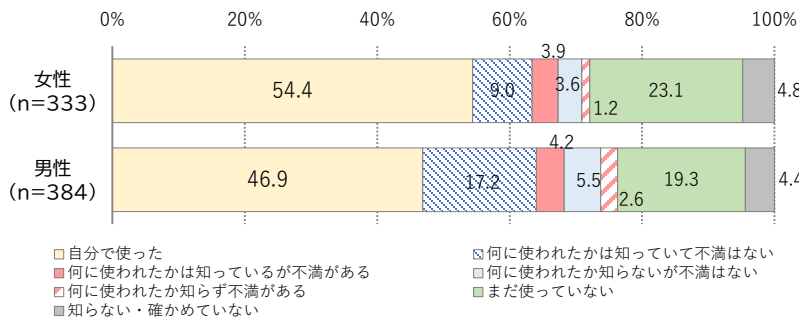
<夫婦と子供から成る世帯>



	自分で使った	自分で使っていない	
		不満はない	不満がある
女性 (n=1,169)	37.6%	15.9%	5.4%
男性 (n=1,381)	34.8%	26.5%	6.5%

※「知らない・確かめていない」「まだ使っていない」は除く

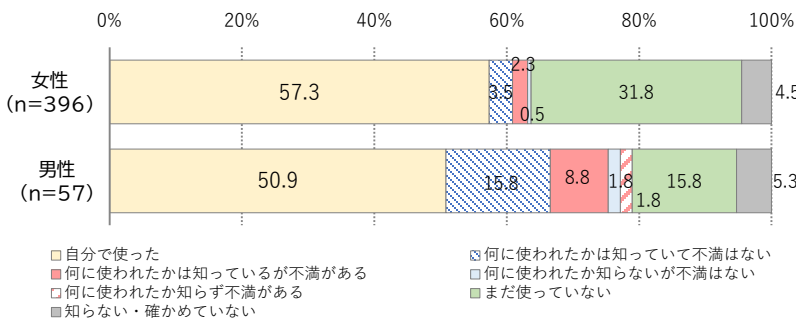
<三世帯世帯>



	自分で使った	自分で使っていない	
		不満はない	不満がある
女性 (n=2,486)	54.4%	12.6%	5.1%
男性 (n=2,433)	46.9%	22.7%	6.8%

※「知らない・確かめていない」「まだ使っていない」は除く

<母子・父子世帯>



	自分で使った	自分で使っていない	
		不満はない	不満がある
女性 (n=396)	57.3%	4.0%	2.3%
男性 (n=57)	50.9%	17.6%	10.6%

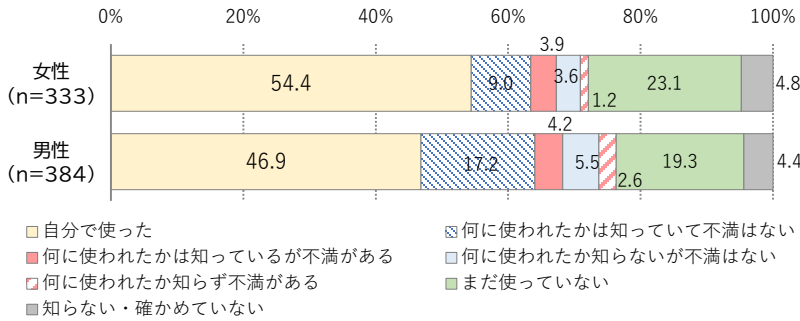
※「知らない・確かめていない」「まだ使っていない」は除く

- ・「夫婦のみ世帯」では、「自分で使った」とした人が、「女性」で45.5%、「男性」47.5%。
- ・「夫婦と子供から成る世帯」では、「自分で使った」とした人が、「女性」で37.6%、「男性」で34.8%。
- ・「三世帯世帯」では、「自分で使った」とした人が、「女性」で54.4%、「男性」で46.9%。
- ・「母子世帯(女性)」では、「自分で使った」とした人が57.3%と、全ての世帯の中で最も高い。

(2) 特別定額給付金(10万円)の利用状況

【年収の変化別】

<世帯年収に変化無し>

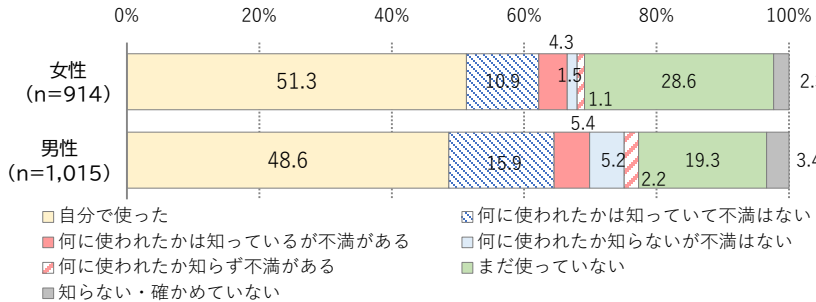


(本人票)

	自分で使った	自分で使っていない	
		不満はない	不満がある
女性 (n=952)	47.9%	10.2%	3.5%
男性 (n=1,385)	50.1%	17.2%	3.4%

※「知らない・確かめていない」「まだ使っていない」は除く

<世帯年収減>



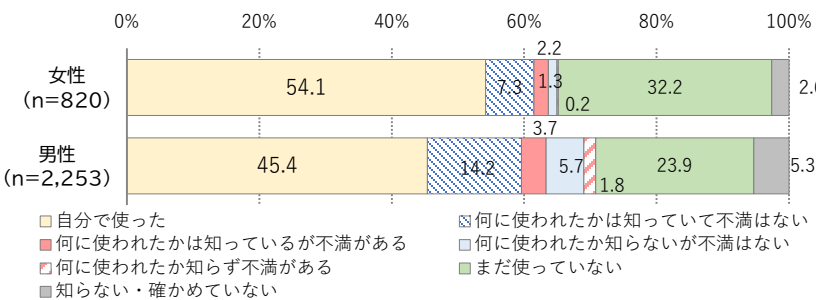
	自分で使った	自分で使っていない	
		不満はない	不満がある
女性 (n=914)	51.3%	12.4%	5.4%
男性 (n=1,015)	48.6%	21.1%	7.6%

※「知らない・確かめていない」「まだ使っていない」は除く

- 世帯年収の変化別で見ると、「世帯年収が減った人」では、「女性」で「不満はない」が12.4%、「男性」21.1%に対し、「世帯年収に変化がない人」では、「不満はない」が「女性」10.2%、「男性」17.2%。

【有業者 雇用形態別】

<正規雇用>

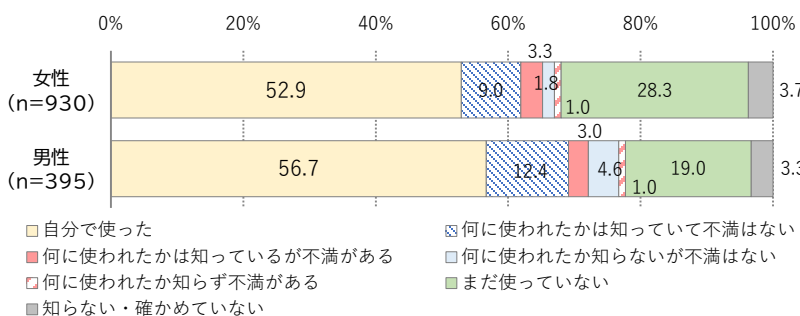


(本人票)

	自分で使った	自分で使っていない	
		不満はない	不満がある
女性 (n=820)	54.1%	8.6%	2.4%
男性 (n=2,253)	45.4%	19.9%	5.5%

※「知らない・確かめていない」「まだ使っていない」は除く

<非正規雇用>



	自分で使った	自分で使っていない	
		不満はない	不満がある
女性 (n=930)	52.9%	10.8%	4.3%
男性 (n=395)	56.7%	17.0%	4.0%

※「知らない・確かめていない」「まだ使っていない」は除く

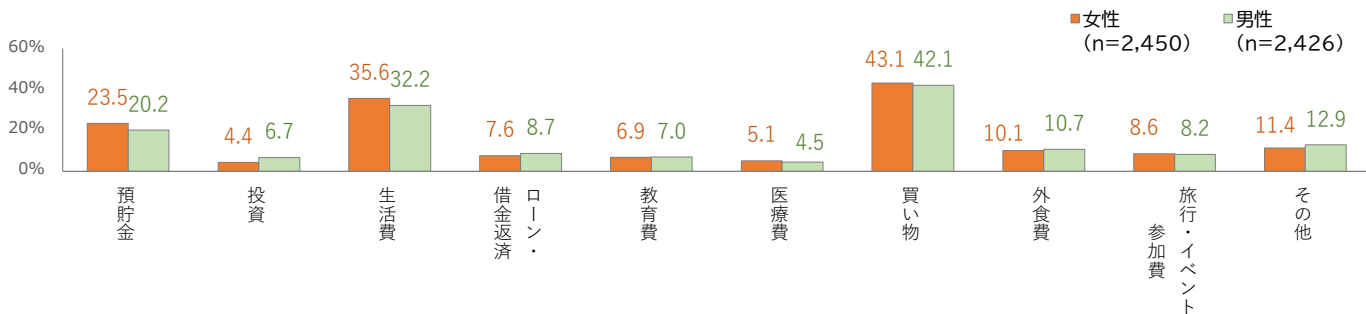
- 「有業者の雇用形態別」で見ると、「正規雇用の女性」では、「自分で使った」が54.1%、「正規雇用の男性」では45.4%。また、「(自分が使っておらず)不満がある」とした人は、「女性」で2.4%、「男性」で5.5%。
- 「非正規雇用の女性」では、「自分で使った」が52.9%、「非正規雇用の男性」では、「自分で使った」が56.7%。

(3) 特別定額給付金利用者の利用用途

※特別定額給付金を使用しており、利用用途を知っている人のみ

【有配偶者】

(本人票 + 配偶者票)

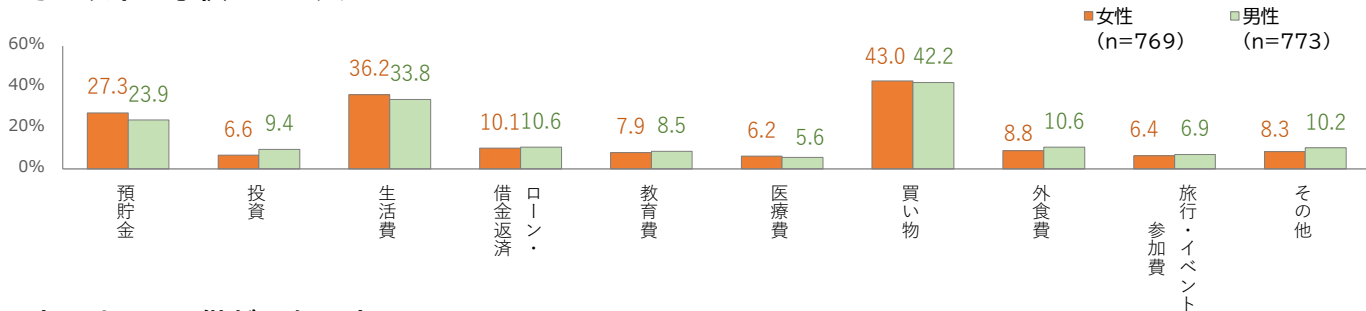


- 有配偶の男女別にみると、特別定額給付金の利用用途として大きな傾向の差はない。
- 全体で最も高いのは男女ともに「買い物」。次いで「生活費」、「預貯金」の順で高い。

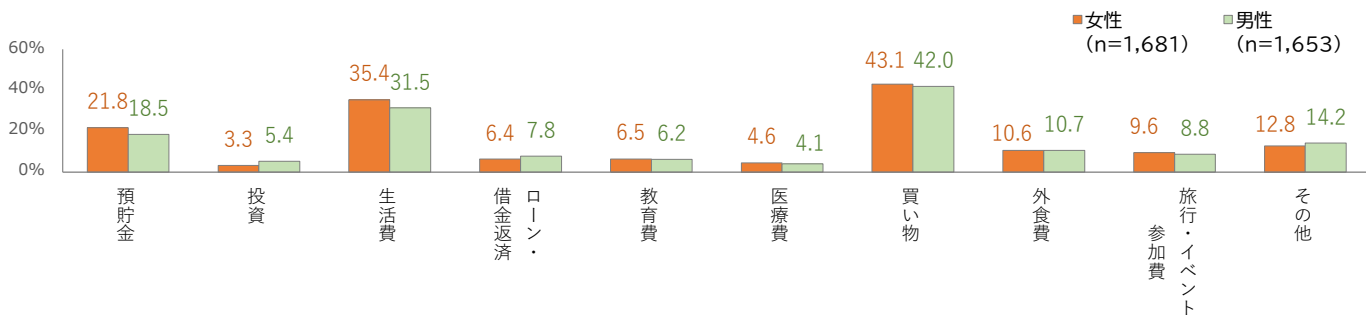
【有配偶者 小3以下の子供有無】

(本人票 + 配偶者票)

<小3以下の子供がいる人>



<小3以下の子供がいない人>



- 有配偶者のうち小3以下の子供の有無別にみると、傾向に大きな差は見られないものの、「小3以下の子供がいる人」の方が「男女」ともに「預貯金」の割合が5ポイント以上高い。

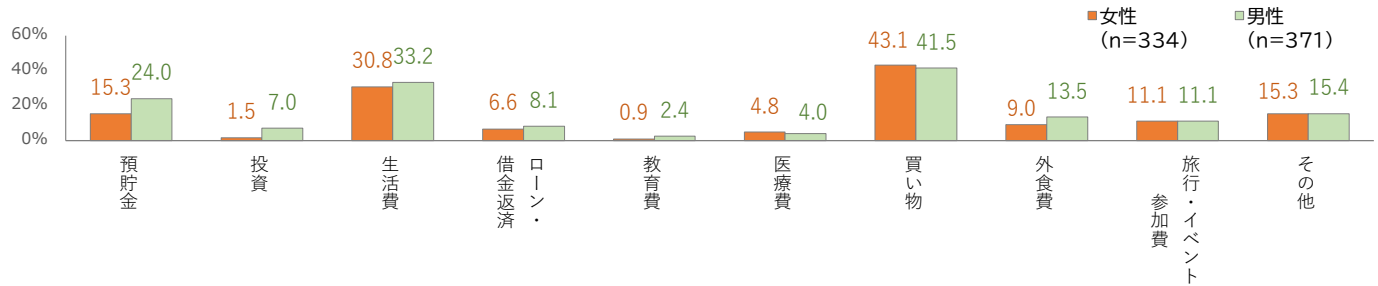
(3) 特別定額給付金利用者の利用用途

※特別定額給付金を使用しており、利用用途を知っている人のみ

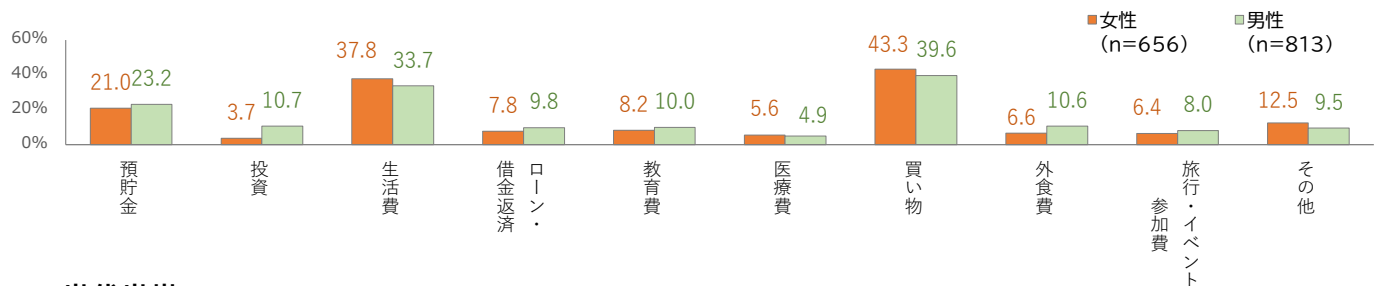
【世帯類型】

<夫婦のみ世帯>

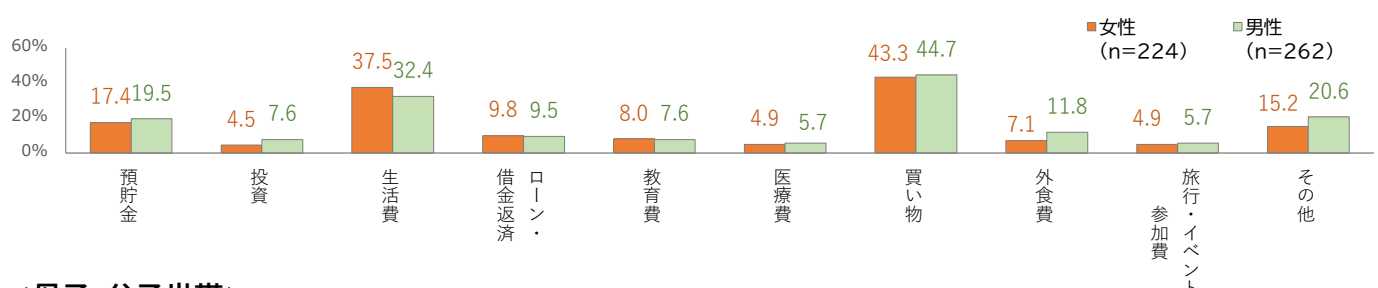
(本人票)



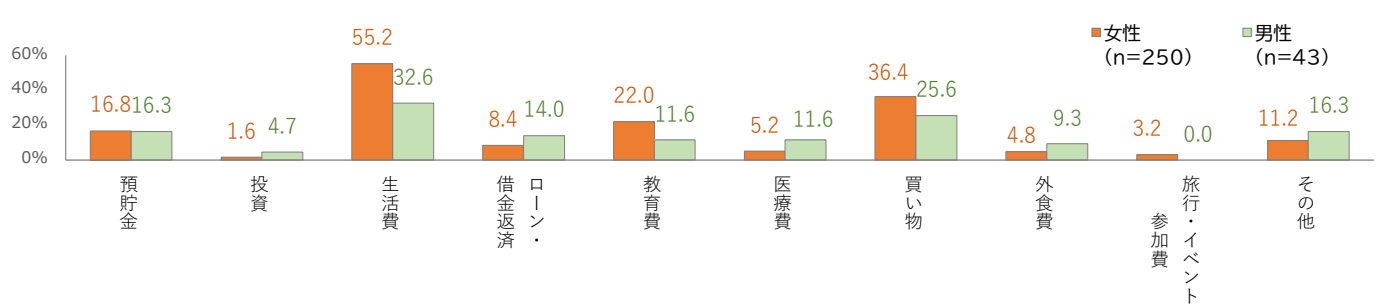
<夫婦と子供から成る世帯>



<三世帯世帯>



<母子・父子世帯>



- ・「夫婦のみ世帯」「夫婦と子供から成る世帯」「三世帯世帯」では傾向は類似しており、利用用途として最も高いのは男女ともに「買い物」、次いで「生活費」、「預貯金」の順。
- ・「夫婦のみ世帯」では、「買い物」「生活費」の他、「外食費」は特に「男性」で高く、「旅行・イベント参加費」も他の世帯類型の値を上回る。
- ・一方で、「母子・父子世帯」では、特に「女性」で「生活費」が55.2%と半数を超える。また、「教育費」も「女性」で22.0%と他世帯を10ポイント以上上回る。「男性」では、「生活費」は他世帯と同様も、「買い物」は25.6%と他世帯の値を15ポイント程度下回る。「ローン・借入金返済」「教育費」「医療費」については、やや他世帯を上回る。

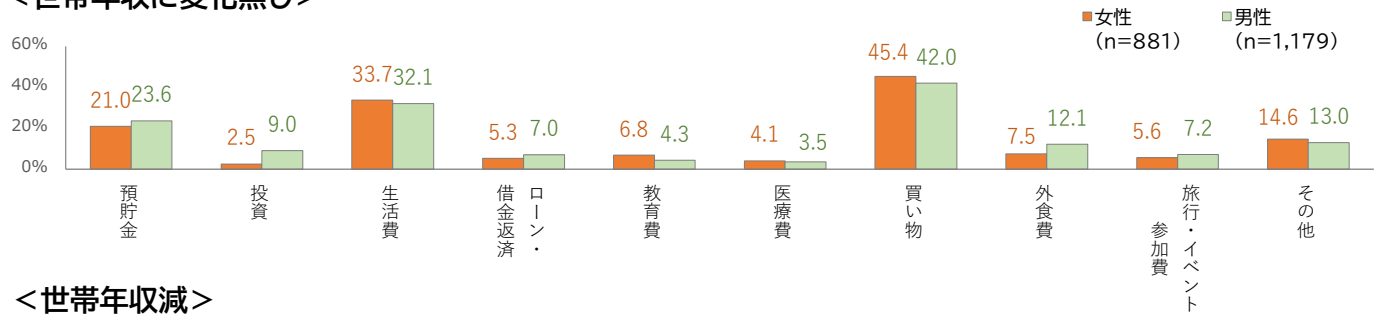
(3) 特別定額給付金利用者の利用用途

※特別定額給付金を使用しており、利用用途を知っている人のみ

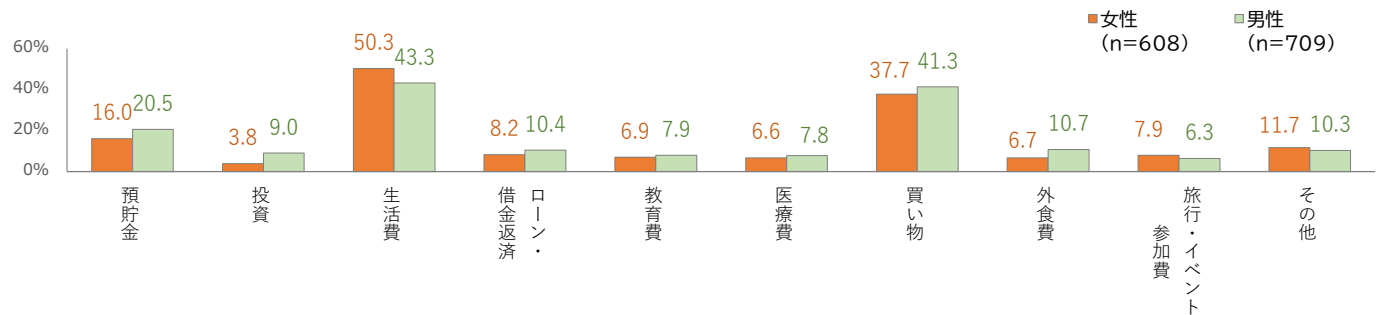
【年収変化別】

(本人票)

<世帯年収に変化無し>



<世帯年収減>

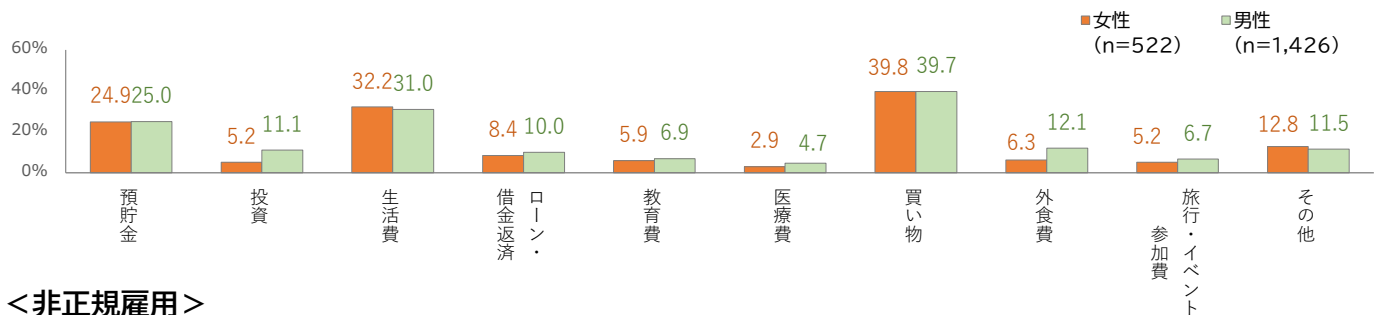


- 世帯年収が減った人のうち、利用用途として男女ともに最も高いのは「生活費」、次いで「買い物」。特に「女性」で「生活費」が50.3%と半数を占める。
- 世帯年収に変化がない人は、世帯年収が減った人と比べ、男女ともに「生活費」の値が低く、「女性」では「買い物」が高い。「男性」はやや分散しているが、「預貯金」「外食費」が少し高い。

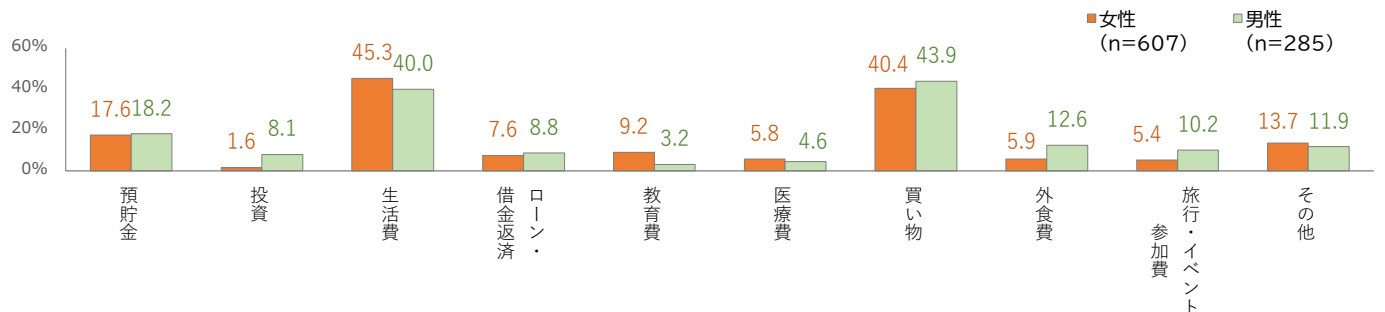
【有業者 雇用形態別】

<正規雇用>

(本人票)



<非正規雇用>



- 「正規雇用者」では、「買い物」が男女ともに40%弱と最も高く、次いで「生活費」「預貯金」の順。
- 一方で、「非正規雇用者」では、「生活費」「買い物」が男女ともにそれぞれ40%を超え、「預貯金」は20%を下回る。

4. コロナ下における給付金受給・使用状況

分析結果まとめ

1. 各種給付金の受給状況について

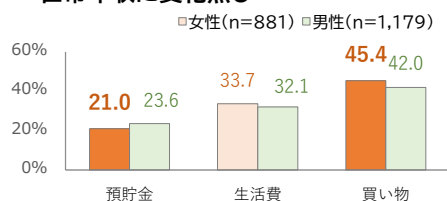
- 1 特別定額給付金を除く各種給付金の受給として、何かしらの給付金を受けた割合は女性で**40.1%**、男性**33.0%**と、女性で高い。
- 2 世帯類型別では、「母子世帯」で他世帯と比べ受給率は高く**65.7%**。次いで「夫婦と子供から成る世帯」で46～51%。「夫婦のみ世帯」は25%以下。
- 3 世帯年収が減少した世帯において、「給付金を受けた」のは45～47%（収入に変化のない世帯は29～37%）。「収入減少者、経済的困窮者向け給付金」の割合が高い。

- 特別定額給付金以外の給付金について、何かしらの給付金を受けた人は「女性」で40.1%、「男性」で33.0%と、「女性」が上回る。受けた給付金として多いのは、男女ともに「子育て関係の給付金」も、「女性」22.3%、「男性」14.0%と8ポイントの差。
- 世帯類型別には、「母子世帯」では65.7%の人が給付金を受けており、次いで高かった「夫婦と子供から成る世帯の女性」で51.2%。特に、「子育て関係の給付金」が「母子世帯」の半数超が受給、また「収入減少者・経済的困窮者向け」の給付金は7.1%と全体の割合は少ないが、他世帯と比べ高い。
- 受給率は、「世帯年収が減った女性」で47.3%（年収変化無し女性は37.1%）、「世帯年収が減った男性」で45.1%（変化無し男性は28.7%）と、年収が減った人の方が受給率が高い。受給した給付金は、「収入減少者・経済的困窮者向け」の給付金が「女性」で8.1%、「男性」で11.1%と、年収に変化がない人と比べ顕著に高い。

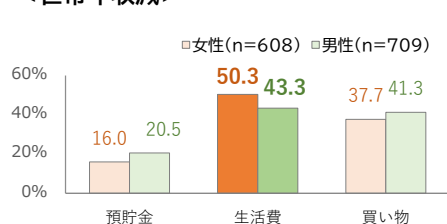
2. 特別定額給付金の利用状況と利用用途

- 1 特別定額給付金の利用状況は、「自分で使った」割合は「小3以下の子供がいる人」「夫婦と子供から成る世帯」で低く、「世帯年収が減った人」「母子・父子世帯」で高い。
- 2 利用用途として、母子世帯では「生活費」が55.2%、「教育費」が22%にのぼるも、「夫婦と子供から成る世帯の女性」では「生活費」37.8%、「教育費」8.2%にとどまる。
- 3 世帯年収減少者は「生活費」としての利用割合が高く、「預貯金」「買い物」は、年収に変化のない人と比べ低い。また、正規雇用・非正規雇用者の間にも同様の傾向がみられる。

<世帯年収に変化無し>



<世帯年収減>



- 特別定額給付金を自分で使った割合は、「小3以下の子供がいる人」で低く、「小3以下の子供がいない人」と比べ男女ともに7ポイント程度の差。同様に、世帯類型別でみると、「夫婦と子供から成る世帯」で「自分で使った割合」が男女ともに最も低く、4割を下回る。反対に、自分で使った割合が高いのは、「母子世帯」や「世帯年収が減った女性」で高く、51～57%。
- 利用用途としては、「母子世帯」では「生活費」が55.2%と半数超、「教育費」で22.0%を占めるが、「夫婦と子供から成る世帯」はそれぞれ37.8%、8.2%と15ポイント程度の差がある。
- 同様に、「世帯年収が減った人」は「世帯年収に変化がない人」と比べ、「生活費」への利用割合が高く、「預貯金」「買い物」の割合が少ない。同様の傾向は「正規雇用」「非正規雇用」の間にも見られ、母子世帯や非正規雇用者≒世帯年収が減った人 という関係があると考えられ、経済的に苦しい立場にある人は、当座の生活費として利用されていると考えられる。